

日本美術史（12351）

後期

History of Japanese Art

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 神原正明

授業の概要

日本美術の流れに沿って縄文から現代までをたどる。美術史は個々の作品の蓄積によって成り立っているが、ここでは作品の個々の紹介よりもそれが生み出された時代精神にポイントを置いて講義を進めていく。外来文化の影響も重要で、中国・インド・朝鮮半島からの文化の伝来、さらには西洋との出会いを経て、その中から日本独自の文化を生み出していくようすを理解してほしい。絵画、彫刻、工芸、考古、建築、庭園、書、映像、デザイン等にまたがる日本美術の歴史を、グローバルな視点から日本美術の特質について考察する。岡倉天心・柳宗悦・岡本太郎・加藤周一などの発言をふまえながら日本文化とは何かを掘り下げていきたい。全体の構成は加藤周一監修による「日本その心とかたち」に基づき、スタジオジブリから出されたDVDを補助教材として用いる。

到達目標

1 日本美術史についての基本的な知識を習得し、背景の歴史や文化を理解することができる。

評価方法

毎週の授業に取り組む姿勢(40%)、試験かレポート(60%)による評価。

注意事項

各地で行われる日本美術の展覧会や社寺仏閣などの文化財を積極的に訪れること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.日本文化とは
- 3.縄文の造形
- 4.仏教美術の時代
- 5.鎌倉リアリズム
- 6.室町の水墨画
- 7.桃山ルネサンス
- 8.茶の美術
- 9.浮世絵の美
- 10.江戸の幻想
- 11.江戸から東京へ
- 12.外来文化の受容
- 13.再び日本文化とは
- 14.作品鑑賞
- 15.まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・前もって教科書を読みこんで問題点を整理しておく。
- ・各地の美術館で行われる日本美術の展覧会を通じてオリジナルの作品に触れる。
- ・毎週の講義を200字程度でまとめておき、最後に概略を提出する。

教科書

参考書

加藤周一『日本 その心とかたち [DVD]』スタジオジブリ
辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

備考

ファッション文化史（12207）

前期

History of Fashion Culture

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 正宗幸子

授業の概要

芸術の基礎的な知識を身に着ける科目として位置付けている。

ファッションの特徴や、その背景となる社会や経済を学び、現在のデザインソースを知る。

また、今後のデザイン活動に活かす。

到達目標

- 1 ファッション文化の変換を理解し、現在のファッションに反映されているデザインを確認できる。
- 2 今後のファッションの変換を予測できる。

評価方法

レポートなどの提出物 5 0 %。プレゼンテーション、授業に取り組む姿勢 5 0 %

注意事項

毎回、授業の中でレポートを作成し、提出をする。視察のために学外で授業を行うことがある。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	2 0 2 0 AWのトレンド情報と予測
第3回	古代ギリシャ・ローマの服装
第4回	ビザンツ帝国の服装
第5回	ゲルマン民族の服装
第6回	中世ヨーロッパの服装（9 - 1 2 世紀）
第7回	中世ヨーロッパの服装（1 3 - 1 5 世紀）
第8回	校外視察 1 （7 月 1 8 日実施）
第9回	1 5 世紀のイタリアの服装
第10回	1 6 ・ 1 7 世紀の服装
第11回	1 8 ・ 1 9 世紀の服装
第12回	デニムの歴史（世界・岡山）
第13回	2 0 世紀の服装
第14回	校外視察 2
第15回	総括

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

日常生活の中から、多様なデザイン情報をインプットする事を習慣し、自己の得意分野の可能性を模索する。

教科書

文化学園購買部 ファッション史 改訂版・西洋服装史概説

参考書

織研新聞

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 下尾邦之

授業の概要

- ・デザイン、美術工芸両分野の諸領域を融合した総合的なデザイン芸術の基礎的、応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・今日のデザインの重要なテーマの一つである「サステイナブルデザイン」について理解を深め、デザインの力で環境保護に貢献する知識の習得とサステイナブルデザインへの問題意識の内在化を目標とする。実際の暮らしの中で触れるさまざまな素材（樹脂、金属、木材、紙、布、新素材等）について新たなスタンスで捉えながら、改めて素材と機能と形との関係について理解を深め、今後の創作において活用できるようにする。

到達目標

- 1 サステイナブルデザインについて理解できる。
- 2 素材に対する知識を身につけ応用できる。
- 3 環境配慮のものづくり意識を内在化できる。

評価方法

授業レポートA（毎回提出）：2 0 %、授業レポートB（1 5 回分を定期試験日に提出）：2 0 %、研究課題：2 0 %、定期試験：4 0 % の割合で評価する。

注意事項

- ・授業終了時に授業レポートAを提出することで出席扱いとする。また、素材関連ニュースおよび環境問題関連ニュースのサマリーを前回授業終了からの学外授業として評価する。
- ・視察等のため学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部は集中授業の形式で行う場合があるので日程に注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	サステイナビリティと素材（樹脂）1
第3回	サステイナビリティと素材（樹脂）2
第4回	サステイナビリティと素材（樹脂）3
第5回	サステイナビリティと素材（金属）
第6回	サステイナビリティと素材（木材）
第7回	サステイナビリティと素材（紙・布）
第8回	サステイナビリティと素材（新素材）
第9回	サステイナビリティと環境グラフィック
第10回	演習1：新素材の応用による、身近なテーマのデザイン提案1：素材研究と用途開発
第11回	演習2：新素材の応用による、身近なテーマのデザイン提案2：開発デザインとプレゼンテーション
第12回	学外授業1

回数	内容
第13回	学外授業 2
第14回	学外授業 3
第15回	総括

授業外学習

- ・授業内容理解確認シート及びテキストを配布するので、予習・復習を心がけること。
- ・次の授業までの1週間で、気になった素材関連ニュースあるいは環境問題関連ニュースのサマリーと考察をまとめておき、次の授業レポートに記すこと。
- ・学習時間の目安：合計60時間

教科書

- ・素材とデザインの教科書 第3版 日経デザイン (著)

参考書

- ・オリジナルの資料を配付
- ・適宜紹介する。

備考

デザイン技法演習 I（12501）

前期

Design Technique Stdio I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 為藤良介

授業の概要

- ・芸術の基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・様々なデザインおよびアート活動において基礎となる写真技法を演習形式で学ぶ。
- ・カメラの基本操作の習得とともに風景、ポートレート、商品などのテーマで撮影を行う。

到達目標

- 1 基礎的な写真技法を理解し、1眼レフデジタルカメラを使うことができる。
- 2 デザインおよびアート制作のための撮影ができる。

評価方法

- ・到達目標1は授業内での態度・姿勢、2は最終の課題作品により評価し総合計60点以上を合格とする。
- ・評価の比率は、態度・姿勢50%、課題作品50%を基準とする。

注意事項

- ・高価な機器を使用するため取り扱いには十分注意すること。
- ・撮影や調査等のために学外で授業を行うことがある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 講師紹介
第2回	風景撮影 1：風景撮影の基本
第3回	風景撮影 2：近景
第4回	風景撮影 3：遠景
第5回	ポートレート撮影 1：ポートレート撮影の基本
第6回	ポートレート撮影 2：屋外撮影
第7回	ポートレート撮影 3：スタジオ撮影
第8回	商品撮影 1：商品撮影の基本セッティング、ライティング
第9回	商品撮影 2：製品の基本的な撮影
第10回	商品撮影 3：製品の演出的な撮影
第11回	商品撮影 4：反射、透過する素材の製品の撮影
第12回	動画撮影・編集 1：動画撮影の基本
第13回	動画撮影・編集 2：撮影
第14回	動画撮影・編集 3：簡易編集
第15回	講評とまとめ

授業外学習

- ・授業時間内で完成しない演習課題は、宿題として次回までに完成させること。
- ・学習時間の目安：合計30時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

デザイン技法演習Ⅱ（12355）

後期

Design Technique Stdio Ⅱ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 岡崎遼太郎  ムラカミヨシコ

授業の概要

- ・デザインに関する基礎的な知識と技術力を身につける科目として位置付けている。
- ・デザイン技法のうち、Webおよびプレゼンテーションについて基礎を学修する。
- ・Web技法では、情報デザインの概要を学び、演習を通してWebの基本技術を修得する。
- ・プレゼンテーション技法では、実社会で行われているプレゼンテーションの概要を学び、演習を通してプレゼンテーションの基本技術を修得する。

到達目標

Webの基本技術およびプレゼンテーションの基本技術を理解できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 5 0 %、提出作品 5 0 %の割合で評価する。

注意事項

- ・調査等のため学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部分は集中授業の形式で行う場合があるので日程に注意すること。

授業計画

- 1週目：Web技法オリエンテーション（岡崎）
- 2週目：Web技法 1：概論「ウェブの歴史・概要」（岡崎）
- 3週目：Web技法 2：基礎 1「ウェブサイト制作について」（岡崎）
- 4週目：Web技法 3：基礎 2「UI・UX設計」（岡崎）
- 5週目：Web技法 4：基礎 3「デザインシステムと情報」（岡崎）
- 6週目：Web技法 5：演習 1（岡崎）
- 7週目：Web技法 6：演習 2（岡崎）
- 8週目：Web技法 7：まとめ・プレゼンテーション（岡崎） プレゼンテーション技法 1：オリエンテーション（ムラカミ）
- 9週目：プレゼンテーション技法 1：オリエンテーション（ムラカミ）
- 10週目：プレゼンテーション技法 2：プレゼンテーションの実際 1（ムラカミ）
- 11週目：プレゼンテーション技法 3：プレゼンテーションの実際 2（ムラカミ）
- 12週目：プレゼンテーション技法 4：プレゼンテーション技術 1（ムラカミ）
- 13週目：プレゼンテーション技法 5：プレゼンテーション技術 2（ムラカミ）
- 14週目：プレゼンテーション技法 6：プレゼンテーション実施（ムラカミ）
- 15週目：プレゼンテーション技法 7：まとめ（ムラカミ）

授業外学習

- ・演習課題の制作は授業外学習とする。
- ・毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
- ・学習時間の目安：合計30時間

教科書

使用しない。

参考書

参考資料は適宜紹介する。

前期

芸術学部 デザイン芸術学科

備考

博物館概論（12401）

前期

Introduction to Museology

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 松岡智子

授業の概要

本講義では導入として博物館の定義、機能、制度等について学び、発達の歴史と現状を世界と日本の博物館から代表的なものを事例に挙げ比較検討する。また、博物館を支える学芸員の役割について授業やボランティア活動活動を通して学ぶ。

到達目標

- 1．博物館についての基本的な考え方について、定義や目的、機能、制度等の幅広く多様な視点から理解し説明できる。
- 2．博物館発達の歴史及び課題について、日本並びに欧米、アジアの事例を比較することにより違いを理解し説明できる。
- 3．博物館でのボランティア活動を通じて、博物館を支える側及び利用者側の実態を把握し、課題を発見し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト 3 0 % (到達目標 1、2 を評価)、ボランティア活動 2 0 % (到達目標 3 を評価)、定期試験 5 0 % (到達目標 1、2 を評価)により成績を評価し、総合点 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

ボランティア活動の体験をふまえ、「科学博物館における教育普及活動」に関するレポートを提出すること。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。調査等のため学外での授業を行うことがある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	博物館学とは何かー博物館学の目的と構成、研究方法
第3回	博物館の定義と機能
第4回	博物館の制度
第5回	博物館の歴史と現状(1) ヨーロッパ1；博物館の起源(古代・中世)
第6回	博物館の歴史と現状(2) ヨーロッパ2；18世紀～第二次世界大戦
第7回	博物館の歴史と現状(3) ヨーロッパ3；ポストモダン時代のミュージアム
第8回	博物館の歴史と現状(4) アメリカ
第9回	博物館の歴史と現状(5) アジア
第10回	博物館の歴史と現状(6) 日本; 近代博物館前史(奈良～江戸)
第11回	博物館の歴史と現状(7) 日本；明治～現代
第12回	博物館の歴史と現状(8) 博物館の政治学
第13回	学芸員の役割(1) 学芸員の定義と基本的な業務内容について
第14回	学芸員の役割(2) ミュージアムの時代へ向けて
第15回	総まとめ；現代博物館の課題

授業外学習

学習時間の目安：合計 60 時間

- ・予習については、毎回講義の最後に教科書の頁を指示するので該当箇所をよく読み、紹介された美術館や博物館について書籍やインターネット等で調べておくこと。
- ・なお、各回の授業終了時に小テストを実施するので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。
- ・また、毎年 8 月に開催されるライフパーク倉敷科学センターでの「ライフパークの集い」におけるボランティア活動に、積極的に参加すること。

教科書

大堀哲・水嶋英治『博物館学』学文社、2014 年、ISBN978-4-7620-2284-5

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 松岡智子

授業の概要

博物館や美術館に収集・展示される資料の取り扱いについて、基本的な心構えや留意事項、さらに素材別(主に美術品、古文書、民俗資料、自然史標本等)についての基礎知識を学ぶ。

前半(第1～6回)は松岡が担当し、後半(第8～14回)は狩山が担当する。第11～14回では狩山が倉敷市立自然史博物館で集中講義を行い、植物標本の作製と植物図鑑の作成の指導をする。

15回目の総まとめの授業を松岡が行う。

到達目標

- 1．博物館資料の概念や素材別の取り扱いについての基本を理解し説明できる。
- 2．植物標本の作製と植物図鑑の作成を行うことができる。
- 3．倉敷市立自然史博物館でのボランティア活動を通して、実践的な博物館活動を他者に明確に説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト 3 0 %(到達目標 1 を評価)と、自然史資料の取り扱いにおける理論と実践に関するレポート 4 0 %(到達目標 2 を評価)、ボランティア活動報告書 3 0 %(到達目標 3 を評価)により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格点とする。

注意事項

4年次で博物館実習に参加することを前提とし、学芸員の役割や心構え、また、資料の扱い方についてこの講義によって十分に理解を深めること。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

また、倉敷市立自然史博物館講義室での集中講義(12月20～27日のうち1日)では、学生ひとり30円の観覧料と新聞紙2日分と定規(15～30 c m)を持参し、第8, 9, 10回の講義内容についてのレポートを狩山に提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー 博物館における資料とは (担当；松岡)
第2回	博物館資料の概念 (担当；松岡)
第3回	博物館資料の収集・整理・保管 (担当；松岡)()
第4回	大学における博物館 (担当；松岡)
第5回	博物館資料としての古文書 (担当；松岡)
第6回	博物館資料としての民俗 (担当；松岡)
第7回	自然史標本の活用ー倉敷市立自然史博物館でのボランティアを通して学ぶ (担当；狩山)
第8回	自然史資料の収集 (担当；狩山)
第9回	自然史資料の調査研究 (担当；狩山)
第10回	自然史資料の展示 (担当；狩山)
第11回	植物標本の作製と植物図鑑の作成 (担当；狩山、倉敷市立自然史博物館で集中講義)
第12回	植物標本の作製と植物図鑑の作成 (担当；狩山、倉敷市立自然史博物館で集中講義)

回数	内容
第13回	自然史資料の保存と活用(展示) (担当；狩山、倉敷市立自然史博物館で集中講義)
第14回	自然史資料の保存と活用(収蔵) (担当；狩山、倉敷市立自然史博物館で集中講義)
第15回	総まとめ－博物館資料の今後と課題 (担当；松岡)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習については、毎回講義の最後に教科書の頁を指示するので該当箇所をよく読んでおくこと。なお、各回の授業終了時に小テストを実施するので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。

11月3日に倉敷市立自然史博物館で開催される「博物館まつり」のボランティア活動には、授業の一環として参加し、報告書を提出すること。

教科書

大堀哲・水嶋英治 編著 『博物館学Ⅰ』 学文社 2014年 ISBN978-4-7620-2284-5

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

博物館経営論（12160）

後期

Theory of Museum Management

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 大塚雅広

授業の概要

芸術や科学の形成に欠かせないコレクションを保存・研究・展示する機関としての博物館・美術館を運営面から講義する。

到達目標

1 博物館の社会的・教育的役割を把握して、学生各自が博物館の諸活動を理解し説明できるようになる。

評価方法

授業態度による平常点20%。レポート30%。定期試験50%で評価する。

注意事項

学芸員資格取得のため必要な科目である。

授業計画

回数	内容
第1回	博物館と経営
第2回	博物館の経営基盤
第3回	博物館設置の条件
第4回	博物館の使命と経営
第5回	博物館の人材と組織
第6回	博物館倫理・行動規範
第7回	施設設備
第8回	博物館の危機管理
第9回	博物館の予算と経営
第10回	ミュージアム・マーケティング
第11回	博物館広報
第12回	ミュージアム・サービス
第13回	博物館の企画・運営(1)
第14回	博物館の企画・運営(2)
第15回	博物館における連携

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業内に示す「予習のためのキーキーワード」について次回の授業までに調べておく(各2時間)とともに、復習を徹底する(各2時間)。また、指定したテーマに対しレポートを提出する。

教科書

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 松岡智子

授業の概要

美術館・博物館の館長や学芸員をはじめとする関係者を特別講師に招き、施設の概要や管理・運営などに関する具体的な仕事の内容について、さらには、所蔵資料の保存・展示方法や展覧会、催し物に関する情報発信の仕方や来館者に対するサービスについての事例や問題点等を中心に語っていただく。なお、講義では参加者と講師による質疑応答の時間も取り入れる。

到達目標

1 美術館・博物館の管理・運営における具体的な活動、特に水族館や動物園も含む国内外の様々な博物館の資料に関する保存や展示方法について学ぶことにより、博物館全般の資料保存について幅広く多様な観点から理解し説明できるようになる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する確認テスト（4 0％）、レポート（6 0％）により成績を評価し、総合計6 0点以上を合格とする。

注意事項

各自で選択した博物館相当施設の見学を行う。博物館実習に参加することを前提とし、学芸員の役割や心構え、また、資料の扱い方及び保存方法についてこの講義によって十分に理解を深めること。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	犬養木堂記念館について（特別講師による）
第3回	ライフパーク倉敷埋蔵文化センターについて（特別講師による）
第4回	ライフパーク倉敷市民学習センターについて（特別講師による）
第5回	ライフパーク倉敷教育センターについて（特別講師による）
第6回	ライフパーク倉敷科学センターについて（特別講師による）
第7回	ライフパーク倉敷情報学習センターについて（特別講師による）
第8回	倉敷市立自然史博物館について（特別講師による）
第9回	玉野海洋博物館について（特別講師による）
第10回	大原美術館について
第11回	日本の水族館について
第12回	世界の動物園について
第13回	ヨーロッパの博物館における新たな方向性について
第14回	博物館における民族表象について
第15回	博物館資料保存論のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習については、紹介された美術館・博物館に関する情報をインターネット等で調べておくこと。また、各回の講義終了後、講義内容に関して考察したレポートを提出してもらうので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

博物館展示論（12604）

通年

Museum Display

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 松岡智子  吉崎和彦

授業の概要

本科目では、博物館の基本的な機能である「展示」を理解するために、前半(第2～8回、担当；松岡)においては、グループで見学を希望する博物館を選択し、美術館、歴史博物館、自然史博物館、水族館、動物園等でのフィールドワークを行い、パワーポイントで資料を作成しプレゼンテーションをし、それに対して全体討議を行う。

【アクティブ・ラーニング】グループ・ワーク、フィールド・ワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

(第1～7回、14回 担当；松岡)

この講義では現代美術の展覧会に焦点を当てて、その様々な形式や政治性について事例を通して学び、展覧会とは何かについて考える。

まず展覧会の歴史やその実験的な試み、そして展覧会のもつ政治性について学ぶ。次に、展覧会がどのように作られているのかについて具体的な事例を挙げて紹介した後、実際に架空の展覧会を構想する演習を行う。最後に、近年日本中で開催されている都市・地域のアートフェスティバルについて考え、社会におけるミュージアムの役割について学ぶ。

(第9～14回、担当；吉崎)

到達目標

- 1．フィールドワークにより様々な博物館の展示方法を発見し説明することができる。(松岡)
- 2．学芸員資格に関するその他の科目(博物館学概論、博物館資料論、博物館経営論、博物館教育論、博物館情報・メディア論、生涯学習概論)との相互補完性も高まり博物館について総合的に理解し説明できる。(松岡)
- 3．展覧会について理論と実践の両方から学び、展覧会の作り方、学芸員の仕事、美術館・博物館の機能について理解し説明できる。(吉崎)

評価方法

グループ活動・プレゼンテーション50%(到達目標1を評価)と、演習への参加状況50%(到達目標3を評価)に基づいて総合的に評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であり、受講生は4年次の博物館実習を前提としているため、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について (担当；松岡)
第2回	博物館展示のコンセプトと具現化について 【グループワーク】 (担当；松岡)
第3回	美術館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第4回	科学博物館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第5回	水族館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第6回	動物園における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第7回	全体討議とプレゼンテーションにおける講評や省察などのフィードバックを含めた事後指導・総括 (担当；松岡)
第8回	展覧会とは何か (担当；吉崎)
第9回	展覧会の政治性ー「他者」を表象することについて (担当；吉崎)

回数	内容
第10回	展覧会の作り方ー構想から実施まで (担当；吉崎)
第11回	「地域アート」について (担当；吉崎)
第12回	社会におけるミュージアムの役割(担当；吉崎)
第13回	海外の博物館における展示の事例（担当；松岡)
第14回	海外の美術館における展示の事例（担当；松岡)
第15回	まとめ； ミュージアム展示の新たな方向性 （担当；松岡)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・グループで博物館の展示に関するフィールド・ワークを行い、プレゼンテーションのための資料作成を行い提出する。

教科書

特に使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 谷一尚

授業の概要

日本と世界のガラスと陶磁の歴史・技法・魅力について、スライドをまじえ多角的に講義し、その良さを知覚させることを目的とする。

到達目標

将来作家にならなくても、ガラスや陶磁を鑑賞する習慣や暮らしの中で使用する楽しさを理解し説明できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢と試験で評価を行う。評価は、受講態度（５０％）、試験（５０％）の割合で評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

- 第1回 ガラスと陶磁の起源
- 第2回 前2千年紀のガラス
- 第3回 前 1 千年紀のガラス
- 第4回 ローマとササン、シルクロードのガラス
- 第5回 イスラームと近現代のガラス
- 第6回 オリエントとギリシア、ローマの陶器
- 第7回 先史～唐の中国陶磁
- 第8回 宋～清の中国陶磁
- 第9回 イスラーム陶器
- 第10回 欧の陶磁と現代世界の陶芸
- 第11回 縄文、弥生～六古窯
- 第12回 桃山と江戸の茶陶
- 第13回 伊万里、柿右衛門、鍋島
- 第14回 京焼、仁清と乾山
- 第15回 明治～現代日本の陶芸

授業外学習

授業で話した展覧会や制作地へできるだけ足を運ぶ。

学習時間の目安：合計60時間

教科書

特になし

参考書

谷一尚他『カラー版世界ガラス工芸史』美術出版社、長谷部楽爾他『カラー版世界やきもの史』美術出版社、矢部良明他『カラー版日本やきもの史』美術出版社

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 秋吉康晴

授業の概要

古代ギリシアから現代にいたるまで、美や芸術をめぐってさまざまに展開されてきた先人の思索を概観する。そこで取り上げられてきた諸問題を整理し、美学や芸術学の基本となる諸概念を説明する。

到達目標

1 学生ひとりひとりが、美学、芸術学の抽象的理論を、自分自身の美や芸術に関わる体験とむすびつけて理解し、自分に必要な問題を自分で考えることができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題レポート、期末レポートによって評価する。課題レポート（４０％）、期末レポート（６０％）の重み。

注意事項

所定の提出物が一つでも欠けた場合は、E判定。

授業計画

回数	内容
第1回	科目の紹介、受講生に対する美や芸術に関わる体験についてのアンケート実施
第2回	さまざまな問題：アンケート結果から、美学や芸術学の領域の諸問題を抽出
第3回	「感性的認識の学」としての美学
第4回	18世紀における美学の成立と、その契機たる「芸術」概念の成立
第5回	「芸術」概念成立以前
第6回	美的判断の主観性と普遍性
第7回	美のさまざまな諸相：機能美、感覚美ほか
第8回	日常の感覚と「純粹感覚」
第9回	美とかたち
第10回	美とイデア
第11回	再現描写と自己表出
第12回	感情移入と抽象
第13回	制作と受容
第14回	複製技術と芸術
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

美術館等を鑑賞しレポートを提出する。

教科書

なし

参考書

浅沼圭司『ゼロからの美学』、東京：勁草書房、2004年、ISBN:4326153792
佐々木健一『美学事典』、東京：東京大学出版会、1995年、ISBN:4130802003
その他、適宜紹介する。

備考

デザイン概論（12153）

後期

Introduction to Design

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 クリスウォルトン  柳田宏治  吉田磨希  後藤秀典  正宗幸子

授業の概要

- ・デザイン領域各分野の基礎的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザイン領域の諸分野について、それぞれの分野の専門家から概論、実社会のデザインの仕事の内容、及び在学中4年間の学修方法を学ぶ。
- ・【フィードバック】毎回提出するレポートに対するフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 デザイン領域各分野の概論、仕事、学修方法を理解できる。
- 2 デザイン領域各分野に関する知識を身につく。

評価方法

レポートやプレゼンテーション等の提出物50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

- ・毎回、授業の中でレポートを作成し提出する。
- ・視察等のため学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 1.オリエンテーション（ウォルトン・吉田・後藤・柳田・正宗）
- 2.イラストレーション分野の概論1（ウォルトン）
- 3.学内展示会公開プレゼンテーション聴講（ウォルトン・吉田・後藤・柳田・正宗）
- 4.イラストレーション分野の概論2（吉田）
- 5.イラストレーション分野の概論3（ウォルトン・吉田）
- 6.ビジュアルデザイン分野の概論1（後藤）
- 7.ビジュアルデザイン分野の概論2（後藤）
- 8.ビジュアルデザイン分野の概論3（後藤）
- 9.生活プロダクト分野の概論1（柳田）
- 10.生活プロダクト分野の概論2（柳田）
- 11.生活プロダクト分野の概論3（柳田）
- 12.ファッション・テキスタイル分野の概論1（正宗）
- 13.ファッション・テキスタイル分野の概論2（正宗）
- 14.ファッション・テキスタイル分野の概論3（正宗）
- 15.総括（ウォルトン・吉田・後藤・柳田・正宗）

授業外学習

- ・デザインは日常生活の中に存在しているので、日常生活の中からも常に多様なデザイン情報をインプットすることができる。これを基本的な習慣にすること。
- ・デザイン関連の書籍や雑誌、WEB、イベントなど、様々な機会に積極的に接して常にデザインに関する議論に接し考察すること。
- ・学習時間の目安：合計60時間

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

デザイン芸術特論 I (12606)

前期

Advanced Art and Design I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	加藤公敬 辻信行 山出淳也 長谷川新

授業の概要

デザインやメディア映像関連ビジネス及び、芸術の最前線の議論を通して実践のプロセスや方法論を学び、総合的なデザイン・芸術の基礎的応用的な知識および技能を身につける。

<1-4.社会的テーマへの事例研究を通して、デザイン戦略について学ぶ。／加藤 公敬>

<5-7 地域や社会におけるアートの可能性や役割を考察する：担当 山出 淳也>

<8-11「デザインとは」を考え続けるための、きっかけづくり：担当 辻 信行>

色・形だけにとらわれず、誰のための何のためのデザインなのか、デザインの本質、その入り口に触れる

<12-15.作品の分析、展覧会の分析を実践的に学ぶ。／長谷川 新>

到達目標

1 デザインやメディア映像分野のビジネス及び、芸術の最前線について、説明・討議できる。

評価方法

レポートやプレゼンテーション等の提出物50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

集中授業として実施するため、開講時期の変更などがあることがあるので、開講スケジュールをよく確認すること。
調査等のため学外で授業を行うことがある。

授業計画

1回目：「価値、技術、身体性、デザイン」の進化（加藤 公敬）

2回目：「デザイン思考」とは ビジョンづくりの視点（加藤 公敬）

3回目：「WISE PLACE」実現するための“ Ba ”（加藤 公敬）

4回目：「デザイン」の機能、組織（加藤 公敬）

5回目：NPO法人BEPPU PROJECTのこれまでの取り組み事例 1 （山出 淳也）

6回目：NPO法人BEPPU PROJECTのこれまでの取り組み事例 2 （山出 淳也）

7回目：NPO法人BEPPU PROJECTのこれまでの取り組み事例 3 （山出 淳也）

8回目：豊かさの本質×かわいい」をデザインせよ（辻 信行）

9回目：倉敷を体感せよ！ 学外実習：酒津周辺（辻 信行）引率近藤研二

10回目：倉敷を体感せよ！ 学外実習：酒津周辺（辻 信行）引率近藤研二

11回目：倉敷を体感せよ！ 学外実習：酒津周辺（辻 信行）引率近藤研二

12回目：アート（ビブリオ）バトル（長谷川 新）

13回目：現代アートと建築2（長谷川 新 ）

14回目：現代アートと建築3：学外実習（洗庭）（長谷川 新 ）引率：川上 幸之介

15回目：講評（長谷川 新 ）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

各担当教員の専門分野について、その概要を事前に調査し理解しておく。

教科書

適宜資料を配布する

参考書

適宜紹介する。

備考

デザイン芸術特論Ⅱ（12654）

後期

Advanced Art and Design II

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 クリスウォルトン  柳田宏治  後藤秀典

授業の概要

デザイン芸術分野の今日的テーマを取り上げ、実社会の事例研究を基に考察する。

取り上げるテーマは、以下を含む。

HCD、UX、インフォグラフィックス、サービスデザイン、ソーシャルデザイン、ビジョンデザイン、SDGs 他。

到達目標

- 1 デザイン芸術分野のいくつかの今日的テーマを理解できる。
- 2 デザイン芸術分野のいくつかの今日的テーマについて説明できる。

評価方法

レポート等提出物50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

授業計画01：オリエンテーション（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画02：テーマ1 事例研究 1（柳田）

授業計画03：テーマ1 事例研究 2（柳田）

授業計画04：テーマ1 事例研究 3（柳田）

授業計画04：テーマ1 事例研究 4（柳田）

授業計画06：テーマ1 事例研究 5（柳田）

授業計画07：テーマ2 事例研究 1（後藤）

授業計画08：テーマ2 事例研究 2（後藤）

授業計画09：テーマ2 事例研究 3（後藤）

授業計画10：テーマ2 事例研究 4（後藤）

授業計画11：テーマ2 事例研究 5（後藤）

授業計画12：テーマ3 事例研究 1（ウォルトン）

授業計画13：テーマ3 事例研究 2（ウォルトン）

授業計画14：テーマ3 事例研究 3（ウォルトン）

授業計画15：テーマ3 事例研究 4（ウォルトン）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	井上昌崇 磯谷晴弘 張慶南

授業の概要

陶磁器粘土が制作の素材としてどのような制作が出来るかを体感、理解をしてその素材の特性や可能性を学習する。

陶芸の技法や粘土の知識を学習する。（陶芸）

ガラスという素材に触れることで造ることの楽しさ、素材感を覚える。（ガラス）

到達目標

- 1 制作の楽しさと焼成後の変化など、陶磁土による作品制作がどのようなものであるかを体験を通して理解できる。（陶芸）
- 2 ガラスという素材と造ることの楽しさとは何かを考え、ガラスの魅力について論じることができる。（ガラス）

評価方法

課題作品の提出（60％）、授業に取り組む姿勢（40％）（陶芸）

課題作品の提出（60％）、授業に取り組む姿勢（40％）（ガラス）

注意事項

Aグループ、Bグループが7回入れ替わりで陶芸とガラスを14回学びます。

15回目は、全員で講評会を行います。

17号棟（ガラス）26号棟（陶芸）で行います。

初日は17号棟2F 4257（共同制作室）で授業について説明します。

本科目は教員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

Aグループ

- 1 オリエンテーション（授業の進め方）（井上）
平面構成からの器作り
・構成（型紙）と試作 試作の窯詰め
- 2 平面構成からの器作り（井上）
・試作の絵付け、施釉、窯詰め
- 3 平面構成からの器作り（井上）
・構成（型紙）の決定、制作
- 4 平面構成からの器作り（井上）
・構成（型紙）と制作 素焼き
- 5 平面構成からの器作り（井上）
・絵付け、施釉、窯詰め
- 6 黒土・赤土の素材による自由制作（井上）
- 7 施釉、窯詰め（井上）
- 8 ガラスの素材について説明する。工房の使い方、安全注意事項について説明する。（磯谷）（張）
- 9 吹ガラス体験1 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 10 吹ガラス体験2 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 11 吹ガラス体験3 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 12 吹ガラス体験4 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 13 吹ガラス体験5 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）

- 14 吹ガラス体験6 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 15 課題作品の講評 （井上）（張）（磯谷）

Bグループ

- 1 ガラスの素材について説明する。工房の使い方、安全注意事項について説明する。（磯谷）（張）
- 2 吹ガラス体験1 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 3 吹ガラス体験2 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 4 吹ガラス体験3 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 5 吹ガラス体験4 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 6 吹ガラス体験5 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）
- 7 吹ガラス体験6 デモンストレーションと制作（吹場を使用する）（磯谷）（張）

- 8 オリエンテーション（授業の進め方）（井上）

平面構成からの器作り

- ・構成（型紙）と試作 試作の窯詰め

- 9 平面構成からの器作り（井上）

- ・試作の絵付け、施釉、窯詰め

- 10 平面構成からの器作り（井上）

- ・構成（型紙）の決定、制作

- 11 平面構成からの器作り（井上）

- ・構成（型紙）と制作 素焼き

- 12 平面構成からの器作り（井上）

- ・絵付け、施釉、窯詰め

- 13 黒土・赤土の素材による自由制作（井上）

- 14 施釉、窯詰め（井上）

- 15 課題作品の講評（井上）（張）（磯谷）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・食器など日常生活で使用されている焼物について予習しておく。（陶芸）
- ・オブジェについて予習しておく。（陶芸）
- ・ガラスの展覧会とガラス以外の展覧会に行き、素材の違いで造るものがどう違うか考えてみる。また自分が普段使う器について改めて見直してみる（ガラス）

教科書

初回の授業の時に指示する。

使用しない（磯谷ーガラス）

参考書

必要に応じて案内する。（磯谷ーガラス）

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 三宅通博

授業の概要

本授業では、素材を知るために必要な無機化学の基礎を教授し、陶磁器の原料、釉薬、顔料、成形法などの基礎を材料化学的観点から解説する。

到達目標

- 1 化学の基礎を習得し、陶芸分野における材料の化学的性質を理解し、素材配合等に必要な化学計算ができ、制作活動に応用できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢(1 0 %)、レポート(3 0 %)、期末試験(6 0 %)で評価する。

注意事項

素材は作品の出来栄を左右する可能性があるので、その特徴や魅力を科学的に理解しておくことは重要である。17世紀のオランダを代表する画家フェルメールが好んで使用した魅力的な青色顔料は、希少で高価なウルトラマリン（ラピスラズリ）という鉱物であるが、今では粘土やソーダ灰を原料としてそれを作ることができる。素材の特徴を生かすことで、主作品に加え、副作品として装飾品などを作ることにもできる。芸術と科学の協調に関しては、芸術科学会（<http://www.art-science.org/>）のWebページが授業内容の理解に役立つ。

授業計画

- 授業計画 1 ：オリエンテーション、無機化学の基礎（1）
- 授業計画 2 ：無機化学の基礎（2）
- 授業計画 3 ：無機化学の基礎（3）
- 授業計画 4 ：無機化学－物質と材料（1）
- 授業計画 5 ：無機化学－物質と材料（2）
- 授業計画 6 ：無機化学－相律と平衡状態図（1）
- 授業計画 7 ：無機化学－相律と平衡状態図（2）
- 授業計画 8 ：陶磁器の歴史
- 授業計画 9 ：陶磁器の基礎（1）；分類
- 授業計画 1 0 ：陶磁器の基礎（2）；原料、顔料
- 授業計画 1 1 ：陶磁器の基礎（3）；成形、焼結
- 授業計画 1 2 ：陶磁器の基礎（4）；窯、釉薬
- 授業計画 1 3 ：陶磁器の基礎（5）；釉薬
- 授業計画 1 4 ：陶磁器の基礎（6）；釉薬
- 授業計画 1 5 ：日本の陶磁器、まとめ

授業外学習

毎回の講義の復習をすること。復習として簡単なレポートを数回課す。

学習時間の目安：合計60時間

教科書

資料を配布する。

参考書

- ・（社）日本セラミックス協会編「はじめて学ぶセラミック化学」技報堂（ISBN4-931298-37-0）。
 - ・加藤誠軌著「やきものから先進セラミックスへーセラミックスの概論 基礎編ー」内田老鶴圃（ISBN4-7536-5315-3）。
 - ・加藤誠軌著「やきものの美と用ー芸術と技術の狭間でー」内田老鶴圃（ISBN4-7536-5409-5）。
 - ・高嶋廣夫著「陶磁器釉の科学」内田老鶴圃（ISBN4-7536-5118-5）など。
-

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 三宅通博

授業の概要

材料学Iの無機化学の基礎を踏まえ、本授業ではガラスおよび釉薬の基礎を材料化学的観点から解説する。

到達目標

1 ガラスおよび釉薬の基礎を化学的に習得し、素材配合等に必要な化学計算などができ、制作活動に応用できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢(1 0 %)、レポート(3 0 %)、期末試験(6 0 %)で評価する。

注意事項

材料学Iも受講することが望ましい。

素材は作品の出来栄えを左右する可能性があるので、その特徴や魅力を科学的に理解しておくことは重要である。17世紀のオランダを代表する画家フェルメールが好んで使用した魅力的な青色顔料は、希少で高価なウルトラマリン（ラピスラズリ）という鉱物であるが、今では粘土やソーダ灰を原料としてそれを作ることができる。素材の特徴を生かすことで、主作品に加え、副作品として装飾品などを作ることにもできる。芸術と科学の協調に関しては、芸術科学会（<http://www.art-science.org/>）のWebページが授業内容の理解に役立つ。

授業計画

- 授業計画1：オリエンテーション、釉薬（1）；調合
- 授業計画2：釉薬（2）；調合
- 授業計画3：釉薬（3）；調合
- 授業計画4：ガラス（1）；ガラスは変わり者
- 授業計画5：ガラス（2）；ガラスもいろいろ
- 授業計画6：ガラス（3）；ガラスは何から
- 授業計画7：ガラス（4）；ガラスを溶かす
- 授業計画8：ガラス（5）；ガラスは動く
- 授業計画9：ガラス（6）；ガラスは動く
- 授業計画10：ガラス（7）；ガラスと光の競演
- 授業計画11：ガラス（8）；ガラスと光の競演
- 授業計画12：ガラス（9）；多彩なガラス素地
- 授業計画13：ガラス（10）；多彩なガラス素地
- 授業計画14：ガラス（11）；ガラスのいろいろとアート
- 授業計画15：ガラス（12）；ガラスのいろいろとアート、まとめ

授業外学習

毎回の講義の復習をすること。復習として簡単なレポートを数回課す。
学習時間の目安：合計60時間

教科書

- ・加藤紘一著「アートなガラスの材料学」学術研究出版、2,200＋税。
- ・釉薬については資料を配布する。

参考書

- ・高嶋廣夫著「陶磁器釉の科学」内田老鶴圃（ISBN4-7536-5118-5）など。

備考

美術工芸演習 I（12206）

前期

Studies of Fine and Applied Arts I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	森山知己 磯谷晴弘 井上昌崇 五十嵐英之 張慶南

授業の概要

- ・日本画：日本画の理論的解説を加えながら、実技演習（古典的な材料・技法を用いた紙本制作）を行い、材料・素材の理解を深め、技法を習得する。（森山）
 - ・油画：油彩画の古典技法を習得し、現代の表現につながる要素を獲得する。（五十嵐）
 - ・ガラス：吹きガラスのスキルを確定するとともに、吹きガラスで出来る作品制作の考え方を学ぶ。（張）
 - ・陶芸：備前粘土での基礎的なロクロ成形と釉薬を使用した作品制作。（井上）
-
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
 - ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

【日本画・油画】

日本画

- 1 日本画：基本的な画材の使用技術、制作工程を用いて表現できる。（森山）

油画

- 2 支持体の選択、メディウムの調合、顔料の選択ができる。（五十嵐）
- 3 古典技法を体験して、道具・素材の適切な扱いができる。（五十嵐）
- 4 現代の表現に繋がる要素を分析し、その手法を作品制作をとおして確かめられる。（五十嵐）

ガラス

- 5 自分探りをする事で制作の幅を広げる。また、ガラスという素材の特性を研究した作品を造る事を目指す。オリジナル性のある作品について検証できる。（張）

陶芸

- 6 ロクロの基礎的な成形方法を学び、今後の作品制作の土台となるツールを身につけ実践できる。（井上）

評価方法

- ・日本画：制作過程（質疑応答を含む 3 0 %）、提出作品（7 0 %）で評価する。（森山）
- ・油画、版画作品：提出作品 8 0 %、作品資料 2 0 %（五十嵐）
- ・ガラス：作品評価（70%）、制作に取り組む姿勢等の平常点（30%）により評価する。（張）
- ・陶芸：制作コンセプト発表(20%) 制作への取り組み(20%) 作品(60%)（井上）

注意事項

- ・日本画：共有する道具の取り扱いに細心の注意を払うこと（森山）
 - ・油画：試作品のための材料は大学で準備するが、個人作品の制作については各自材料を準備する。（五十嵐）
 - ・ガラス：作業に向けた服装に心がけ、怪我に気をつける。（張）
 - ・陶芸：粘土の乾燥について。乾燥すると高台削りはできなくなるので、乾燥状態をこまめに確認すること。
作品が乾燥していないと、焼成時に作品が爆発するので窯詰め前には早めに作品を完成させ十分に乾かすこと。（井上）
- 調査等のため学外での授業を行うことがある。

授業計画

【前半・日本画、後半・油画 材料・古典技法】

1週目：オリエンテーション（授業の概要・留意事項・課題説明）紙本制作 ドーサ引き 1（森山）／絵画表現について（五十嵐）
2週目：墨・硯の使い方・筆について 骨書き（森山）
3週目：裏打ち・仮張り 絵の具の使用法 胡粉の作り方 地塗り 1（森山）
4週目：下塗り（主題のベース作成）背景（画面上での量し他）（森山）
5週目：描き込み（染料系絵の具の使い方 描写手法）（森山）
6週目：画面調整 1（森山）
7週目：上塗り（岩絵具の使用技術）仕上げ 1（森山）
8週目：仕上げ2 完成 研究会（森山）
9週目：絵画と表現について（五十嵐）
10週目：絵画組成について・油彩画と科学（五十嵐）
11週目：絵画表現技法 古典技法 油彩画 筆、キャンバス、下地（白亜地）（五十嵐）
12週目：絵画表現技法 古典技法 油彩画 顔料、メディウム、グリザイユとカマイユ（五十嵐）
13週目：絵画表現技法 古典技法 油彩画 カマイユ技法の制作プロセス（五十嵐）
14週目：絵画表現技法 古典技法 油彩画 描き起こしとグラッシー（五十嵐）
15週目：作品講評会（五十嵐）

【前半・陶芸、後半・ガラス】

1週目：備前粘土でのロクロ成形（湯呑み／高台削り）（井上）
2週目：備前粘土でのロクロ成形（茶碗／高台削り）（井上）
3週目：備前粘土でのロクロ成形（皿／高台削り）（井上）
4週目：テーマ設定制作（作品コンセプトの発表・ミニチュアの制作）（井上）
5週目：テーマ設定制作（井上）
6週目：テーマ設定制作（井上）
7週目：作品の窯詰め（井上）
8週目：課題の説明、その分野で活躍している作家の作品を見る。（スライド）（張・磯谷）
9週目：idea sketchの課題を持って討論する。その分野で活躍している作家の作品を見る。（スライド）（張・磯谷）
10週目：idea sketchの課題から選んで 1 点の作品を造り始める。（張・磯谷）
11週目：idea sketchの課題から選んで 1 点の作品を造り始める。（張・磯谷）
12週目：窯入れをする。（張・磯谷）
13週目：窯出しをする。仕上げの説明と制作をする。（張・磯谷）
14週目：制作。（張・磯谷）
15週目：合同作品講評。（張・磯谷）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・日本画：展覧会見学、スケッチ等を実施し、授業内容の実地での確認、可能性について自由研究を行うこと。（森山）
- ・油画：様々な絵画技法を用いた歴史的な作品がある。各技法を用いた実作品を調査しに、美術館やギャラリーに出かける。（五十嵐）
- ・ガラス：多くの作家の作品を見る事や展覧会などを観覧する。そうする事で自分の作品が持つ個性について考える。（張）
- ・陶芸：時間外でのロクロ成形の練習及び、作品高台の削りを行う。テーマ設定制作において授業時間が足りない場合には、授業外で制作を進め授業時間では作品の疑問や違和感などの解決に時間を使えるように、出来るところまでの制作を進めておく。（井上）

教科書

- ・日本画：使用しない。（森山）
- ・油画：使用しない。（五十嵐）
- ・ガラス：使用しない（張）
- ・陶芸：使用しない（井上）

参考書

- ・日本画：必要に応じて紹介する。（森山）
- ・『油彩画の科学』作品資料はパワーポイントで紹介する。（五十嵐）
- ・ガラス：必要に応じて紹介する。（張）

・陶芸：必要に応じて紹介する。（井上）

備考

年次	2年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0単位
担当教員	川上幸之介

授業の概要

現代アートの紹介と実践。イギリスの美術教育を土台としたリサーチ方法により、現代絵画における、ドローイングの実技、色彩論、現代写真、現代彫刻をはじめとした制作理論の導入。

現代アートにおける問い「何がアートであるか」から「どのようにアートであるのか」へと発展させる。

リサーチ方法を学ぶ。アイディア及び、使用するメディアを発展する。

到達目標

- 1 現代美術と絵画、彫刻、写真の関連を理解できる。
- 2 現代美術においての表現方法を理解できる。
- 3 現代絵画、彫刻、写真の歴史について理解し説明できる。
- 4 現代絵画、彫刻、写真とその他のメディアの関連性を理解できる。
- 5 現代絵画、彫刻、写真の技法を理解し、使用できる。

評価方法

作品 5 0 %、スケッチブック、リフレクティブ・ジャーナル、リサーチ・ファイル（制作過程の提出） 5 0 %

注意事項

調査等のため学外での授業を行うことがある。

必要なものを配布資料に明記します。

授業計画

1週目：「現代アート（コンテンポラリー・アート）」とは何か？レクチャー。「マインドマップ」「コラージュ」レクチャー

2週目：①「コラージュ」実践

3週目：①のグループチュートリアル、②「現代のドローイング」②に用いられているテクニックのレクチャー、実践

4週目：③「リアリズム・プロジェクト」③の歴史のレクチャー、テクニックのレクチャー 「ペインターのスタジオ」プロの作家のアトリエ。

5週目：④「ペインティングの実践」基礎、キャンバスの作り方、オイル、アクリルの使用方法等。

6週目：⑤「古典技法から現代絵画へ」レクチャー ※ 外部講師による実践

7週目：⑤実践

8週目：⑤実践

9週目：⑤実践 グループチュートリアル。 ※ 外部講師による講評

10週目：⑥「絵画の拡張」異なる二つの媒体を用いた絵画制作

11週目：⑥ 2

12週目：⑥ 3

13週目：⑦「現代の写真」現代写真のレクチャー ⑦のテクニックのレクチャー、実践 ※ 外部講師による実践

14週目：⑦グループチュートリアル。⑧「Cube プロジェクト」

15週目：⑧のグループチュートリアル

授業外学習

学習時間の目安：合計 30 時間

- ・ 作品制作において授業外の時間を使い制作できる。
- ・ ギャラリーで作品を鑑賞して現在との違い、作品のオリジナル性と時代背景を見極める。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する

備考

美術工芸演習Ⅲ（12102）

前期

Studies of Fine and Applied Arts Ⅲ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 田丸稔

授業の概要

モデルを使用し、塑造の理論的解説を加えながら基礎的形態（人体彫刻）の創作訓練をする。特に自然の中の形態を捉えた課題による制作を行う。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 頭像の制作過程を理解できる。
- 2 石膏キャストの技法を理解し実践できる。

評価方法

・授業に取り組む姿勢・態度についての評価と、提出作品の評価により総合的に評価する。なお、配点の割合は授業に取り組む姿勢・態度 34 %、提出作品の評点 66 %を基本とする。

注意事項

- ・必要に応じて自習用の課題を設ける。
- ・原則として頭像作品（1点）を制作し、石膏にキャストして提出すること。
- ・第15回の授業（講評会）で完成作品の提出がない者は単位の認定を行わない。

調査等のため、学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 1週目：オリエンテーション（授業の概要・留意事項）
- 2週目：制作台、心棒づくり、粘土練り
- 3週目：モデル制作
- 4週目：モデル制作
- 5週目：モデル制作
- 6週目：モデル制作
- 7週目：モデル制作（粘土原型の完成）
- 8週目：講評会（粘土原型）
- 9週目：キャスト（雌型成型-1：切り金入れ、石膏第一層）
- 10週目：キャスト（雌型成型-2：針金による補強）
- 11週目：キャスト（雌型成型-3：針金による補強、土抜き）
- 12週目：キャスト（雄型成型-1：離型と石膏第一層、スタッフの貼り込み）
- 13週目：キャスト（雄型成型-2：スタッフの貼り込み、割型の接合）
- 14週目：キャスト（雄型成型-2：割出し、修整）
- 15週目：講評会（石膏像）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

週あたり2時間以上の自主制作を行うこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 張慶南 👤 磯谷晴弘 👤 井上昌崇

授業の概要

井上 昌崇（陶芸-釉薬）

・日本各地にある窯業地の歴史や特長を学び、各地の陶磁土の特性を研究する。その後、それぞれの陶磁土を使用して作品を制作し、産地による粘土の違いの理解を深め研究をする。

磯谷晴弘（ガラス工芸）

・安全で適切に学習するために、スタジオ設備の使い方を覚えた上で、吹きガラスの基本的技術を学習する。器の制作。

【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。

【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

井上 昌崇（陶芸-釉薬）

1 色々な陶磁土の特性を知る事で粘土素材の知識と可能性を広げ、素材にあった制作ができる。
作品コンセプトと粘土の特長との結びつきによる感性を養い各自制作の基礎を築き応用できる。

磯谷晴弘（ガラス工芸）

1 溶解したガラスをコントロールするための基本的技術を身につける。コップ、ボール、等の器を制作する。

評価方法

井上 昌崇（陶芸-釉薬）

・課題作品の提出、授業に取り組む姿勢と自分で学習した資料をいかにファイル出来ているかも評価の対象とする。
課題作品 6 0 % 制作過程 2 0 % 作品制作コンセプト 2 0 %

磯谷晴弘（ガラス工芸）

・作品評価（80%）制作に取り組む姿勢等の平常点（20%）により評価する。

注意事項

調査等のため学外での授業を行うことがある。

井上 昌崇（陶芸-釉薬）

・焼成は作品の乾燥ができていないと焼けません。期日までに作品を仕上げてください。調査等のため学外に出て授業を行うことがある。

磯谷晴弘（ガラス工芸）

・健康管理に留意し、怪我のないように作業をする事。

授業計画

陶芸-釉薬

- 1週目：全国各地の陶磁土の特性と日本の窯業地（井上）
- 2週目：全国各地の陶磁土の特性と日本の窯業地（井上）
- 3週目：日本各地の陶磁土の試験体製作(1)（井上）
- 4週目：日本各地の陶磁土の試験体製作(2)（井上）
- 5週目：日本各地の陶磁土の試験体製作(3)（井上）

- 6週目：日本各地の陶磁土の試験体製作(4)（井上）
- 7週目：日本各地の陶磁土の試験体製作(5)（井上）
- 8週目：日本各地の陶磁土の焼成 制作コンセプトを考察（井上）
- 9週目：制作コンセプトの発表 粘土の選択（井上）
- 10週目：日本各地の陶磁土から素材選択して作品を制作する（井上）
- 11週目：日本各地の陶磁土から素材選択して作品を制作する（井上）
- 12週目：日本各地の陶磁土から素材選択して作品を制作する（井上）
- 13週目：日本各地の陶磁土から素材選択して作品を制作する（井上）
- 14週目：作品の絵付け、釉薬施釉（井上）
- 15週目：講評会（井上）

ガラス工芸

- 1週目：オリエンテーション（授業の概要・留意事項・課題説明）（磯谷）
- 2週目：イントロダクション 吹きガラスと工房設備、その使い方（磯谷）
- 3週目：ガラス制作（磯谷）
- 4週目：制作実技（磯谷）
- 5週目：制作実技（磯谷）
- 6週目：制作実技。（磯谷）
- 7週目：自由制作 1（器）（磯谷）
- 8週目：制作実技（磯谷）
- 9週目：制作実技。（磯谷）
- 10週目：制作実技（磯谷）
- 11週目：自由制作 2（器）（磯谷）
- 12週目：制作実技（磯谷）
- 13週目：制作実技（磯谷）
- 14週目：制作実技（磯谷）
- 15週目：作品講評。（磯谷）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

井上 昌崇（陶芸-釉薬）

- ・テストピースの制作。
- ・作品の乾燥状態などから授業内では完成できないので、時間外の制作（補習）を行う。

磯谷晴弘（ガラス工芸）

- ・自分の嗜好、身体感覚を発見するために、多くの作家の作品や展覧会などを観覧する。

教科書

井上 昌崇（陶芸-釉薬）

- ・使用しない

磯谷晴弘（ガラス工芸）

- ・使用しない

参考書

井上 昌崇（陶芸-釉薬）

- ・使用しない

磯谷晴弘（ガラス工芸）

- ・必要に応じて紹介する。

備考

年次	2年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0単位
担当教員	五十嵐英之

授業の概要

・版画に関する基礎技法を紹介し、銅版画の表現を習得する。銅版画の制作をとおして自らの表現について考える契機とし、銅版画作品を完成させる（五十嵐：油画／版画）。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 版画表現についての基礎を学び、その可能性を理解し、自らの作品を完成させる。（五十嵐：油画／版画）

評価方法

- ・作品70%、提出資料20%、プレゼンテーション10%（五十嵐：油画／版画）

注意事項

- ・個人の作品制作における準備物としてウエスは持参する。（五十嵐：油画／版画）

調査等のため学外に出て授業を行うことがある。

授業計画

- 【油画／版画・担当：五十嵐】
(1) 世界の版画の歴史と技法について
(2)日本の版画の歴史と技法について
(3)銅版画の基礎技法 銅版の研磨とプレートマーク
(4)銅版画の基礎技法 インクと紙について
(5)銅版画の基礎技法 各種グランドと溶剤の扱い
(6)銅版画の基礎技法 印刷
(7)銅版画 ラインエッチング
(8)銅版画 アクアチント
(9) 銅版画 シュガーリフト
(10) 銅版画 ソフトグランド
(11) 銅版画 ヘイター刷り（一版多色刷）
(12) コラグラフ（凹版技法）
(13) 作品制作 1 （混合技法）
(14) 作品制作 2 （混合技法）
(15) 作品展示・講評会

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間 ・銅版画作品が観られる美術館、ギャラリーに出かけ実作品を鑑賞する。そのことを後日の授業でプレゼンテーションできるよう資料作成する。（五十嵐）

教科書

使用しない

参考書

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	川上幸之介 張慶南 金孝妍

授業の概要

川上 幸之介（現代アート）

・現代アートの紹介と実践。イギリスの美術教育を土台としたリサーチ方法により、メディアアートの実技、歴史、文脈といった制作理論の導入。

作品とコンセプトの相互の影響関係を考察し、2D、3 DCGといったデジタルメディアを用いた作品を展開する。

リサーチ方法を学ぶ。アイディア及び、使用するメディアを発展する。

金 孝妍（日本画）

・日本画の基礎知識及び画材、技法、道具についてその特徴を知り、作品制作のための技術を確実に習得する。

・海外のアートシーン情報や作品情報を提供しつつ、多角的な思考方法に気づき、作品制作を通して、制作プロセスの構成方法を学び、専門技術力や構成力を養う。

張 慶南（ガラス）

・ガラスを使った接着やcold workの技法を用いて、材料や道具の使用及び素材の扱い方に関する基礎を学ぶ。

【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。

【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 川上幸之介（現代アート）
- 現代社会における、芸術の役割を理解できる。
- 金 孝妍（日本画）
- 日本画の画材の特徴や基礎知識を学んだ上、作品制作を通して、専門技術を確実に習得し、現代における絵画の可能性について考察できる。
 - 作品制作と並行して資料ファイリングをし、自身の興味や意識していることについて視覚化しまとめることで、制作の意義を見出せる。
 - 3 を元に作品のコンセプト作りから完成までの構成力を養い、完成度のクオリティを上げることができる。
- 張 慶南（ガラス）
- ガラスと言う素材について理解し、表現の可能性を試み、自分で満足のいく作品を仕上げる。

評価方法

- 川上 幸之介（現代アート）
- ・作品5 0 %、プレゼン2 0 %、スケッチブック、リフレクティブ・ジャーナル、リサーチ・ファイル（制作過程の提出）3 0 %
- 金 孝妍（日本画）
- 提出作品（7 0 %）受講態度（3 0 %）
- 張 慶南（ガラス）
- ・授業に取り組む姿勢等2 0 %、課題作品8 0 %

注意事項

調査等のため学外での授業を行うことがある。

川上 幸之介（現代アート）

・特になし

金 孝妍（日本画）

・共同で使う画材や道具などは注意事項を知り、大切に使うこと。試作品の制作については大学にあるものを使うことが可能であるが、個人作品の制作については各自画材を準備する。

張 慶南（ガラス）

・作業が出来るように健康に心かける。作業の服装にも気をつける

授業計画

川上 幸之介（現代アート）

1週目：コンセプトと媒体についての考察、制作の為のドローイング、アイディア・スケッチ、チュートリアル

2週目：現代写真のレクチャー、作品制作、チュートリアル

3週目：ビデオアートのレクチャー、作品制作、チュートリアル

4週目：ビデオアートの実践 2DCG

5週目：ビデオアートの実践 2DCG

6週目：ビデオアートの実践 2DCG

7週目：ビデオアートの実践 2DCG

8週目：ビデオアートの実践 動画編集

9週目：ビデオアートの実践 動画編集

10週目：ビデオアートの実践 3DCG

11週目：ビデオアートの実践 3DCG

12週目：ビデオアートの実践 3DCG

13週目：ビデオアートの実践 3DCG

14週目：ビデオアートの実践 3DCG

15週目：ビデオアートの実践 3DCG

13週目：ビデオアートの実践 3DCG

14週目：ビデオアートの実践 3DCG

15週目：プレゼンテーション、グループチュートリアル、ディスカッション

金 孝妍（日本画）

1 週目：オリエンテーション 授業の概要や留意事項、制作課題について準備物などの説明。

2 週目：日本画での自画像について。現代美術で注目される作品鑑賞。ドーサ引き 1

3 週目：下絵の準備と確認。スケッチや骨描きの実践。

4 週目：裏打ち・仮張り 絵の具の準備や胡粉を作って地塗り 1

5 週目：個人資料ファイリングの中間確認 1 下塗りと背景の彩色

6 週目：描き込み（画面構成上の色の使い方）

7 週目：仕上げ 1（パネルに張り込む）完成 1 作品プレゼンテーション

8 週目：金箔・銀箔を使った作品制作の下準備 箔張り

9 週目：スケッチの図案を元にドーサで描き銀箔を変色させる方法で制作実践

1 0 週目：個人資料ファイリングの中間確認 2 作品コンセプトの構成方法

1 1 週目：国内アートシーンについて 作品鑑賞 個人作品制作 1

1 2 週目：目標に向けた思考方法やスケジュールの構成方法 個人作品制作 2

1 3 週目：ポートフォリオ作成方法や作品の見せ方について 個人作品制作 3

1 4 週目：個人作品制作 4 完成 2 作品プレゼンテーション

1 5 週目：講評会

張 慶南（ガラス）

(1)オリエンテーション（授業の概要・留意事項・課題の説明）

(2)ガラスのcuttingし、接着の準備をする。

(3)接着をする。

(4)ガラスのcold workについて習う。

(5)ガラスを研磨して、キューブを作る。

(6)ガラスを研磨して、キューブを作る。

- (7)講評会、次の課題を説明する。（吹き場を使用する）
- (8)溶けたガラスを吹き場で整形する。（吹き場を使用する）
- (9)溶けたガラスを吹き場で整形する。（吹き場を使用する）
- (10)溶けたガラスを吹き場で整形する。（吹き場を使用する）
- (11)cold workによる仕上げをする。
- (12)cold workによる仕上げをする。
- (13)cold workによる仕上げをする。
- (14)cold workによる仕上げをする。
- (15)講評会

授業外学習

学習時間の目安：合計 30 時間

川上 幸之介（現代アート）

- ・作品制作において授業外の時間を使い制作できる。
- ・展覧会で作品を鑑賞し、現在との違い、作品のオリジナル性と時代背景を見極める。

金 孝妍（日本画）

- ・制作した作品を、芸術学部ギャラリーZONEにおいてグループ展を開催し発表する。
- ・ファイルと一緒に展示することで、コミュニケーションを促せ、自身の思考を客観化する体験をする。
- ・授業外の時間を使い制作を続けることも可能。

張 慶南（ガラス）

作家の作品を見るように心かける。また、自分とその作家との違いが何かを調べる。美術館にも良く足を運ぶようにする。

教科書

川上 幸之介（現代アート）

- ・適宜指示する。

金 孝妍（日本画）

特に使用しない

張 慶南（ガラス）

適宜指示する。

参考書

川上 幸之介（現代アート）

- ・適宜指示する。

金 孝妍（日本画）

個別に参考になると思われる書籍を紹介する。

張 慶南（ガラス）

適宜案内する。

備考

デザイン演習 I (12410)

前期

Studies of Design I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 後藤秀典  クリスウォルトン

授業の概要

イラストレーションおよびグラフィックデザインの基礎演習である。

演習課題の制作を通じて、テーマへの理解とデザイン手法・技法を学ぶ。

【実務経験のある教員による授業科目】後藤：元GKインダストリアルデザイン研究所、GKグラフィックス、デザインプラナリア勤務：グラフィックデザイン、パッケージデザイン、ブランディング等の実務経験で培った知識、技術を活かし、構想から実制作までの実務を想定した演習課題を通して、デザインへの理解を促し、発想力を高めより実践的なデザイン手法・技法を伝える。

到達目標

- 1 イラストレーションおよびグラフィックデザインの知識と技術を理解できる。
- 2 1 に基づいて基礎的な表現ができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢等（40％）、課題作品（60％）により評価する。

注意事項

- ・3年次からイラストレーションまたはグラフィックデザインを選択する者は必ず履修すること。
- ・デザイン調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

回数	内容
第1回	デザイン課題1（グラフィックデザイン 担当：後藤）：オリエンテーション、制作 Step 1
第2回	制作 Step 2
第3回	制作 Step 3
第4回	制作 Step 4
第5回	制作 Step 5
第6回	制作 Step 6
第7回	制作 Step 7
第8回	プレゼンテーション、評価
第9回	デザイン課題2（イラストレーション 担当：ウォルトン）：オリエンテーション
第10回	デザイン調査
第11回	デザイン策定
第12回	デザイン制作
第13回	デザイン制作

回数	内容
第14回	デザイン制作
第15回	プレゼンテーション、評価

授業外学習

発想力を高めるため、常に情報収集に努めること。
制作技法については1分野に留まらず幅広く学ぶこと。

学習時間の目安：合計30時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

デザイン演習Ⅱ（12105）

前期

Studies of Design II

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2年
対象	25～20N
単位数	2.0単位
担当教員	柳田宏治 正宗幸子

授業の概要

・デザイン領域のプロダクトデザインおよびファッションデザイン・テキスタイルデザインの基礎的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。

・プロダクトデザインおよびファッションデザイン・テキスタイルデザインの基礎演習である。演習課題を通じて、両デザインに必要なスケッチ、ドローイング、モデル制作、プレゼンテーション等の基礎的な知識および技術を修得するとともに、デザインプロセスの理解と基本要素である機能と使いやすさについて基本的な知識を修得する。

- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 プロダクトデザインおよびファッションデザイン・テキスタイルデザインのプロセスの基礎を理解し実践できる。
- 2 スケッチ、ドローイング、モデル制作、プレゼンテーションの各技法の基礎知識を理解し実践できる。
- 3 デザインの機能、使いやすさに関する基礎知識を理解できる。

評価方法

提出物70%、授業に取り組む姿勢30%で評価する。

注意事項

- ・3年次から生活プロダクト分野またはファッション・テキスタイル分野を選択する者は必ず履修すること。
- ・デザイン調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 授業計画01：テーマ1「機能とデザイン」概説（柳田）
- 授業計画02：テーマ1 演習1<保護機能>（柳田）
- 授業計画03：テーマ1 演習2<取扱い機能>（柳田）
- 授業計画04：テーマ2「使いやすさとデザイン」概説（柳田）
- 授業計画05：テーマ2 演習1<タスク分析とニーズ探索>（柳田）
- 授業計画06：テーマ2 演習2<要求抽出>（柳田）
- 授業計画07：テーマ2 演習3<改善デザイン提案>（柳田）
- 授業計画08：テーマ2 演習4<プレゼンテーション>（柳田）
- テーマ3「ファッションデザイン・テキスタイルデザイン」概説（正宗）
- 授業計画09：テーマ3 サスティナブルデザイン1：REデザイン・アップサイクル（正宗）
- 授業計画10：テーマ3 サスティナブルデザイン2：倉敷染め（正宗）
- 授業計画11：テーマ3 サスティナブルデザインのプレゼンテーション（正宗）
- 授業計画12：テーマ4 コンテストデザイン（正宗）
- 授業計画13：テーマ4 似合うファッション1：パーソナルカラー（正宗）
- 授業計画14：テーマ4 似合うファッション2：骨格スタイル・顔タイプ（正宗）
- 授業計画15：テーマ4 総括（正宗）

授業外学習

- ・毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を制作し提出すること。
- ・学習時間の目安：合計30時間
- ・色彩検定3級受験の希望者は、6月8日・15日・22日の5限に、対策講座を実施する。

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

「マーカースケッチデザインブック」アレクサンダー・オット（著）、松崎 元 (翻訳)、トウールズインターナショナル、978-4-903178-00-4
「モデリングテクニック」清水吉治ほか、グラフィック社 (1991)
「スケッチによる造形の展開」清水吉治、日本出版サービス (1998)
その他、適宜紹介する。

備考

デザイン演習Ⅲ（12202）

前期

Studies of Design III

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2． 0 単位
担当教員	 クリスウォルトン  柳田宏治  後藤秀典

授業の概要

デザイン演習Ⅰ・Ⅱの補完的な演習科目である。

デザイン演習Ⅰのイラストレーション分野およびビジュアルデザイン分野、デザイン演習Ⅱの生活プロダクト分野の技法についてより深く学習する。

到達目標

- 1 デザイン領域各分野のうち、選択した分野の技法について理解できる。
- 2 デザイン領域各分野のうち、選択した分野の技法について指導を受けながら実践できる。

評価方法

提出物70%、授業に取り組む姿勢30%で評価する。

注意事項

デザイン調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 授業計画01：オリエンテーション（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画02：技法演習 1-1（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画03：技法演習 1-2（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画04：技法演習 1-3（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画04：技法演習 1 プレゼンテーション（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画06：技法演習 2-1（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画07：技法演習 2-2（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画08：技法演習 2-3（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画09：技法演習 2-4（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画10：技法演習 2 プレゼンテーション（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画11：技法演習 3-1（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画12：技法演習 3-2（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画13：技法演習 3-3（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画14：技法演習 3-4（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画15：技法演習 3 プレゼンテーション（ウォルトン・後藤・柳田）

授業外学習

学習時間の目安：合計 3 0 時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

デザイン演習Ⅳ（12155）

後期

Studies of Design IV

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 吉田磨希  柳田宏治  赤西信哉

授業の概要

- ・デザイン領域のイラストレーション分野または生活プロダクト分野の基礎的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
- ・履修者の学びの関心から2つのクラスに分かれて授業をおこなう。両クラスの内容は次の通りである。

【Aクラス】：イラストレーション（担当 吉田）

- ・アナログ手法を中心に、演習形式でイラストレーションの基礎的な表現力を習得する。
- ・オリジナリティを高めるために様々な画材や表現方法を習得し、視覚伝達の基礎的要素である形態、質感、色彩など表現要素を理解する。

【Bクラス】：生活プロダクト（担当 赤西・柳田）

- ・デザイン演習IIで修得したプロダクトデザインの基礎知識・技術を基に、演習課題を通じてプロダクトデザインのデザインプロセスの理解とプロダクトデザインに必要な課題発見、調査、コンセプト作成、スケッチ、モデル制作、検証、プレゼンテーション等の基礎的な知識および技術を修得する。また、人々の生活の中からデザイン課題を発見する態度を身に付ける。
- ・木工の小作品制作を通して「木」という材料を体験し、材料や加工方法の理解と知識、技術を修得する。

【実務経験のある教員による授業科目】柳田：元三洋電機株式会社勤務（家電デザイン部門）：家電品のプロダクトデザインの実務経験を通じて得た実践的なHCD（Human Centered Design）手法に基づいて、既存製品の抱える問題を発見し解決するリ・デザインを指導している。

到達目標

【Aクラス】

- 1 絵本を想定した平面イラストを考え、その主人公のキャラクターを立体造形化する。更に、その立体作品に背景の小道具を加えて、構図を構成し、写真撮影することにより、立体イラストレーションの作品を完成できる。
- 2 自分の作品を多面的にとらえる制作作業を通して、様々なイラストレーションの基礎を理解し実践できる。
- 3 制作するための自己のスケジュール管理とプレゼンテーションを重ねて、自分の作品を客観視できる。

【Bクラス】

- 1 課題発見、調査、コンセプト作成、スケッチ、モデル制作、検証、プレゼンテーション等の基礎的な知識および技術を修得し、簡単なテーマで実践できる。
- 2 問題解決型デザインの知識と技術の修得し、簡単なテーマで実践できる。
- 3 木工の基礎的知識と技術の修得し、簡単なテーマで実践できる。

評価方法

【A,Bクラス共通】説明を伴う演習の授業形態となるので、授業に取り組む姿勢（30%）、制作プロセス（30%）、作品（40%）の割合で評価する。

注意事項

【A,Bクラス共通】

- ・デザイン演習IまたはIIからの継続的履修が望ましい。
- ・3年次でイラストレーション、生活プロダクトの何れかの分野を選択する者は必ず履修すること。
- ・授業時間内で完成しない演習課題は、宿題として次回までに完成させること。
- ・デザイン調査等で学外で授業を行うことがある。

【Aクラスのみ】

- ・着彩用道具、スケッチブックなど必要な画材道具や立体造形に伴う材料は告知外でも自身で考え持参すること。

授業計画

【Aクラス】（イラストレーション）

- 1週目：オリエンテーションとアイデアラフ制作（吉田）
- 2週目：課題1 キャラクターとサムネイル作成、キャラクターボード制作（吉田）
- 3週目：課題1 キャラクターとサムネイル作成プレゼンボード プレゼンテーション（吉田）
- 4週目：課題2 絵本の場面を立体化する：1 計画と芯作り（吉田）
- 5週目：課題2 絵本の場面を立体化する：2 立体造形（吉田）
- 6週目：課題2 絵本の場面を立体化する：3 立体造形（吉田）
- 7週目：課題2 絵本の場面を立体化する：4 磨きと着彩（吉田）
- 8週目：課題2 絵本の場面を立体化する：5 背景セットの仕上げ、撮影計画（吉田）
- 9週目：課題2 絵本の場面を立体化する：6 背景セットの仕上げ、撮影計画（吉田）
- 10週目：課題3 立体化したキャラクターを写真撮影1（吉田）
- 11週目：課題3 立体化したキャラクターを写真撮影2（吉田）
- 12週目：課題3 立体化したキャラクターを写真撮影3（吉田）
- 13週目：作品の仕上げ、データ編集1（吉田）
- 14週目：作品の仕上げ、データ編集2（吉田）
- 15週目：講評（吉田）

【Bクラス】（生活プロダクト）

- 1週目：課題 1：テーマ「木を使ったデザイン提案」概説（赤西）
- 2週目：課題 1：デザイン調査（赤西）
- 3週目：課題 1：コンセプトデザイン（赤西）
- 4週目：課題 1：アイデア検討（赤西）
- 5週目：課題 1：デザイン検討（赤西）
- 6週目：課題 1：木工 1 加工（赤西）
- 7週目：課題 1：木工 2 組立（赤西）
- 8週目：課題 1：プレゼンテーション（赤西）
- 課題 2：テーマ「リ・デザイン」概説（柳田）
- 9週目：課題 2：問題探索手法の演習（柳田）
- 10週目：課題 2：問題構造化手法の演習（柳田）
- 11週目：課題 2：コンセプト策定手法の演習（柳田）
- 12週目：課題 2：デザイン解創出手法の演習（柳田）
- 13週目：課題 2：デザイン可視化手法の演習（柳田）
- 14週目：課題 2：デザイン評価手法の演習（柳田）
- 15週目：課題 2：プレゼンテーション手法の演習（柳田）

授業外学習

- ・学外の展覧会鑑賞などもある。美術館やギャラリーなどにでかけ、デザインに活かせる情報を収集しレポートをまとめる。
- ・常に自分の制作スケジュールと制作時間を考慮し授業外作業で準備しておく。
- ・学習時間の目安：合計60時間

教科書

【ABクラス共通】使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

適宜資料を配布する。

【Bクラス】プロダクトデザインの基礎|日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)編|ワークスコーポレーション|978-4862671738

備考

デザイン演習Ⅴ（12252）

後期

Studies of Design Ⅴ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 後藤秀典  川越和仁  藤原里栄

授業の概要

・デザイン領域のグラフィックデザイン分野またはファッションデザイン分野の基礎的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。

・履修者の学びの関心によりA,B 2つのクラスに分かれて授業を行う。

【Aクラス】グラフィックデザイン（担当：後藤・川越）

ブランドデザイン、パンフレット制作等のデザイン課題演習を通してグラフィックデザインの開発手法を学ぶ。

（ブランドデザインは、ロゴマークやパッケージデザインなど幅広い制作領域を含む）

【Bクラス】（担当：伊藤・藤原）

テキスタイル：繊維の特徴、染め、テキスタイルの基礎を「作品制作」をしながら学ぶ。

ファッション：もの作りの基礎のパターン、縫製、ミシンを「作品制作」をしながら学ぶ。

到達目標

・デザインに関する知識、技術力、構成力を身につける。

【Aクラス】 1 グラフィックデザインの基本を理解できる。基礎的な造形計画手法と表現技法を実践できる。

【Bクラス】 2 作品制作を通し、テキスタイルの特徴やファッションのもの作りの基礎を理解し、基礎的な実践ができる。

評価方法

提出物60%。授業に取り組む姿勢40%の割合で評価する。

注意事項

・デザイン演習Iまたはデザイン演習IIからの継続的履修が望ましい。

・3年次でグラフィックデザイン、ファッションデザインの何れかの分野を選択する者は必ず履修すること。

・一度の欠席は大幅な作業の遅れにつながる。遅刻や欠席をしないこと。

・デザイン調査などで学外で授業を行うことがある。（訪問先の都合により日時を変更する事がある）

授業計画

【Aクラス】

- 1.課題オリエンテーション（後藤）
- 2.ブランドデザイン1（後藤）
- 3.ブランドデザイン2（後藤）
- 4.ブランドデザイン3（後藤）
- 5.ブランドデザイン4（後藤）
- 6.ブランドデザイン5（後藤）
- 7.ブランドデザイン6（後藤）
- 8.プレゼンテーション、まとめ（後藤）/パンフレットデザイン1（川越）
- 9.パンフレットデザイン2（川越）
- 10.パンフレットデザイン3（川越）
- 11.パンフレットデザイン4（川越）
- 12.パンフレットデザイン5（川越）
- 13.パンフレットデザイン6（川越）
- 14.パンフレットデザイン7（川越）
- 15.プレゼンテーション、まとめ（川越）

【Bクラス】

- 1.オリエンテーション（伊藤）テキスタイルの授業内容など
- 2.テキスタイル：繊維 1（伊藤）ウール：フェルト：鍋敷き
- 3.テキスタイル：繊維 2（伊藤）ウール：ニードルフェルト：小物
- 4.テキスタイル：織 1（伊藤）卓上織機：ランチョンマット 1
- 5.テキスタイル：織 2（伊藤）卓上織機：ランチョンマット 2
- 6.テキスタイル：染 1（伊藤）藍染：オリジナルアイテム 1
- 7.テキスタイル：染 2（伊藤）藍染：オリジナルアイテム 2
- 8.プレゼンテーション（伊藤）／オリエンテーション（藤原）
- 9.ファッション：パターン 1（藤原）パターンの基礎知識：原型
- 10.ファッション：パターン 2（藤原）トップス・ボトムス
- 11.ファッション：パターン 3（藤原）作品制作 1：2分の1パターン
- 12.ファッション：縫製 1（藤原）作品制作 2：小物(ミシン：直線)
- 13.ファッション：裁断・縫製 2（藤原）作品制作 3：裁断・縫製
- 14.ファッション：縫製 3・仕上げ（藤原）作品製作 4：縫製・仕上げ
- 15.プレゼンテーション・講評（藤原）

授業外学習

- ・毎週、演習課題の進捗を確認し、講評するので、必ず課題を提出すること。
- ・学習時間の目安：合計30時間

教科書

使用しない。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

デザイン演習Ⅵ（12454）

後期

Studies of Design Ⅵ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 クリスウォルトン  柳田宏治  後藤秀典

授業の概要

デザイン演習Ⅳ・Ⅴの補完的な演習科目である。

デザイン演習Ⅳのイラストレーション分野および生活プロダクト分野、デザイン演習Ⅱのビジュアルデザイン分野の技法についてより深く学習する。

到達目標

- 1 デザイン領域各分野のうち、選択した分野の技法について理解できる。
- 2 デザイン領域各分野のうち、選択した分野の技法について指導を受けながら実践できる。

評価方法

提出物70%、授業に取り組む姿勢30%で評価する。

注意事項

デザイン調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 授業計画01：オリエンテーション（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画02：技法演習 1-1（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画03：技法演習 1-2（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画04：技法演習 1-3（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画04：技法演習 1プレゼンテーション（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画06：技法演習 2-1（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画07：技法演習 2-2（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画08：技法演習 2-3（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画09：技法演習 2-4（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画10：技法演習 2プレゼンテーション（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画11：技法演習 3-1（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画12：技法演習 3-2（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画13：技法演習 3-3（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画14：技法演習 3-4（ウォルトン・後藤・柳田）
- 授業計画15：技法演習 3プレゼンテーション（ウォルトン・後藤・柳田）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

前期

芸術学部 デザイン芸術学科

【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

- 1 現代アートが提起した問題を知るとともに、現代社会を見る一つの視座を芸術から獲得する。（川上－現代アート）
- 2 粘土以外の素材も石膏を使用することにより作品にすることができる。（井上－陶芸）
- 3 素材や技法の理解、知識の習得を積極的に行い、自己のテーマを深めつつ制作に取り組むことができる。（森山－日本画）
- 4 現代人の生活の中で使われるガラスの器の有用性を、制作者の立場から論じ提示することができる。（磯谷－ガラス）
- 5 溶けたガラスを自由に扱える。（磯谷－ガラス）
- 6 作品制作につながる自らのテーマやコンセプトを模索し、それらを絵画作品として表現し、完成することができる。
- 7 作品を発表するための展覧会を企画、実施することができる。（近藤－油画）
- 8 作品の質の向上のため、独自のメディウムを作ることができる。（五十嵐－油画）
- 9 油彩画素材について自身の表現に適したものを選択できる。（五十嵐－油画）
- 10 作品に関する分析を行い、表現意図を明確に解説できる。（五十嵐－油画）
- 11 等身大または1/2全身像の基本的な制作プロセスについて理解する。
- 12 実制作を通して制作技法やスキルを応用できる。（田丸－彫刻）
- 13 コンセプトを持って、満足のいく仕上げをし、モノが持つ力を感じさせる作品を作ることができる。（張－ガラス）

評価方法

- ・作品50%、プレゼン20%、スケッチブック、リフレクティブ・ジャーナル、リサーチ・ファイル（制作過程の提出）30%（川上ー現代アート）
- ・作品の計画性20% 制作過程20% 課題作品60%（井上ー陶芸）
- ・制作過程（質疑応答含む）30%・提出作品70%（森山ー日本画）
- ・提出作品（①テーマやコンセプトの内容、作品の完成度②展示内容）80%、授業に取り組む姿勢（①追求の深度をプレゼンテーションなどから評価②活動状況）20%（近藤ー油画）
- ・提出作品80%、提出資料20%（五十嵐ー油画）
- ・授業に取り組む姿勢・態度34%、提出作品の評点66%を基本とする。（田丸ー彫刻）
- ・授業への取り組む姿勢等20%、課題作品80%（張ーガラス）
- ・提出作品80%、授業に取り組む姿勢20%（磯谷ーガラス）

注意事項

- ・調査等のため学外での授業を行うことがある。
- ・特になし（現代アート）
- ・乾燥の出来ない作品は焼成できないので、窯詰め前は余裕をもって制作を進める。
制作状況によっては学外実習を行う場合がある。（井上ー陶芸）
- ・展覧会見学、スケッチ等に加え、各自の制作において特別な材料等が必要と認められた場合は、その対応、準備を求めることがある（森山ー日本画）
- ・作家研究などレポートを課す場合がある。（近藤ー油画）
- ・試作品のための材料は大学で準備するが、個人作品の制作については各自材料を準備する。（五十嵐ー油画）
- ・必要に応じて自習用の課題を設ける。提出作品は半期に1点以上とする。期限内に完成作品の提出がない者は単位の認定を行わない。・美術工芸演習IIIを履修していること。（田丸ー彫刻）
- ・健康に気をつけ、制作に専念出来るようにする。（張ーガラス）
- ・自主制作のために準備を怠らないこと。（磯谷ーガラス）

授業計画

【現代アート】（火曜日）

- (1)コンセプトと媒体についての考察、制作の為のドローイング、アイディア・スケッチ、チュートリアル（川上）
- (2)作品制作計画の立案 オブジェクトマターとサブジェクトマター（川上）
- (3)制作指導と理論 「グリーンバーグとローゼンバーグ」（川上）
- (4)制作指導と理論 「他の批評基準」 スタインバーグ、「彫刻とポストモダン 展開された場における彫刻」クラウス（川上）
- (5)制作指導と理論 「ミニマリズム」と「芸術と客体性」フリード（川上）
- (6)制作指導と理論 「ポストモダニズムと消費社会」ジェームソン（川上）
- (7)制作指導と理論 「一つの文化の新しい感性」「キャンプ」ソントグ（川上）
- (8)制作指導と理論 「複製技術時代の芸術作品」Ⅰ ベンヤミン（川上）
- (9)制作指導と理論 「複製技術時代の芸術作品」Ⅱ ベンヤミン（川上）
- (10)制作指導と理論 「アレゴリー的衝動ーポストモダニズムの理論に向けて」オーウェンス（川上）
- (11)制作指導と理論 「他者の言説 フェミニズムとポストモダニズム」オーウェンス（川上）
- (12)制作指導と理論 「作者の死」バルト（川上）
- (13)制作指導と理論 「アートワールド」「芸術の終焉の後の芸術」ダントー（川上）
- (14)制作指導と理論 「狂気の歴史」「監獄の誕生」「性の歴史」フーコー（川上）
- (15)制作指導と理論 「ポストコロニアリズム」スピヴァック、ザイード、バーバ（川上）

【陶芸】（木曜日）

- (1) 異素材を用いての鋳込成形 素材考察、デザイン、制作計画、ミニチュア制作（井上）
- (2) 異素材を用いての鋳込成形 原形制作（井上）
- (3) 異素材を用いての鋳込成形 石膏取り（井上）
- (4) 異素材を用いての鋳込成形 石膏取り（井上）
- (5) 異素材を用いての鋳込成形 石膏取り（井上）
- (6) 釉薬選択、試験体製作（井上）
- (7) ロクロ成形（井上）
- (8) ロクロ成形 釉薬調合、試験体窯詰め（井上）
- (9) ロクロ成形（井上）
- (10) ロクロ成形（井上）
- (11) 自主テーマ制作 素材考察、デザイン、制作計画、ミニチュア制作（井上）

- (12) 自主テーマ制作 素材考察、デザイン、制作計画、発表 (井上)
- (13) 自主テーマ制作 (井上)
- (14) 作品施釉 窯詰め (井上)
- (15) 講評会 (井上)

【日本画】(月曜日)

- 1週目：オリエンテーション、テーマの確認(授業の概要・留意事項・課題説明)。(森山)
- 2週目：課題に対しての調査 発表(森山)
- 3週目：技術テーマの設定(森山)
- 4週目：進行確認・検討(森山)
- 5週目：小下図(森山)
- 6週目：小下図・制作プロセスの確認(森山)
- 7週目：制作・支持体準備・大きな画面への展開・対応について(森山)
- 8週目：制作・パネル張り・裏打ち他(森山)
- 9週目：制作・制作プロセス確認(森山)
- 10週目：制作・彩色技法等(森山)
- 11週目：制作・技法講座(墨・箔他)(森山)
- 12週目：制作・進行確認(森山)
- 13週目：制作(森山)
- 14週目：制作(森山)
- 15週目：講評会(森山)

【油画】(月曜日)

- 1週目：オリエンテーション、授業内容や目的の説明(近藤)
- 2週目：ドローイング、エスキース(近藤)
- 3週目：ドローイング、エスキース(近藤)
- 4週目：参考作家、表現方法の研究(近藤)
- 5週目：参考作家、表現方法の研究(近藤)
- 6週目：作品制作1(近藤)
- 7週目：作品制作2(近藤)
- 8週目：作品制作3(近藤)
- 9週目：プレゼンテーション、合評会(近藤)
- 10週目：大作作品制作1(近藤)
- 11週目：大作作品制作2(近藤)
- 12週目：大作作品制作3(近藤)
- 13週目：大作作品制作4(近藤)
- 14週目：プレゼンテーション、合評会(近藤)
- 15週目：展覧会企画、準備(近藤)

【油画 油彩画】《木曜》

- (1)絵画組成についての応用1(五十嵐)
- (2)絵画組成についての応用2(五十嵐)
- (3)実験と試作品の制作(1)メディウムについて(五十嵐)
- (4)実験と試作品の制作(2)メディウムについて(五十嵐)
- (5)実験と試作品の制作(3)支持体について(五十嵐)
- (6)実験と試作品の制作(4)支持体について(五十嵐)
- (7)実験と試作品の制作(5)グリザイユについて(五十嵐)
- (8)実験と試作品の制作(6)グリザイユについて(五十嵐)
- (9)実験と試作品の制作(7)グリザイユについて(五十嵐)
- (10)実験と試作品の制作(8)グラッシーについて(五十嵐)(五十嵐)
- (11)実験と試作品の制作(9)グラッシーについて(五十嵐)(五十嵐)
- (12)実作品の制作(1)(五十嵐)
- (13)実作品の制作(2)(五十嵐)
- (14)実作品の制作(3)(五十嵐)
- (15)講評会(五十嵐)

【彫刻】（火曜日）

- (1)オリエンテーション（授業の概要・留意事項）（田丸）
- (2)制作のための、心棒づくり、粘土練り（田丸）
- (3)モデル不使用制作：粘土の粗づけ（田丸）
- (4)モデル使用制作：バランスの見直し（田丸）
- (5)モデル不使用制作：モデリング密度の見直し（田丸）
- (6)モデル使用制作：動勢の見直し（田丸）
- (7)モデル不使用制作：ダイナミズムの構築（田丸）
- (8)モデル使用制作：必然的な形体の追求（田丸）
- (9)モデル不使用制作：構成の整理（田丸）
- (10)モデル使用制作：モデリングの仕上げ（田丸）
- (11)頭像キャストイングまたは課題研究：石膏雌型どりふりかけ作業（田丸）
- (12)頭像キャストイングまたは課題研究：石膏雌型どり補強作業（田丸）
- (13)頭像キャストイングまたは課題研究：石膏雄型どりつぎ込み作業（田丸）
- (14)頭像キャストイングまたは課題研究：石膏雄型どり割り出し作業（田丸）
- (15)まとめ（講評会）（田丸）

【ガラス】（月曜日）

- (1)オリエンテーション（授業の概要・留意事項・課題説明）（張）
- (2)idea、スライドを見る（作家の参考作品）。（張）
- (3)idea、スライドを見る（作家の参考作品）。（張）
- (4)idea、スライドを見る（作家の参考作品）。（張）
- (5)プレゼンテーションを行う。吹き場を使用する（張）
- (6)プレゼンテーションを行う。吹き場を使用する（張）
- (7)粘土などでの原型を作る。吹き場を使用する（張）
- (8)粘土などでの原型を作る。吹き場を使用する（張）
- (9)吹き場を使ってガラスの用意をする。吹き場を使用する（張）
- (10)窯入れをする。（張）
- (11)窯出しをし、仕上げに入る。（張）
- (12)制作（張）
- (13)制作（張）
- (14)制作（張）
- (15)講評会（張）

【ガラス】（木曜日）

- (1)オリエンテーション（授業の概要・留意事項・課題説明）（磯谷）
- (2)課題に対しての調査研究 1（磯谷）
- (3)課題に対しての調査研究 2（磯谷）
- (4)課題に対しての調査研究 3（磯谷）
- (5)プレゼンテーション（磯谷）
- (6)サンプル作品提出（磯谷）
- (7)技法研究、検討（磯谷）
- (8)制作 1（磯谷）
- (9)制作 2（磯谷）
- (10)制作 3（磯谷）
- (11)制作 4（磯谷）
- (12)制作 5（磯谷）
- (13)制作 6（磯谷）
- (14)制作 7（磯谷）
- (15)講評会（磯谷）

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

・授業計画に示したテーマについて議論することになるので、履修者はそれらのテキストへの主体的取り組みが求められる。授業で示された

キュレーターがキュレーションをした国際展を中心として調査、研究をすること。（川上－現代アート）

- ・作品の構想を複数案、考え方を変えながら練り、その試作を授業外に制作し、困難な点を授業等で突き詰める。（井上）
- 作品の乾燥状態などに応じて時間外の制作（補習）を行う。
- ・展覧会見学、スケッチ等を行い、設定した課題テーマについての必要な調査・実験制作を行うこと。（森山－日本画）
- ・ガラス作品の歴史的な変遷を、調査研究すること。（磯谷－ガラス）
- ・本を読み、考察すること想像力を高める訓練をすること。（磯谷－ガラス）
- ・学内ギャラリーで展示したり、美術館、展覧会鑑賞、ワークショップなど学外実習を行う。（近藤－油画）
- ・油彩画の作品が観られる美術館、ギャラリーに出かけ実作品を鑑賞する。そのことを後日の授業でプレゼンテーションできるよう資料作成する。（五十嵐－油画）
- ・各自、文献研究及び自主的に補充のための制作を並行して行うこと。（1週あたり1.5時間以上）：（田丸－彫刻）
- ・美術館、ギャラリーなどに出かけ、他の作家の作品をよく見る事に心かける。（張－ガラス）

教科書

- ・適宜指示する。（田丸－彫刻）
- ・使用しない。（井上－陶芸）
- ・使用しない。（森山－日本画）
- ・使用しない。（近藤－油画）
- ・使用しない。（五十嵐－油画）
- ・使用しない。（張－ガラス）
- ・使用しない。（磯谷－ガラス）

参考書

- ・トニー ゴドフリー 『コンセプチュアル・アート』（岩波書店 絶版）
- ・松井みどり『“芸術”が終わった後の“アート”』（朝日出版社 \1512）
- ・適宜案内する。（井上－陶芸）
- ・適宜案内する。（森山－日本画）
- ・適宜案内する。（近藤－油画）
- ・作品資料はパワーポイントや配布物で紹介する（五十嵐－油画）
- ・適宜指示する。（田丸－彫刻）
- ・適宜案内する。（張－ガラス）
- ・適宜案内する。（磯谷－ガラス）

備考

美術工芸実習Ⅱ（12156）

後期

Fine and Applied Arts II

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3年
対象	24 ～ 20 N
単位数	6. 0単位

担当教員	● 磯谷晴弘
	● 近藤千晶
	● 田丸稔
	● 井上昌崇
	● 五十嵐英之
	● 張慶南
	● 森山知己
	● 堂本裕樹

授業の概要

- ・裸婦モデル等の使用による等身大または1/2サイズの塑造制作に取り組む。特に発想を重視し、創作性や独自性を意識しての実制作に取り組む。（田丸）
- ・キャスト、スランピング、フュージングの技法を用いて作品を制作する。テーマは自由で、大きさなどについては相談しながら設定する（張）
- ・前期での学習を生かした自主課題の制作を進める。毎週、それぞれの自主課題について30分程度討論する。（磯谷）
- ・様々な技法や素材を知ることによってその特徴を生かした作品制作、または自己表現の方法を考察する。（井上）
- ・版画に関する応用技法を紹介し、銅版画、シルクスクリーンなどの技法を併用する表現を習得する。自らの表現について考える契機とし、版画技法を併用させた作品を完成させる。（五十嵐・近藤）
- ・取材したスケッチや構想をまとめ、素材、技術、表現手法などの検討、実験を行いながら制作する。自由制作を基本としつつも表現を深める技術、素材体験を随時行う。（森山）
- ・WEBデザインに使用する代表的なアプリケーションであるDreamweaver、Illustrator、Photoshopの仕組みを理解し、これらの知識をふまえ、主体的なテーマ設定による課題制作を体験する。授業は課題制作へ向けた段取りに沿って進め、各授業では段階ごとに課題制作に応用できる内容のテーマ演習を行う。（堂本）

【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

【アクティブラーニング】プレゼンテーションを取り入れている。

到達目標

- 1 実制作を通して制作技法についての知識を深め、スキルの向上を図るとともに、自分自身の指向性に沿った表現ができる。（田丸）
- 2 卒業制作を思った作品造りをする。また、卒業後も続けられるようなオリジナル性のある作品づくりができる。（張）
- 3 納得できる作品制作の方法論を確立し、作品の制作ができる。（磯谷）
- 4 素材の特徴や、幅広い原料の組み合わせの中で自らの制作スタイルに合う方法を見つけ、完成度の高い作品を制作できる。（井上）
- 5 版画表現についての可能性を理解し、自らの作品を完成できる。（五十嵐・近藤）
- 6 素材、表現に関する知識に加え、必要な技術を理解した上でテーマ・課題を自ら設定し、制作ができる。（森山）
- 7 アプリケーションの使用方法を身に付けるにとどまらず、主体的に発表しアイデアや情報を共有することの楽しさを発見し、表現におけるWEBの適切な利用法が理解できる。（堂本）

評価方法

- ・授業に取り組む姿勢・態度 3 4 %、提出作品の評点 6 6 %を基本とする。（田丸）
- ・授業に取り組む姿勢等 2 0 %、課題作品 8 0 %（張）
- ・提出作品 8 0 %、取り組み態度 2 0 %（磯谷）
- ・課題作品 6 0 % 制作過程 2 0 % 制作コンセプト 2 0 %（井上）
- ・提出物（テーマ演習） 30% 課題成果物：40% 受講姿勢：20%（堂本）
- ・制作過程（質疑応答含む） 4 0 %・提出作品 6 0 %を併せて評価する。（森山）
- ・作品 7 0 %、資料 2 0 %、プレゼンテーション 1 0 %（五十嵐・近藤）

注意事項

- ・提出作品は半期に1点以上とする。（田丸）

- ・期限内に完成作品の提出がない者は単位の認定を行わない。（田丸）
- ・健康に気をつけ、制作に専念出来るようにする。（張）
- ・計画的な取り組みをすること。（磯谷）
- ・実験の進行に応じて焼成をしていくので、計画的に実験を進めること。（井上）
- ・個人の作品制作における準備物にウエス、紙コップ、割り箸などがある。授業の際必ず持参する。（五十嵐・近藤）
- ・とくになし（堂本）
- ・展覧会見学、スケッチ、個々の表現、学習に必要と認められる素材の確保、体験学習などを指示することがある。（森山）

調査等のため学外に出て授業を行うことがある。

授業計画

【彫刻】（木曜日）

- (1)オリエンテーション（授業の概要・留意事項）（田丸）
- (2)制作台、心棒づくり、粘土練り（田丸）
- (3)モデル不使用制作（田丸）
- (4)モデル使用制作（田丸）
- (5)モデル不使用制作（田丸）
- (6)モデル使用制作（田丸）
- (7)モデル不使用制作（田丸）
- (8)モデル使用制作（田丸）
- (9)モデル不使用制作（田丸）
- (10)モデル使用制作（田丸）
- (11)キャストイングまたは課題研究（田丸）
- (12)キャストイングまたは課題研究（田丸）
- (13)キャストイングまたは課題研究（田丸）
- (14)キャストイングまたは課題研究（田丸）
- (15)まとめ(講評会)（田丸）

【ガラス】（月曜日）

- (1)オリエンテーション（授業の概要・留意事項・課題説明）（張）
- (2)idea、スライドを見る。（作家の参考作品）（張）
- (3)idea、スライドを見る。（作家の参考作品）（張）
- (4)idea、スライドを見る。（作家の参考作品）（張）
- (5)プレゼンテーション（張）
- (6)プレゼンテーション（張）吹き場を使用する。
- (7)粘土などでの原型を作る。吹き場を使用する。（張）
- (8)粘土などでの原型を作る。吹き場を使用する。（張）
- (9)ガラスの用意をする。吹き場を使用する。（張）
- (10)窯入れをする。（張）
- (11)窯出しをし、仕上げに入る。（張）
- (12)制作（張）
- (13)制作（張）
- (14)制作（張）
- (15)講評会（張）

【ガラス】（木曜日）

- (1)オリエンテーション（授業の概要・留意事項・課題説明）（磯谷）
- (2)課題に対しての調査研究1（磯谷）
- (3)課題に対しての調査研究2（磯谷）
- (4)課題に対しての調査研究3（磯谷）
- (5)プレゼンテーション（磯谷）
- (6)サンプル作品提出（磯谷）
- (7)技法研究、検討（磯谷）
- (8)制作1（磯谷）
- (9)制作2（磯谷）
- (10)制作3（磯谷）

- (11)制作4（磯谷）
- (12)制作5（磯谷）
- (13)制作6（磯谷）
- (14)制作7（磯谷）
- (15)講評会（磯谷）

【陶芸】（月曜日）

- (1)立方体3個による構成作品制作 表面装飾、コンセプト、テーマの試案（井上）
- (2)立方体3個による構成作品制作 表面装飾、コンセプト、テーマの発表（井上）
- (3)立方体3個による構成作品制作 表面装飾、コンセプト、作品制作（井上）
- (4)立方体3個による構成作品制作 表面装飾、コンセプト、作井制作（井上）
- (5)釉薬施釉、窯詰め ロクロ成型作品の試案
- (6)ロクロ成形
- (7)ロクロ成形
- (8)ロクロ成形
- (9)ロクロ成形
- (10)自己テーマによる制作 構想、ミニチュアの制作（井上）
- (11)構想、ミニチュアの発表 テストピース製作、作品制作（井上）
- (12)作品制作（井上）
- (13)作品制作（井上）
- (14)窯詰め（井上）
- (15)講評会（井上）

【油画 版画】（火曜日）

- (1)版画技法の歴史について（五十嵐）
- (2)作品制作 現代の版画技法について1（五十嵐）
- (3)現代の版画技法について2（五十嵐）
- (4)（五十嵐）
- (5)（五十嵐）
- (6)（五十嵐）
- (7)（五十嵐）
- (8)シルクスクリーンの技法について（五十嵐・近藤）
- (9)シルクスクリーンの制作プロセスについて(近藤)
- (10)シルクスクリーンの原稿について(近藤)
- (11)シルクスクリーンの原稿について（近藤）
- (12)シルクスクリーンの製版、露光、現像、プリントについて（近藤）
- (13)シルクスクリーン作品1（近藤）
- (14)シルクスクリーン作品2（近藤）
- (15)講評会（近藤）

【日本画】

- 1週目：オリエンテーション、テーマの確認（授業の概要・留意事項・課題説明 大型作品制作について）（森山）
- 2週目：課題に対しての調査研究 発表 制作の要素確認（森山）
- 3週目：技術テーマの設定（森山）
- 4週目：進行確認 検討（森山）
- 5週目：小下図研究（森山）
- 6週目：小下図研究（森山）
- 7週目：制作（森山）
- 8週目：制作（森山）
- 9週目：制作（森山）
- 10週目：制作（森山）
- 11週目：制作（森山）
- 12週目：制作（森山）
- 13週目：制作（森山）
- 14週目：制作（森山）

15週目：講評会（森山）

【現代アート】（火曜日）

- 1 導入、図形、色、配置、重ね順、レイヤー、ペンツール、パスの編集／Illustrator演習（堂本）
- 2 ガイドの作り方と利用、文字ツール／Illustrator演習（堂本）
- 3 画像解像度、画像補正、選択範囲の作り方、画像合成／Photoshop演習（堂本）
- 4 サイトの定義、XHTMLについて／Dreamweaver演習（堂本）
- 5 段落、見出し、リストなどの設定／Dreamweaver演習（堂本）
- 6 CSSについて／Dreamweaver演習（堂本）
- 7 CSSについて／Dreamweaver演習（堂本）
- 8 フォーム作成について／Dreamweaver演習（堂本）
- 9 演習課題講評会、課題発表（堂本）
- 10 課題制作（堂本）
- 11 課題制作（堂本）
- 12 課題制作、中間講評会（堂本）
- 13 課題制作（堂本）
- 14 課題制作（堂本）
- 15 講評会、振り返り（堂本）

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

- ・各自、文献研究及び自主的に補充のための制作を並行して行うこと。（1週あたり1.5時間以上）（田丸）
- ・美術館、ギャラリーなどに出かけ、他の作家の作品をよく見る事に心がける。（張）
- ・自主的な授業外制作時間が必要。（磯谷）
- ・テストピースの製作や釉薬調合など、個人で進められる実験など。（井上）
- ・銅版画及びシルクスクリーンの作品が観られる美術館、ギャラリーに出かけ実作品を鑑賞する。そのことを後日の授業でプレゼンテーションできるように資料作成する。（五十嵐・近藤）
- ・展覧会見学、スケッチ等を行い、自らの制作テーマをより深める実験制作を行うこと。（森山）
- ・積極的にWEBサイトを閲覧し、さまざまな表現方法やその仕組みへの理解を進めること。向上心を持ち授業外での課題作成に取り組むこと。（堂本）

教科書

特に使用しない。（田丸）・（張）・（井上）・（磯谷）・（五十嵐・近藤）・（森山）・（近藤）・（堂本）

参考書

適宜案内する。（田丸）・（張）・（井上）・（磯谷）

「版画の表現500年展」町田市立国際版画美術館（五十嵐・近藤）

特に無し。（森山）

個別に参考になると思われる作家の画集などを提示（近藤）

特に使用しない。（堂本）

備考

デザイン実習 I (12107)

前期

Design I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 20 N
単位数	6. 0 単位
担当教員	● 後藤秀典 ● 伊藤藍 ● クリスウォルトン ● 古関正彦 ● 西村雅信 ● 柳田宏治 ● 吉田磨希 ● 下尾邦之 ● 正宗幸子 ● 三木裕紀

授業の概要

- ・デザイン領域各分野の応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・2 年次のデザイン演習I,II,III,IV,V,VIで学習した各デザイン分野の基礎知識・技能を基にした応用となる。
- ・提示された課題に対し、示されたデザインプロセスや手法、技法に基づいて制作・提案する。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
- ・授業は月曜日、火曜日、金曜日にそれぞれ2 コマずつ開講される。何れの曜日も複数分野のクラスが設けられているので、各曜日から1 クラスずつ合計3 クラス（週6 コマ）を選択する。

到達目標

- 1 各デザイン分野における応用的制作・提案ができる。
- 2 各デザイン分野のプロセス、手法、技法を理解し実践できる。
- 3 各デザイン分野における構成力、表現力を身につけ、応用できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢30%、課題作品70%の割合で評価する。

注意事項

- ・クラス選択については、2 年次のデザイン演習I～VIにおいてそれぞれのデザイン分野の演習科目（クラス）を履修していることが求められる。
- ・調査などのために学外で授業を行うことがある。

授業計画

<月曜日> Aクラス：後藤（ビジュアルデザイン）、Bクラス：三木（生活プロダクト）、Cクラス：伊藤（ファッション・テキスタイル）
<火曜日> Aクラス：吉田（磨）（イラストレーション）、Bクラス：柳田（生活プロダクト）、Cクラス：正宗・藤原（ファッション・テキスタイル）
<金曜日> Aクラス：ウォルトン（イラストレーション）、Bクラス：古関・西村（ビジュアルデザイン）、Cクラス：下尾・正宗（生活プロダクト、ファッション・テキスタイル）
※金曜日Bクラスの下尾・西村は、それぞれ7.5週（15コマ。1週目-8週目1時限までを西村、8週目2時限-15週目までを古関）を担当。
※金曜日Cクラスの下尾・正宗は、それぞれ7.5週（15コマ。1週目-8週目1時限までを下尾、8週目2時限-15週目までを正宗）を担当。

1週目：オリエンテーション

1週目：オリエンテーション

2週目：デザイン調査1

3週目：デザイン調査2

4週目：デザインコンセプト策定1

5週目：デザインコンセプト策定2

6週目：アイデア展開 1
7週目：アイデア展開 2
8週目：デザイン制作 1
9週目：デザイン制作 2
10週目：デザイン制作 3
11週目：デザイン評価 1
12週目：デザイン評価 2
13週目：デザイン修正 1
14週目：デザイン修正 2
15週目：プレゼンテーション

授業外学習

- ・ 毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
 - ・ 学習時間の目安：合計90時間
-

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

火曜 Bクラス（柳田）：「プロダクトデザインの基礎」日本インダストリアルデザイナー協会編、ワークスコーポレーション(2014)、978-4-86267-173-8
その他、適宜紹介する。

備考

デザイン実習Ⅱ（12157）

後期

Design II

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 20 N
単位数	6. 0 単位
担当教員	● 後藤秀典 ● 伊藤藍 ● クリスウォルトン ● 古関正彦 ● 西村雅信 ● 柳田宏治 ● 小山格平 ● 吉田磨希 ● 櫛勝彦 ● 正宗幸子 ● 藤澤稔 ● 藤原里栄

授業の概要

- ・デザイン領域各分野の応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザイン実習Iの学修内容を発展した応用となる。
- ・提示された課題に対し、示されたデザインプロセスや手法、技法に基づいて制作・提案する。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】実習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
- ・授業は月曜日、火曜日、金曜日にそれぞれ2コマずつ開講される。何れの曜日も複数分野のクラスが設けられているので、各曜日から1クラスずつ合計3クラス（週6コマ）を選択する。

到達目標

- 1 各デザイン分野における応用的制作・提案ができる。
- 2 各デザイン分野のプロセス、手法、技法を理解し実践できる。
- 3 各デザイン分野における構成力、表現力を身につけ、応用できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢30%、課題作品70%の割合で評価する。

注意事項

- ・デザイン実習IIにおいて、それぞれのデザイン分野のクラスを履修していることが求められる。
- ・調査などのために学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部分は集中授業の形式で行うので日程に注意すること。

授業計画

<月曜日> Aクラス：ウォルトン（イラストレーション）、Bクラス：小山（格）・櫛、Cクラス：伊藤（テキスタイルデザイン）
<火曜日> Aクラス：吉田（磨）（イラストレーション）、Bクラス：後藤（ビジュアルデザイン）、Cクラス：柳田（生活プロダクト）、Dクラス：正宗・藤原（ファッション・テキスタイル）
<金曜日> Aクラス：古関・西村（ビジュアルデザイン）、Bクラス：正宗・藤澤（ファッション・テキスタイル、生活プロダクト）

※月曜日Bクラスの小山（格）・櫛は、それぞれ7.5週（15コマ。1週目-8週目3時限までを櫛、8週目4時限-15週目までを小山）を担当。

※火曜日DクラスのDクラス：正宗・藤原は、それぞれ7.5週（15コマ。1週目-8週目3時限までを正宗、8週目4時限-15週目までを藤原）を担当。

※金曜日Aクラス古関・西村は、それぞれ7.5週（15コマ。1週目-8週目1時限までを西村、8週目2時限-15週目までを古関）を担当。

※金曜日Bクラスの正宗・藤澤は、それぞれ7.5週（15コマ。1週目-8週目1時限までを正宗、8週目2時限-15週目までを藤澤）を担当。

1週目：オリエンテーション

2週目：デザイン調査 1
3週目：デザイン調査 2
4週目：デザインコンセプト策定 1
5週目：デザインコンセプト策定 2
6週目：アイデア展開 1
7週目：アイデア展開 2
8週目：デザイン制作 1
9週目：デザイン制作 2
10週目：デザイン制作 3
11週目：デザイン評価 1
12週目：デザイン評価 2
13週目：デザイン修正 1
14週目：デザイン修正 2
15週目：プレゼンテーション

授業外学習

- ・ 毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
 - ・ 学習時間の目安：合計90時間
-

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

火曜日Cクラス：「エクスペリエンス・ビジョン: ユーザーを見つめてうれしい体験を企画するビジョン提案型デザイン手法」柳田宏治他著・（丸善出版）・978-4621085653
その他、適宜紹介する。

備考

プロジェクト演習 I（12205）

前期

Project Studies I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 後藤秀典

授業の概要

- 「デザインやアートの表現や機能が実社会においていかに活用されているか」について
情報収集や表現活動を通して基礎的な知識を身につけ、社会と芸術の関わりについて楽しみながら学修する。
- ・【アクティブラーニング】グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。
 - ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
 - ・デザインとアートの諸領域を融合した総合的なデザイン芸術の基礎的知識及び技能を身につける科目として位置付けている。

到達目標

- 1 地域・社会環境とデザインとの関わりについて理解し、説明できる。
- 2 地域課題の解決に向けて、適切な情報を収集することができる。
- 3 地域課題の解決方法を他者に明確に説明することができる。

評価方法

提出物50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

- ・グループワークでは積極的な参加が求められる。
- ・プロジェクトの調査や実施等で学外で授業を行うことがある。（訪問先の都合により日時を変更する事がある）

授業計画

回数	内容
第1回	課題1-オリエンテーション
第2回	現地調査1（学外実習）
第3回	デザイン制作1-1（調査のまとめとコンセプト立案）
第4回	デザイン制作1-2（デザイン構想）
第5回	デザイン制作1-3（実施デザイン）
第6回	デザイン制作1-4（実施デザイン）
第7回	デザイン制作1-4（実施デザイン）
第8回	プレゼンテーション・意見交換
第9回	課題2-オリエンテーション
第10回	現地調査2（学外実習）
第11回	デザイン制作2-1（調査のまとめとコンセプト立案）
第12回	デザイン制作2-2（実施デザイン）
第13回	デザイン制作2-3（実施デザイン）
第14回	デザイン制作2-4（実施デザイン）
第15回	プレゼンテーション・意見交換

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

大学周辺地域に赴き、情報を収集・調査する。

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

プロジェクト演習Ⅱ（12254）

後期

Project Studies II

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 クリスウォルトン

授業の概要

- ・デザインとアート両領域の諸分野を融合した総合的なデザイン芸術の基礎的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・演習課題である平面と立体の作品の制作を通して、基本的なデザイン制作技術の修得とクラフトマンシップの意識を身に付ける。
- ・【アクティブラーニング】グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 基本的なデザイン要素の知識や構成力を身につけ、簡単な演習課題に応用できる。
- 2 基本的なデザイン制作技術を修得し簡単な演習課題に応用できる。
- 3 基本的なグループワークの方法を理解し実践できる。
- 4 作品プレゼンテーションの方法を理解し実践できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 4 0 %、課題作品 6 0 %の割合で評価する。

注意事項

- ・作品制作だけでなく、プレゼンテーションも授業の重要な要素の一つである。
- ・視察等のため学外で授業を行うことがある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	デザイン調査
第3回	調査結果のプレゼンテーション・評価
第4回	デザイン計画
第5回	デザイン計画のプレゼンテーション・評価
第6回	アイデア展開
第7回	アイデア展開のプレゼンテーション・評価
第8回	デザイン制作（１）
第9回	デザイン制作（２）・評価
第10回	デザイン制作（３）
第11回	デザイン制作（４）・評価
第12回	デザイン仕上がり
第13回	写真撮影・作品ポートフォリオの制作
第14回	全体プレゼンテーション・評価
第15回	総括

授業外学習

- ・ 毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
- ・ 学習時間の目安：合計 3 0 時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

総合プロジェクト演習 I (12505)

前期

Integrated Project I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	● 後藤秀典 ● 磯谷晴弘 ● 松岡智子 ● 近藤千晶 ● クリスウォルトン ● 井上昌崇 ● 五十嵐英之 ● 柳田宏治 ● 吉田磨希 ● 森山知己 ● 川上幸之介 ● 正宗幸子

授業の概要

- ・デザイン・アート両領域の諸分野を融合した総合的なデザイン芸術の基礎的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザイン・アート各分野の「プロジェクト」の基本的な考え方と方法を学修する基礎演習科目である。
- ・デザイン・アート各分野を横断したテーマを扱い、グループワークを基本とする。
- ・「テーマ1：プロジェクトの手法」では、演習課題を通じて、プロジェクトの実施に必要な問題分析、アイデア発想、視覚化、プレゼンテーション等の基礎的な知識および技術を修得する。
- ・「テーマ2：プロジェクトの実践」では、産官学連携プロジェクトなどにより、地域活性や商品開発などのテーマで実践的に取り組み実社会での実施(事業化)を目指した提案を行う。
- ・テーマ2は、3年次科目「総合プロジェクト実習I」およびデザイン学科4年次科目「総合プロジェクト実習III」と合同で行う。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 デザイン/アートプロジェクトの企画・運営の考え方と方法を理解できる。
- 2 初歩的なデザイン/アートプロジェクトを自ら企画・運営できる。
- 3 総合的なデザイン芸術の応用的知識及び技能を身につけ、専門分野の諸問題を自ら解決できる。

評価方法

提出物50%、授業に取り組む姿勢50%の割合で評価する。

注意事項

- ・グループワークでは積極的な参加が求められる。
- ・プロジェクトの調査や実施等のため学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部分は集中授業の形式で行うので日程に注意すること。

授業計画

1-5.テーマ1：プロジェクトの手法

- 1.「プロジェクトの手法」概説
- 2.情報の収集手法
- 3.情報の分析手法
- 4.アイデアの発想手法
- 5.アイデアの評価手法

6-10.テーマ2：プロジェクトの実践

※テーマ2は複数のクラスに分かれて実施する。

詳細は授業（6回目）の中でオリエンテーションを行う。
※スケジュールは連携先との調整により変更することがある。

- 6.プロジェクト概説
- 7.プロジェクトに関する調査（学外実習）
- 8.コンセプト策定
- 9.制作 1
- 10.制作 2
- 11.制作 3
- 12.制作 4
- 13.制作 5
- 14.制作 6
- 15.プレゼンテーション

授業外学習

- ・ 毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
- ・ 学習時間の目安：合計30時間

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

- 「情報デザインのワークショップ」情報デザインフォーラム編、丸善出版 (2014) 978-4621088371
- 「ソーシャルデザイン実践ガイド - 地域の課題を解決する 7 つのステップ」筧裕介、英治出版 (2013) 978-4862761491
- 「ワークショップ - 偶然をデザインする技術」中西紹一編、宣伝会議 (2006) 978-4883351602
- その他、適宜紹介する。

備考

総合プロジェクト演習Ⅱ（12553）

後期

Integrated Project II

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 後藤秀典  松岡智子  近藤千晶  田丸稔  クリスウォルトン  五十嵐英之  柳田宏治  吉田磨希  森山知己  川上幸之介  正宗幸子

授業の概要

- ・デザイン・アート両領域の諸分野を融合した総合的なデザイン芸術の基礎的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザイン・アート各分野の「プロジェクト」の基本的な考え方と方法を学修する基礎演習科目である。
- ・デザイン・アート各分野を横断したテーマを扱い、グループワークを基本とする。
- ・「テーマ1：プロジェクトの実践」では、産官学連携プロジェクトなどにより、地域活性や商品開発などのテーマで実践的に取り組み実社会での実施(事業化)を目指した提案を行う。
- ・「テーマ2：デザイン/アートプロジェクト事例研究」では、まちづくりやデザイン/アートイベント等のプロジェクトの事例研究を通して、実社会におけるプロジェクトの考え方と方法を学ぶ。
- ・テーマ2は、3年次科目「総合プロジェクト実習II」と合同で行う。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 デザイン/アートプロジェクトの企画・運営の考え方と方法を理解できる。
- 2 初歩的なデザイン/アートプロジェクトを自ら企画・運営できる。
- 3 総合的なデザイン芸術の応用的知識及び技能を身につけ、専門分野の諸問題を自ら解決できる。

評価方法

提出物50%、授業に取り組む姿勢50%の割合で評価する。

注意事項

- ・グループワークでは積極的な参加が求められる。
- ・プロジェクトの調査や実施等のため学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部分は集中授業の形式で行うので日程に注意すること。

授業計画

1-10.テーマ1：プロジェクトの実践

※テーマ1は複数のクラスに分かれて実施する。

詳細は授業（1回目）の中でオリエンテーションを行う。

※スケジュールは連携先との調整により変更することがある。

- 1.プロジェクト概説
- 2.プロジェクトに関する調査（学外実習）
- 3.コンセプト策定
- 4.制作1
- 5.制作2

- 6.制作3
- 7.制作4
- 8.制作5
- 9.制作6
- 10.プレゼンテーション

11-15.テーマ2：「デザイン/アートプロジェクト事例研究」

※詳細は別途担当教員からオリエンテーションを行う。

集中講義1日目1-5時限：学外実習1 デザインまたはアートプロジェクトの視察

集中講義2日目1-5時限：学外実習2 デザインまたはアートプロジェクトの視察

授業外学習

毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。

学習時間の目安：合計30時間

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

「デザイン思考の教科書 - 欧州トップスクールが教えるイノベーションの技術」A.F.ブイエ他、日経BP社(2015) 978-4822250645

「システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM『イノベーションのつくり方』」前野隆司他、日経BP社(2014)978-4822249946

「101デザインメソッド - 革新的な製品・サービスを生む『アイデアの道具箱』」ヴィージェイ・クーマー、英治出版(2015) 978-4862761750

その他、適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 神原正明

授業の概要

西洋美術の歩みを原始時代から近代の始まりまでをたどる。時代はそれぞれの形の特性を持っている。それぞれの時代が生み出した形の誕生の物語を、グローバルな視点から追いかけてみたい。「形」は独自の原理に沿って進化をはたし、歴史を築いてきた。「形の生命」という呼び方もするが、そこに美術史の特異性がある。「様式史としての美術史」を原点としながら、イコノロジー（図像解釈学）にいたる学的形成をふまえ、ルネサンスとバロックの美意識の違いを理解し、その対立を基軸に歴史のダイナミズムを学んでいく。同時に美術鑑賞を通じて美に対する感性を養い、真贋を見抜く「めきき」となることが、究極の目標となる。いいものをいいといえる確かな目を育てたい。

到達目標

- 1 美術作品を通してその背後にある人類の精神文化の普遍性と多様性を理解できる。

評価方法

毎回の授業に取り組む姿勢（40％）、期末試験かレポート（60％）で評価する。

注意事項

- ・大原美術館をはじめ各地の美術館を訪れて西洋美術のオリジナル作品に親しむよう心掛けてほしい。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.原始の造形
- 3.古代エジプト美術
- 4.古代ギリシャ美術
- 5.古代ローマ美術
- 6.中世ヨーロッパ美術
- 7.イタリアルネサンス
- 8.北方ルネサンス
- 9.盛期ルネサンス
- 10.バロック美術
- 11.オランダの黄金時代
- 12.フランス絶対王政の美術
- 13.ロココ美術
- 14.近代美術のはじまり
- 15.まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・前もって教科書を読みこんで問題点を整理しておく。
- ・各地で開催される美術館での展覧会を鑑賞し、レポートを作成する。
- ・毎週の講義を200字程度でまとめておき、最後に概略を提出する。

教科書

神原正明『快読・西洋の美術』勁草書房 978-4-326-85171-3

参考書

『世界美術大全集・西洋編』全28巻（小学館）

年次	2年
対象	25 ～ 20 N
単位数	2．0単位
担当教員	 松岡智子

授業の概要

明治維新後、西洋をモデルとした社会のなかで、日本で美術はどのような役割を期待され、どのような様相を占めたのだろうか。本講義では、明治から第二次世界大戦頃までの我が国の洋画、日本画、彫刻、建築をはじめとし、西洋では「マイナーアート」とされた工芸や版画、さらには新しく加わったグラフィック・デザインや写真も含めた各分野の代表的な作家及び作品を紹介し、広く「アート」について考察することを目的とする。

授業ではスライド等を用いて、絵画、版画、彫刻、工芸、デザイン、建築、写真など様々なジャンルにおける代表的な作品の解説を行い、近代日本美術史を概観する。

到達目標

- 1．日本近代美術史を理解するための基本的な知識を身につけ説明できる。
- 2．美術館を見学し本物の作品に接することにより鑑賞力が身につく。
- 3．美術史の観点から作品研究を行い論述することができる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト30％(到達目標1を評価)、美術館見学による作品研究発表30％(到達目標2を評価)、レポート(到達目標3を評価)により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

大原美術館をはじめとする美術館見学を実施する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日本近代の洋画（1）西洋美術との本格的な出会い〔明治美術〕
第3回	日本近代の洋画（2）自由な表現を求めて〔明治末―大正〕
第4回	日本近代の洋画（3）成熟と挫折〔大正美術・統一昭和の敗戦〕
第5回	日本近代の日本画（1）伝統と近代化
第6回	日本近代の日本画（2）古典への回帰とモダニズムへの転身
第7回	日本近代の版画―浮世絵のその後と創作版画
第8回	日本近代の彫刻―「彫刻」の導入と展開
第9回	日本近代の工芸―殖産工芸とジャポニズム
第10回	日本近代のデザイン(1) 民芸運動の作家たち、消費社会のデザイン、ポスター芸術の登場
第11回	日本近代のデザイン(2) 1920年代から30年代にかけて、市民階級の成立とともに、竹久夢二などに代表される、暮らしの中に花開いた身近な芸術を紹介
第12回	日本近代の建築（1）西洋化の浸透のなかで

回数	内容
----	----

第13回	日本近代の建築（2）建築のモダニズム
------	--------------------

第14回	日本近代の写真－写真伝来、写真の芸術化と大衆化、報道とプロパガンダ
------	-----------------------------------

第15回	総まとめ
------	------

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

各回の授業終了時に小テストを実施するので、毎回の授業についてよく復習しておくこと。

教科書

日本美術の歴史|辻 惟雄|東京大学出版会|978-4-13-082086-8

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

プロジェクトマネジメント論（12605）

前期

Project Management

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 井上昌崇  張慶南  正宗幸子

授業の概要

デザインとアート分野の諸領域を融合した総合的なデザイン芸術の基礎的、応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。アーティストとして活動する時に必要なマネージメントについて学習する。好きなものを好きなときに好きなように作るだけでは活動が続けることはできない。制作の方法論に添い、且つ作品の価値を正当に評価することのできる人と出会うことができる発表の場を見つけ、マーケットを獲得する方法について考察する。

到達目標

- 1 アーティストとして必要なマネージメントについて理解し説明できる。
- 2 アーティスト個々に合わせたマーケットの形成方法について理解し説明できる。
- 3 アーティストに求められる社会的価値について理解し説明できる。

評価方法

・レポート、課題提出 7 0 %／授業に取り組む姿勢（3 0 %）（張）

注意事項

2週目～5週目の期間に1日集中講義で学外実習を行います。（井上・張）

授業計画

1週目：オリエンテーション

- ・課題の説明(作品展のDMデザイン制作)
- ・学外実習になる直島の地中美術館、家プロジェクトについて説明と日程などについて確認をする。（井上・張）

2週目：地中美術館、家プロジェクト（集中講義）（井上・張）

3週目：地中美術館、家プロジェクト（集中講義）（井上・張）

4週目：地中美術館、家プロジェクト（集中講義）（井上・張）

5週目：地中美術館、家プロジェクト（集中講義）（井上・張）

6週目：地中美術館、家プロジェクト観覧感想を聞く。（井上・張）

作品展のDMデザイン制作進行状況についてプレゼンテーションをする。

7週目：作品展のDMデザイン制作進行状況についてプレゼンテーションをする。（井上・張）

8週目：プレゼンテーション・まとめ（井上、張）

9週目：アートをデザインする 1（正宗）

10週目：アートをデザインする 2（正宗）

11週目：マーケティング 1（正宗）

12週目：マーケティング 2（正宗）

13週目：マーチャンダイジング 1（正宗）

14週目：マーチャンダイジング 2（正宗）

15週目：プレゼンテーション・まとめ（正宗）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

多くの美術館、ギャラリーを観覧すること、美術館の学芸員、作家についての話を聞くことで理解と考察を促す。

直島の地中美術館、家プロジェクトに行き、色々な作家の空間演出や作品について観察考える。

教科書

使用しない（張）

参考書

必要に応じて案内する。（張）

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 守田均

授業の概要

近代文化の枠組の一部をなす芸術が、どのように成立したか、それ自身どのような制度として機能しているのかを中心に芸術と文化の関係を考察していく。

到達目標

- 1 芸術の暗黙の前提、および文化の暗黙の前提を意識できる。

評価方法

課題および期末の定期試験(レポート)で評価。課題レポート（４０％）、定期試験(レポート)（６０％）の重みで判定。

注意事項

所定の提出物を全て提出すること。

美学・芸術学概論IおよびIIを履修済みであることが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに
第2回	文化をめぐるさまざまな問題
第3回	「本能」と「文化」
第4回	制度としての芸術（１）
第5回	制度としての芸術（２）
第6回	西洋近代の芸術観
第7回	日本における「芸術」概念の導入
第8回	芸術の「普遍性」？（１）
第9回	芸術の「普遍性」？（２）
第10回	カルチュラルスタディーズの考え方
第11回	ジェンダーと芸術
第12回	大衆と芸術
第13回	文化における芸術の位置（１）
第14回	文化における芸術の位置（２）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

展覧会、コンサート、演劇やダンスの上演などから個人が選択して鑑賞したうえで、テーマを絞って問いを立て、考察のレポートを書く。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 田林啓

授業の概要

東洋美術史の概論。中国、中央アジア、インドといった地域で制作された美術の歴史を追うが、長い歴史と多くの文化財を有する中国の美術作品を主に扱い、中国美術と他地域の美術との関係性を読み解いていく。授業は、東洋美術史の研究方法紹介、中国美術の各時代（殷～南宋時代）における特性の把握、中国美術と他地域作品との関連性、というように大きく3つのテーマを設けて進める。

到達目標

- 1 東洋美術史へ関心を持ち、東洋美術に関する具体的なイメージを持つことができる。

評価方法

受講態度と授業最終回に実施する筆記テストによる（それぞれ、40%、60%）。

注意事項

授業中の私語は厳禁です（慎まない際には、受講態度の配点を減点します）。

本科目は教員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなくてはならない。

授業計画

回数	内容
第1回	東洋美術史の対象地域、研究方法（1）
第2回	東洋美術史の対象地域、研究方法論（2）
第3回	悠久の中国美術 超絶技巧の幕開け 殷～秦時代の美術
第4回	古代人の世界観 漢時代の美術
第5回	異文化との融合 魏晋南北朝時代の美術
第6回	開花した美術 隋唐時代の美術
第7回	内省的奥深さ 宋時代 の美術
第8回	シルクロードを旅する 中国と他地域との影響関係（1）
第9回	石窟（洞窟）寺院を臨む 中国と他地域との影響関係（2）
第10回	法隆寺の至宝 中国と他地域との影響関係（3）
第11回	正倉院宝物を知る 中国と他地域との影響関係（4）
第12回	清凉寺釈迦如来像に隠された宝物 中国と他地域との影響関係（5）
第13回	絵画を読み解く-仏教本生（ほんじょう）図 東洋美術の教養を用いて（1）
第14回	絵画を読み解く-勝鬘經（しょうまんぎょう）講讃図 東洋美術の教養を用いて（2）
第15回	総まとめ 筆記試験（論述式）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教科書

授業中に配布。

参考書

『世界美術大全集 東洋編』全17巻（小学館、1997～2001年） → 豊富な図版と最前線の研究内容を収録する。東洋美術史の勉強と研究には必読書。大型本。

『カラー版東洋美術史』美術出版社、2000年。 → 東洋美術史の全体像を把握するには便利な書籍。小型本。

『日本美術館』小学館、1997年。 → 図版をメインとした書籍で、日本美術史の世界に自然と入っていける。大型本。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 神原正明

授業の概要

現代芸術の概観をジャンルごとに分けて考察していく。絵画を出発点にしながら、写真・映像へといったイメージ表現の系譜をたどる。現代は視覚メディアが氾濫した時代だ。「絵画」の革新からはじまった20世紀の芸術運動は、当初は他のジャンルを排斥して純粋性を追求していくが、やがて他のジャンルと手を結びあってマルチメディアを志向することになる。この講義では20世紀の欧米地域で起こった100年間の視覚文化を概観して、純粋化と総合化を繰り返して進化する芸術の様態を振り返ってみようとするものだ。一方で身体からはじまって彫刻から建築さらには都市にまで展開させていくことで、何か見えてくるものがあればという思惑がある。いまだ気づかないニューメディアが救世主として生まれようとしているのではないかという視点を持ちながら受講してほしい。デジタルメディアがはたして救世主となりうるだろうか。

到達目標

- 1 さまざまな現代芸術のジャンルを、互いに領域を横断することで、総合的に現代芸術のあり方を理解できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢等（40％）、レポートなど提出物（60％）

注意事項

美術だけでなく多角的な芸術分野に興味をもって鑑賞すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.造形芸術の理念
- 3.モダニズムの芸術運動
- 4.純粋をめざす絵画
- 5.平面とイリュージョン
- 6.写真の芸術性
- 7.映像表現の可能性
- 8.ダンス・パフォーマンス
- 9.彫刻の実験
- 10.デザイン論
- 11.工芸論
- 12.素材への執着
- 13.現代建築の冒険
- 14.都市と環境デザイン
- 15.まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・前もって教科書を読みこんで問題点を整理しておく。
- ・各地で開催される美術館での展覧会を鑑賞し、批評文を書くこと。
- ・毎週の講義を200字程度でまとめておき、最後に概略を提出する。

教科書

神原 正明『快読・現代の美術』勁草書房 978-4-326-85173-7

参考書

備考

デザイン史（12101）

前期

History of Design

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 近藤研二

授業の概要

産業革命以降におけるデザインが真の現代的意味をそなえるまでの経過を、美術の歴史的な流れや当時の社会的背景を踏まえながら学び、芸術の基礎的知識を身につけることを目的とする。

到達目標

- 1 近代デザインの歴史を体系的に説明できる。
- 2 近代のデザインとアートの繋がりを説明できる。
- 3 近代デザインと産業革命以降の社会との関係を説明できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題レポートなどの平常点と定期試験で評価を行う。評価は、受講態度（30%）、課題レポート（30%）定期試験（40%）の割合で評価する。

注意事項

特になし

授業計画

- 1週目：オリエンテーション
- 2週目：19世紀前期の建築・工芸
- 3週目：近代グラフィックの始まり
- 4週目：ウィリアム・モリスの美術工芸運動
- 5週目：アールヌーボー運動とその意義
- 6週目：新しい材料と工学の発展
- 7週目：近代美術と近代デザイン
- 8週目：ドイツ工作連盟とその周辺
- 9週目：バウハウスの理念（1）
- 10週目：バウハウスの理念（2）
- 11週目：アメリカ大陸のデザイン動向
- 12週目：第二次大戦後のモダンデザインと美術
- 13週目：第二次大戦後のグラフィックデザイン
- 14週目：1970年以降のポストモダンデザインと美術
- 15週目：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業内容について、復習しておくこと。
- ・毎回の授業をノートにまとめ、半期ごとに提出する事。
- ・課題レポートの作成に関する具体的な内容や方法については、授業中に詳しく説明する。

教科書

使用しないので、購入する必要はありません。

参考書

参考文献は、授業時間に随時紹介する。

備考

Color

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2． 0 単位
担当教員	 山下明美

授業の概要

造形や日常生活と関わりを持つ「色」の基礎について、知覚や生理、心理などさまざまな視点から学ぶ。基礎理論のみならず、色の歴史、文化、環境など人間と色の関係からもその応用や可能性を考察する。

到達目標

- 1. 色の知覚、生理、心理効果など色彩の基礎を理解できる。
- 2. 色の表示、配色方法などを造形活動に活かすことができる。
- 3. 色の歴史や色彩文化を学び、人間と色の関係を理解できる。

評価方法

- ・ 期末レポートなどの提出物（80％）、授業への取り組み（20％）で評価する。
- ・ 出席率を満たしていても提出物がない場合は不可とする。

注意事項

- ・ 身の周りの色やその使い方について常に関心を持つこと。
- ・ 色彩検定等を目指す場合は、講義でふれない内容についても自主的に学んでおくこと。
- ・ 進行状況により授業内容の順序を変更する場合がある。

授業計画

- 1. オリエンテーション、色の知覚：光と色
- 2. 色の知覚：目の働きと色覚
- 3. 色の見え：色のあらわれ
- 4. 色の見え：視覚効果
- 5. 色再現：加法混色、減法混色
- 6. 色の表示：色名、カラーオーダーシステム
- 7. 色彩のイメージ：色彩感情
- 8. 色彩のイメージ：嗜好色、流行色
- 9. 配色調和と配色のテクニック
- 10. 色の歴史（1）：日本の色彩文化
- 11. 色と文化：日本の色彩：学外授業
- 12. 色と文化：日本の色彩：学外授業
- 13. 色の歴史（2）：原始～中世
- 14. 色の歴史（2）：中世～近代
- 15. まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間 ・ 講義内容に応じて学外での調査レポートなどを作成する。 ・ 配色の基礎やテクニックを復習する。

教科書

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

構成論（12601）

前期

Theory of Design Composition

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 17 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 藤原智也

授業の概要

- ・デザイン・アートの基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・アート・デザインの諸分野における基礎となる構成学の内容について体系的に学習する。このとき、20世紀前半のバウハウス以降の構成学の流れを踏まえつつ、近年の認知科学の研究成果によって得られてきた知見に基づいて、色や形といった造形要素やその組合せとしての造形秩序がどのような認知過程を経て我々の認識を形成しているのかについても理論的に扱う。加えて、それらの理論が、洋の東西を問わず歴史的に機能してきたことを理解し、現代の新たな地平を開く基盤となることを示す。
- ・講義科目であるが、一部で演習を含めて活動を展開していくとともに、履修学生が様々なメディアをもとに自身の情報環境を構築し自発的に学習をすすめていくための基盤を形成する。

到達目標

- (1) 近現代の構成学の概要を、歴史および理論を通して学び説明できる。
- (2) 構成学における造形要素と造形秩序およびメディアについて説明できる。
- (3) 構成学やデザインを学ぶための自分独自の「情報環境」を構築できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢及び出席（60％）と制作課題の提出（40％）による。

注意事項

- ・集中講義であり、1月に一回、講義3～4回分の内容を1日で行う。そのため、欠席はしないように注意すること。
- ・課題、レポートの未提出、欠席4回以上は、単位の取得が不可となる可能性がある。
- ・調査などのために学外で授業を行うことがある。

授業計画

授業計画01：オリエンテーション 「ヒトはなぜ、アートを獲得しデザインを生み出したのか」

授業計画01：構成学 基礎(1) バウハウスとGestaltung

授業計画02：構成学 基礎(2) 色彩論

授業計画03：構成学 基礎(3) 形態論

授業計画04：認知科学とヒトの情報処理

授業計画05：演習(1) レイアウトとアフォーダンス

授業計画06：西洋のアート・デザインにみる構成(1) 対称性

授業計画07：西洋のアート・デザインにみる構成(2) 科学技術

授業計画08：演習(2) 空間と立体

授業計画09：日本のアート・デザインにみる構成(1) 非対称性

授業計画10：日本のアート・デザインにみる構成(2) 平面性

授業計画12：演習(3) フィールドワーク

授業計画13：自然美と構成

授業計画14：現代メディアと構成

授業計画15：プレゼンテーション, 講評

授業外学習

展覧会、ミュージアムの見学。インターネットから図書館までを自分の情報環境として利用できるように指導を行う。
とくに近隣のミュージアムのリサーチとそれに基づいたレポートを課す。

学習時間の目安：合計60時間

教科書

三井秀樹、『新構成学：21世紀の構成学と造形表現』、六耀社、2006。

参考書

随時紹介する。

備考

デザイン理論 I (12109)

前期

Design Theory I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 吉田磨希  後藤秀典

授業の概要

- ・デザイン領域のイラストレーションとビジュアルデザインの両分野の理論を学習し、基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・イラストレーション：アートのモチベーションが「自」から発するのに対して、デザインは「他」から発する、という点が挙げられる。本講義ではデザインの中における「イラストレーション」について理解するための手だてを学ぶ。
- ・グラフィックデザイン：グラフィックデザインの概要および、構想から実践までの基礎的なプロセスと考え方を学ぶ。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【実務経験のある教員による授業科目】後藤：元GKインダストリアルデザイン研究所、GKグラフィックス、デザインプラナリア勤務：グラフィックデザイン、パッケージデザイン、ブランディング等の実務経験で培った知識、技術を活かし、より実践的なデザイン理論を講義する。

到達目標

- 1 イラストレーション：様々な形で表現されるイラストレーターの仕事や作品の鑑賞と共に、自分の発想、想像した物をどうすれば具体化できるかなどイラストレーションに取り組む姿勢や表現方法を理解して、自分の作品に生かすことができる。
- 2 グラフィックデザイン：デザインを知の統合として理解でき、より深い表現ができる。
- 3 イラストレーション、グラフィックデザインに関する基礎的な知識を理解できる。

評価方法

- ・イラストレーション：授業に取り組む姿勢 3 0 %、提出物 7 0 %の割合で評価する。
- ・グラフィックデザイン：授業に取り組む姿勢 3 0 %、理解度を計るレポート 7 0 %の割合で評価する。
- ・両分野の評価の平均が科目評価となる。

注意事項

- ・3年次からイラストレーションまたはビジュアルデザイン分野を選択する者は必ず履修すること。
- ・デザイン調査等で学外で授業を行うことがある。
- ・第1週の授業に4B以上の濃い鉛筆を持参すること。

授業計画

1-8 (イラストレーション・吉田磨希)

- 1.オリエンテーション
- 2.イラストレーションの表現方法1
- 3.イラストレーションの表現方法2
- 4.ワークショップ「一本の線から始まる表現について」1：テーマ説明
- 5.イラストレーションの表現方法3 ワークショップ2「一本の線から始まる表現について」：制作とディスカッション
- 6.イラストレーションの表現方法4 ワークショップ3「一本の線から始まる表現について」：制作とディスカッション
- 7.ワークショップ「一本の線から始まる表現について」4：制作とディスカッション
- 8.ワークショップ「一本の線から始まる表現について」5：プレゼンテーションと講評

9-15 (グラフィックデザイン・後藤秀典)

- 9.デザインワークフローとアートディレクション
- 10.デザインの発想法
- 11.広告のあり方
- 12.良いデザインとは

- 13.フォントの性格
- 14.デザインに何ができるか
- 15.プレゼンテーションと講評

授業外学習

- ・学習時間の目安：合計60時間
- ・授業外学習のための演習課題があるので、次回の授業にて提出すること。
- ・学外の展覧会鑑賞などを積極的に行うこと。

教科書

使用しない。

参考書

コピー等で、その都度配布する。参考文献は適宜紹介する。

備考

デザイン理論Ⅱ（12302）

前期

Design Theory Ⅱ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2年
対象	25～18N
単位数	2.0単位
担当教員	 柳田宏治  正宗幸子

授業の概要

・デザイン領域の生活プロダクトとファッション・テキスタイル両分野の理論を学習し、基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。

・人や社会とプロダクトデザインとの関係、プロダクトデザインの今日的な役割などを考察しプロダクトデザインの基礎知識を修得する。また、プロダクトデザインの実践手法となるユーザーエクスペリエンスデザインについて演習を通して学ぶ。

・ファッションデザイン・テキスタイルデザインをする上で基礎知識の「カラー」「素材」「デザイン」を学び、時代の変化に伴う生活者の需要を予測する力をつける。

・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。

・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

・【実務経験のある教員による授業科目】柳田：元三洋電機株式会社勤務（家電デザイン部門）：近年、デザインの実務部門では「UX（User eXperience）デザイン」が注目されており、このデザインプロセスによりデザイン活動を行うことが重要とされてきている。家電品開発におけるUXデザインに関する実務経験を通じて得た実践的な問題解決および価値創出手法を中心としたUDデザインのプロセスを指導している。

到達目標

- 1 プロダクトデザインおよびユーザーエクスペリエンスデザインの基礎知識を理解し説明することができる。
- 2 ファッションデザイン・テキスタイルデザインの基礎知識を理解し説明することができる。

・希望者は、AFT色彩検定3級の資格が取得できる。

評価方法

演習課題及び試験50%、授業への取り組み50%の割合で評価する。

注意事項

- ・3年次から生活プロダクト、またはファッション・テキスタイル分野を選択する者は必ず履修すること。
- ・デザイン調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

授業計画01：オリエンテーション・ファッションデザインの概要とフロー（正宗）

授業計画02：カラーの基礎知識（正宗）

授業計画03：各分野でのカラーの役割（正宗）

授業計画04：テキスタイルデザイン（正宗）

授業計画05：ファッションデザイン1（正宗）

授業計画06：ファッションデザイン2（正宗）

授業計画07：ファッションビジネス（正宗）

授業計画08：プロダクトデザイン概説（柳田）

授業計画09：プロダクトデザインとユーザーエクスペリエンスデザイン（柳田）

授業計画10：ユーザーエクスペリエンスデザイン1：共感（柳田）

授業計画11：ユーザーエクスペリエンスデザイン2：問題定義（柳田）

授業計画12：ユーザーエクスペリエンスデザイン3：創造（柳田）

授業計画13：ユーザーエクスペリエンスデザイン4：プロトタイプ（柳田）

授業計画14：ユーザーエクスペリエンスデザイン5：テスト（柳田）

授業計画15：ユーザーエクスペリエンスデザイン6：総括（柳田）

授業外学習

- ・授業外学習のための演習課題があるので、次回の授業にて提出すること。
 - ・学習時間の目安：合計60時間
 - ・AFT色彩検定3級を受験する学生で、希望者には検定対策講座を実施する。
-

教科書

ファッションデザイン：日本色研事業株式会社 ファッション&ビューティーの色彩
その他、適宣資料を配布する。

参考書

「UXデザインの教科書」安藤昌也, 丸善出版 (2016), ISBN:978-4621300374
「テキスタイル用語辞典」成田典子,テキスタイル・ツリー(2012), ISBN:978-4990630003
他、適宣紹介する。

備考

デザイン理論Ⅲ（12204）

前期

Design Theory Ⅲ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 クリスウォルトン  柳田宏治  後藤秀典

授業の概要

デザイン領域諸分野の事例研究を行う。

授業はグループワークを基本とし、グループで取り上げたテーマの事例研究を行い、発表する。

到達目標

- 1 事例研究の方法を理解できる。
- 2 研究発表の基礎的なプレゼンテーションの技術を身につけ実践できる。（パワーポイントによる効果的なプレゼンテーション等）

評価方法

プレゼンテーション50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

授業計画01：オリエンテーション

授業計画02：事例研究 1-1 テーマ設定（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画03：事例研究 1-2 調査（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画04：事例研究 1-3 考察・発表準備（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画04：事例研究発表 1-4（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画06：事例研究 2-1 テーマ設定（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画07：事例研究 2-2 調査 1（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画08：事例研究 2-3 調査 2（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画09：事例研究 2-4 考察・発表準備（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画10：事例研究発表 2-5（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画11：事例研究 3-1 テーマ設定（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画12：事例研究 3-2 調査 1（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画13：事例研究 3-3 調査 2（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画14：事例研究 3-4 考察・発表準備（柳田・後藤・ウォルトン）

授業計画15：事例研究発表 3-5（柳田・後藤・ウォルトン）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

その他、適宜紹介する。

備考

ユニバーサルデザイン論（12354）

後期

Universal Design

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 柳田宏治

授業の概要

- ・デザインの基礎的、応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザインの重要なテーマの一つである「ユニバーサルデザイン」について、その考え方や事例の研究を行い理解を深める。また、建築物や製品、サービスなどの実施されているデザインについて、ユニバーサルデザインのレベルを調査・分析し、改善提案を行うことで、理論を実践に繋げる。これらにより、ユーザーの多様性とデザインとの関係を学ぶ。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【実務経験のある教員による授業科目】柳田：元三洋電機株式会社勤務（家電デザイン部門）： 家電品のプロダクトデザインの実務経験を通じて得た実践的なHCD（Human Centered Design）手法に基づいて、既存製品の抱える問題を発見し解決するリ・デザインを指導している。

到達目標

- 1 ユニバーサルデザインの考え方を理解し説明できる。
- 2 ユニバーサルデザインの実践手法を理解し説明できる。

評価方法

演習課題及び試験50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

- ・演習や事例研究はグループワークで行う。
- ・演習の調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 授業計画01：オリエンテーション
- 授業計画02：ユニバーサルデザインの気付き：演習（評価実験）
- 授業計画03：ユニバーサルデザインの概要 1：ユニバーサルデザインの定義
- 授業計画04：ユニバーサルデザインの概要 2：障害とは
- 授業計画05：ユニバーサルデザインの概要 3：障害モデルとユニバーサルデザイン
- 授業計画06：ユニバーサルデザインの事例研究 1：ユニバーサルデザイン7原則
- 授業計画07：ユニバーサルデザインの事例研究 2：製品、建築、その他
- 授業計画08：ユニバーサルデザインの事例研究 3：情報、Web、その他
- 授業計画09：ユニバーサルデザインの事例研究 4：プログラム、サービス、その他
- 授業計画10：ユニバーサルデザインの開発 1：ユーザーニーズ手法
- 授業計画11：ユニバーサルデザインの開発 2：評価、要求抽出手法
- 授業計画12：ユニバーサルデザインの開発 3：演習 1（調査、評価）
- 授業計画13：ユニバーサルデザインの開発 4：演習 2（改善提案）
- 授業計画14：ユニバーサルデザインの開発 5：演習 3（発表）
- 授業計画15：総括

授業外学習

- ・日常生活の中で、実施されている身の周りのユニバーサルデザインについて意識を向け、授業で講義する理論に照らして理解を深めること。
- ・学習時間の目安：合計60時間

教科書

プリントを配布する。

参考書

「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」 日本人間工学会、共立出版 (2003) 978-4320071551

「IAUD UDマトリックス ユーザー情報集・事例集」 国際ユニヴァーサルデザイン協議会(2010)、978-4-9903720-2-6

「ユニバーサルデザインの教科書」 日経デザイン編、日経BP社 (2005)

その他、適宜紹介する。

備考

デザイン基礎 I (12408)

前期

Basis of Design I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	👤 クリスウォルトン 👤 後藤秀典

授業の概要

- ・デザインの基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・デザインの基礎となる平面構成について演習形式で学習する。
- ・自然物に対する形・重さ・材質・質感・光と影・色などの注意深い観察を通して、ビジュアルコミュニケーションのための基本的なイラストレーション技法について学修する。（ウォルトン）
- ・文字、パターンを用いたイメージ表現について学修する。（後藤）
- ・パッケージデザインの基礎演習（後藤）

【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

到達目標

- 1 言葉の意味などをイメージ表現できるスキル、発想力を磨き、表現に活かすことができる。
- 2 コンセプトから表現に至るまでの効果的な作業プロセスを理解できる。
- 3 視覚的表現を用いたコミュニケーションの可能性を理解できる。
- 4 デザインに関する基礎的な知識、技術を理解できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢50%、課題作品50%の割合で評価する。

注意事項

調査などで学外で授業を行う場合がある。

授業計画

【1～7 担当：ウォルトン】

1. オリエンテーション：課題説明・構想開始
2. 平面構成 Step 1：構想、スケッチ
3. 平面構成 Step 2：スケッチ、着彩
4. 講評（ウォルトン）、オリエンテーション：課題説明・構想開始
5. 平面構成 Step 1：構想、スケッチ
6. 平面構成 Step 2：スケッチ、着彩
7. 講評（ウォルトン）

【8～14 担当：後藤】

8. オリエンテーション：課題説明・構想開始
9. 平面構成 Step 1：構想、スケッチ
10. 平面構成 Step 2：スケッチ、着彩
11. 講評（後藤）
12. オリエンテーション：課題説明・構想開始
13. 平面構成 Step 1：構想、スケッチ
14. 平面構成 Step 2：スケッチ、着彩
15. 講評（後藤）

授業外学習

- ・授業時間内に未完成であった部分は授業外学習として次回までに必ず完成すること。
- ・学習時間の目安：合計30時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

デザイン基礎Ⅱ（12455）

後期

Basis of Design Ⅱ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 柳田宏治

授業の概要

- ・芸術の基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・デザインの基礎となる立体構成を柱に、造形の各要素（形、質感、色）について基礎知識を演習形式で学習する。
- ・【アクティブラーニング】グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】演習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 基本的な立体構成力を磨き、簡単な構成ができる。
- 2 造形の各要素（形、質感、色）の基礎知識を理解し活用できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 5 0 %、課題作品 5 0 %の割合で評価する。

注意事項

- ・演習はグループワークを基本とする。
- ・作品制作だけでなく、プレゼンテーションも授業の重要な要素の一つである。
- ・調査などのために学外で授業を行うことがある。

授業計画

授業計画01：形とデザイン 演習 1：形のイメージ分析
授業計画02：形とデザイン 演習 2：形の制作
授業計画03：形とデザイン 演習 3：形の応用
授業計画04：質感とデザイン 演習 1：質感のイメージ分析
授業計画05：質感とデザイン 演習 2：質感の制作
授業計画06：質感とデザイン 演習 3：質感の応用
授業計画07：色とデザイン 演習 1：配色のイメージ分析
授業計画08：色とデザイン 演習 2：配色の制作
授業計画09：色とデザイン 演習 3：配色の応用
授業計画10：造形 3 要素とデザイン 演習 1：製品のイメージ分析
授業計画11：造形 3 要素とデザイン 演習 2：テーマ探索
授業計画12：造形 3 要素とデザイン 演習 3：コンセプト策定
授業計画13：造形 3 要素とデザイン 演習 4：アイデア展開
授業計画14：造形 3 要素とデザイン 演習 5：モデル制作
授業計画15：造形 3 要素とデザイン 演習 6：プレゼンテーション

授業外学習

- ・毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
- ・学習時間の目安：合計30時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

絵画基礎 I（12201）

前期

Basic Painting I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 近藤千晶

授業の概要

基礎的なデッサン力を習得することを目標とし、鉛筆デッサンを主体に演習形式の授業をおこなう。まず、デッサンのモチーフは立方体や円柱、球などの単純な幾何形態の単体を観察、描写することによりパースペクティブなどの形態認識の基本、陰影の表現の基本を習得する。次に段階的に複雑な要素を含む人工物や有機物、人体などのモチーフへ移行し、質感、量感を含めた表現、描写力を養い、さらに複数のモチーフを用いたデッサンを行うことで、空間認識や、奥行き表現を習得すると同時に構図、構成など画面全体を意識した表現ができるようになる。

【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- ①基本的な単体の幾何形態を観察、描写することで、形態認識の基本、陰影の表現の基本を習得し、鉛筆で描写することができる。
- ②人工物、有機物、人体などを描写することで、質感、量感の表現を習得し、鉛筆で描写することができる。
- ③複数のモチーフを組み合わせることで、空間認識や、奥行き表現を習得し、鉛筆で表現することができる。
- ④構図、構成など画面全体を意識した表現をすることができる。

評価方法

- ・制作態度の評価の観点（（1）主体的に課題に取り組んでいるか。（2）課題の意図するところを理解しようとしているか、あるいは理解するために努力をしているか）・・・以上について20%の割合で配点する。
- ・完成作品の評価の観点（課題作品の完成度、デッサンに必要な技術、考え方の習熟度、画材に対しての技術到達度を評点する）・・・以上について80%の割合で配点する。

注意事項

授業の最初に人物クロッキーなどを数ポーズ行うことがある。

本科目は教員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなくてはならない。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 単体モチーフデッサン（立方体）〔近藤〕
- 第3回 単体モチーフデッサン（円柱）〔近藤〕
- 第4回 単体モチーフデッサン（球）〔近藤〕
- 第5回 静物デッサン（立方体など複数のモチーフ）〔近藤〕
- 第6回 静物デッサン（立方体など複数のモチーフ）〔近藤〕
- 第7回 単体モチーフデッサン（ビニール袋、透明感、可変性のあるモチーフ）〔近藤〕
- 第8回 単体モチーフデッサン（ビニール袋、透明感、可変性のあるモチーフ）〔近藤〕
- 第9回 単体モチーフデッサン（形が一定の工業製品）〔近藤〕
- 第10回 単体モチーフデッサン（形が一定の工業製品）〔近藤〕
- 第11回 静物デッサン（人工物、植物などの有機物を組み合わせたモチーフ）〔近藤〕
- 第12回 静物デッサン（人工物、植物などの有機物を組み合わせたモチーフ）〔近藤〕
- 第13回 静物デッサン（木炭紙程度の大きな画用紙に描く、様々な質感のモチーフ）〔近藤〕
- 第14回 静物デッサン（木炭紙程度の大きな画用紙に描く、様々な質感のモチーフ）〔近藤〕
- 第15回 人物デッサン（人物モデルを使用してのクロッキー及び固定ポーズ鉛筆デッサン）〔近藤〕

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

デッサンに関する研究レポートや、作品研究などを行う。

教科書

特に使用しない。

参考書

それぞれのテーマに即した作例などを紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	森山知己 五十嵐英之

授業の概要

・古典的な日本画表現技法を実際に試して描くことで学ぶ。（森山）

・今日の多様化する絵画表現において、「日本画」がどのように位置づけられるかを、講義・解説により学ぶ。またその独自と考えうる特徴や特質を競争力と捉え、実際の材料や道具に触れ、代表的な表現技法を試すことで日本画表現の基礎学習を行う。（森山）

- ・西洋の絵画基礎と描画の発達について
- ・絵画表現の基礎として描画の発達について学ぶ。（五十嵐）
- ・油彩画の歴史及び技法についての知識や基礎技術を習得する。（五十嵐）
- ・油彩画と版画の古典技法における素材、道具の扱い方を実践的に学ぶ。（五十嵐）

【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。

【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 絵画における描画材料と表現手法の関係性についてを理解できる。（森山）
- 2 「日本画」の現在における位置づけ・可能性についてを理解できる。（森山）
- 3 描画材の積極的な選択と、その表現の可能性について探求する態度を理解できる。（森山）

- 西洋の絵画基礎と描画の発達について：
- 4 描画の発達段階等について理解する。（五十嵐）
 - 5 油彩画のメディウム、支持体、顔料の扱いを理解する。（五十嵐）
 - 6 版画技法を用いて、版画の4 版種等について理解する。（五十嵐）

評価方法

- ・課題作品、レポート（60％）、制作過程（質疑応答含む 40％）で評価を行う。最終成績は、両教員で協議し評価する。（森山）
- ・提出作品80％、提出資料20％（五十嵐）

注意事項

- ・日本の絵画基礎：共有の道具類の扱いには細心の注意を払い、丁寧に使うこと。（森山）
 - ・実習における作品制作に必要な材料は、準備したものを用いる。さらに研究を展開する場合は、個々で材料を準備する。（五十嵐）
- 調査等のため学外に出て授業を行う。

本科目は教員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなくてはならない。

授業計画

- 1週目：授業概要の説明
- 「学校で教えてくれなかった日本画の話」（森山）
- 日本画とはどんな絵画を言うのかについて、歴史を概観します。
- 日本画の材料や道具・具体的な制作プロセス（古典的表現）についてを紹介
- 2週目：「安定に記録する存在として画材を考える」（森山）
- 「墨」や「筆」の良し悪しについて。「線を描くこと」を実際に試す。
- 3週目：「素材と技法の出会い」（生紙）（森山）
- 水墨表現・伊藤若冲の「筋目描き」を試すことで、材料と表現における発見についてを学ぶ。
- 4週目：「紙の加工」支持体について（熟紙）（森山）

「ドーサ引き」を行うことで加工紙（熟紙）を作る。支持体の選択について。

5週目：「たらし込み」「方ぼかし」（森山）

熟紙における水墨表現を試見る。揉み紙など料紙制作について。

6週目：箔、絵の具を使った表現について（森山）

箔を用いた表現や、絵の具の積層の技術などについて学ぶ。

7週目：「裏打ち」パネル張り込み（森山）

作成したそれぞれを組み合わせ一つの作品として感性する。

8週目：1限目／ 研究会 授業を通じて日本画をどのように捉えることが出来たかを自身の自由制作を使ってそれぞれが発表する（森山）

2限目／ 描画の発達について（五十嵐）

9週目：描画の発達について（五十嵐）

10週目：油彩画の技法 1 道具の扱いについて／筆の形と材質（五十嵐）

11週目：油彩画の技法 2 メディウムの調合について／揮発性油と乾性油、ダンマル樹脂（五十嵐）

12週目：油彩画の歴史について（五十嵐）

13週目：版画の4版種と基礎技法（五十嵐）

14週目：版画の基礎技法・実践（五十嵐）

15週目：講評会（五十嵐）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

・材料や技法の成り立ちを知ること得た「言葉」や「実感」を、美術館や博物館などでの実際の絵画鑑賞における具体的な力とする。（森山）

・自分と自然、また社会との関係についてを常に考え、材料の選択や表現手法を結びつける習慣を作る。（森山）

・美術館やギャラリーに行って、絵画の歴史上の代表作品を鑑賞する。（五十嵐）

教科書

特になし（森山）

『Live with Drawing 五感・授受』（KAファクトリー）（五十嵐）

参考書

必要に応じて提示（森山）

Live with Drawing 等の資料を映像や画像で紹介する。（五十嵐）

備考

彫刻基礎（12504）

前期

Basic Sculpture

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	田丸稔

授業の概要

いくつかの素材及び技法の体験を通して、立体分野における造形表現の基本的な内容について学習する。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 立体及び彫刻芸術表現について理解できる。
- 2 制作体験を通してより深く理解できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢・態度の評価（20％）と、課題作品の評価（80％）の総合評価とする。

注意事項

- ・必要に応じて自習用の課題を設ける。
- ・作品提出は期限を厳守すること。
- ・汚れても良い服装、動きやすい服装を心がけること。
- ・スケッチブック、鉛筆等を必ず準備すること。（B4以上）
- ・カッター、物差し、糊、両面テープを指示に応じて準備すること

調査等のため、学外に出て授業を行う。

本科目は教員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなくてはならない。

授業計画

- 1週目：オリエンテーション（授業の目的と概要について）
- 2週目：彫刻の歴史と実制作への誘い（スライドおよび映画等の鑑賞）
- 3週目：塑造体験（塑造のアトリエの使い方について知る。粘土を練る。形を作る。）
- 4週目：塑造制作-1（球、円錐、などの基本的な形態を作る。基本的な形態を分割して構成する。）
- 5週目：塑造制作-2（自分の手のデッサンをする。粘土で手を制作する。）
- 6週目：塑造制作-3（自分の顔のデッサンをする。粘土で自刻像を制作する。）
- 7週目：塑造制作-4（テラコッタ粘土によるレリーフ制作をする。）
- 8週目：塑造制作-5（塑造制作のまとめ）
- 9週目：彫刻の歴史
- 10週目：その他の素材による「めざし」（変更の場合あり）の制作：スケッチ（木材等）
- 11週目：その他の素材による「めざし」（変更の場合あり）の制作：粗彫り（木材等）
- 12週目：その他の素材による「めざし」（変更の場合あり）の制作：仕上げ（木材等）
- 13週目：その他の素材による「めざし」（変更の場合あり）の制作：粗づけ（バテ・石粉粘土等）
- 14週目：その他の素材による「めざし」（変更の場合あり）の制作：仕上げ（バテ・石粉粘土等）
- 15週目：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

作品の構想、課題の復習等。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

コンピュータ演習 I (12403)

前期

Study of Computer I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	1. 0 単位
担当教員	松本恭吾

授業の概要

画像を扱うクリエイティブ系業界の標準ソフトであるAdobe IllustratorとPhotoshopを使いこなし、簡単なアイデアのプレゼンテーションボード、自作品のポートフォリオを作れるようになることを本講義の最終目標にする。

デジタルコンテンツ制作において必要とされる基本的な技術の習得を目的に、Macの基本操作、高度なグラフィックソフトであるAdobe IllustratorとPhotoshopの基本操作と連携について学んでいく。

”身近である写真の加工や合成する楽しいところを導入に、パソコン操作、アドビ系ソフトの基本操作概念を身に付け、ポートフォリオ、プレゼンテーションボードを制作できるようにする。

到達目標

- 1 PCの基本的スキルの習得し、Adobe Illustrator、Adobe Photoshopの基本操作ができる。
- 2 ペンツールなどを使用したシンプルなイラストの作成と、両ソフトを連携し、プレゼンテーションボード、ポートフォリオなど基礎的なデザイン制作ができる。
- 3 写真の調整、切り抜き加工を理解し効果的なプレゼンテーションボード、ポートフォリオを制作できる。

評価方法

出席状況（60％）、課題提出（40％）

注意事項

課題などの提出期限の厳守すること。

課題ファイルのバックアップのため、USBフラッシュメモリー1GB（以上）を持参すること。

授業計画

1週目：Adobe Photoshopの基本操作（1）：操作の基本概念、写真の調整と切り抜き、パス、選択範囲について

2週目：Adobe Photoshopの基本操作（2）：各種パネルについて、写真の調整と切り抜き、レイヤーについて

3週目：Adobe Photoshopの基本操作（3）：画像解像度について、簡単な写真画像の合成法

4週目：Adobe Photoshopの基本操作（4）：ブラシツールについて、写真にペイントを加える

5週目：Adobe Illustratorの基本操作（1）：Illustratorについて

Adobe Illustratorの基本操作（2）：文字ツールについて、レイヤーについて、Photoshopで加工した写真を配置し文字と組み合わせる

6週目：Adobe Illustratorの基本操作（3）：写真を配置し文字と組み合わせる、画面のリズムとレイアウトの法則

7週目：課題制作（1）：自作ポートフォリオの表紙を制作する

8週目：課題制作（2）：自作ポートフォリオの表紙と中身を制作する

9週目：Adobe Illustratorの基本操作（4）：ペンツールについて、イラストの作成①

10週目：Adobe Illustratorの基本操作（5）：ペンツールについて、イラストの作成②

11週目：Adobe Illustratorの基本操作（6）：ガイド、トンボについて

12週目：課題制作（2）：プレゼンテーションボードの制作

13週目：課題制作（2）：プレゼンテーションボードの制作

14週目：課題制作（2）：プレゼンテーションボードの制作

15週目：課題制作（2）：プレゼンテーションボードの制作

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

授業を通じて習得した技術を用いて、ポートフォリオ制作を始め、プレゼンテーションボードなどの積極的な制作を推奨する。

教科書

参考書

やさしいレッスンで学ぶ きちんと身につく Illustratorの教本, ISBN-13: 978-4844366751

photoshopで描くデジタル絵画 -画力向上のアイデアとヒント-, ISBN-13: 978-4862461865

備考

コンピュータ演習Ⅱ（12555）

後期

Study of Computer Ⅱ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	1 年
対象	26 ～ 20 N
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 クリスウォルトン

授業の概要

- ・ 芸術の基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・ コンピュータ演習Ⅰで学んだことを基礎として、画像制作、ページレイアウト、プレゼンテーションの高度なテクニックを発見する。
- ・ ポートフォリオ（作品集）とプレゼンテーションを魅力的、かつ効果的に創作するために必要な実技を学ぶ。
- ・ 課題は、将来行うことになる作品制作発表会、展示、就職活動の準備となるものである。

到達目標

- 1 高度なデジタル制作技法を扱うことができる。
- 2 デジタル制作について習熟し、展覧会への広告、自作の作品ポートフォリオとプレゼンテーションを制作できる。

評価方法

講義に取り組む姿勢 3 0 %、課題提出 7 0 % で評価する。

注意事項

- ・ 本科目は、コンピュータ演習Ⅰで行う Adobe Photoshop、Illustrator の基礎を理解していることを前提として授業を進行する。
- ・ 前述の 2 つのアプリケーションの基礎が足りない場合は、履修前に各自で復習し理解の上コンピュータ演習Ⅰを受講すること。
- ・ 課題は課外の時間におよぶことがある。課題の質を高めるように積極的に取り組むこと。
- ・ 課題ファイルのバックアップのため、USB フラッシュメモリー 3 2 GB（以上）を持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	展示広告：デザイン調査、デザインプランニング
第3回	展示広告：ページレイアウト（１）
第4回	展示広告：ページレイアウト（２）
第5回	展示広告：画像制作、画像修正
第6回	展示広告：フィニッシュワーク
第7回	ポートフォリオ（作品集）：デザイン調査、デザインプランニング
第8回	ポートフォリオ：ページレイアウト（１）
第9回	ポートフォリオ：ページレイアウト（２）
第10回	ポートフォリオ：画像制作、画像修正
第11回	ポートフォリオ：フィニッシュワーク
第12回	プレゼンテーション：デザイン調査、デザインプランニング
第13回	プレゼンテーションのレイアウト
第14回	プレゼンテーションのフィニッシュワーク、
第15回	全体講評

授業外学習

- ・授業中に扱った機能や技法について理解が足りない場合は、課外の時間を使用してよく復習すること。
- ・授業の進度に遅れないよう、前回の授業で学んだ内容と技法について、よく復習や練習をしておく必要がある。
- ・課題の説明資料をよく参考しておく必要がある。
- ・課題作品の提出期限は、厳守しなければならない。

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 松本恭吾

授業の概要

- ・芸術の基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・図学で習得した理論と図法を使い、立体や空間を自由に図面化する基礎技法を学ぶ。
- ・ファインアート系、工芸系、デザイン系の学生が各専門分野における制作に実践的に使用できる知識を学べるよう講義を構成している。

到達目標

- 1 簡単な立体や空間を三面図及びパースペクティブを使い表現し、図面を作成して他者に伝達することができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢50%、提出課題50%の割合で評価する。

注意事項

- ・「製図演習Ⅰ」と連動した内容のため、併せて履修すること。
- ・製図用具の準備、購入が必要。第一回目授業にて指示する。
- ・調査などのために学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 1週目：オリエンテーション、スケッチ図とアイソメトリック図法
- 2週目：図法の種類概説と容器画法基礎
- 3週目：正投影法 1（第三角法）
- 4週目：正投影法 2（第三角法）
- 5週目：軸則投影法 1（等角投影法）
- 6週目：軸則投影法 2（等角投影法）
- 7週目：軸則投影法（不等角投影法）
- 8週目：透視投影図法（一点投影法）
- 9週目：透視投影図法（二点投影法）
- 10週目：図面から透視投影図を作る（足線法） 1
- 11週目：図面から透視投影図を作る（足線法） 2とレンダリング
- 12週目：（演習）オリジナルデザインの製図（スケッチ図とアイソメトリック図法の応用）
- 13週目：（演習）オリジナルデザインのパース制作とレンダリング
- 14週目：（演習）オリジナルデザインのパース制作とレンダリング
- 15週目：プレゼンテーション

授業外学習

- ・毎回、授業外学習のための演習課題を出すので、次回授業冒頭に提出すること。
- ・学習時間の目安：合計60時間

教科書

「デザインの製図」(Technical Drawing For Beginners)、ポーンデジタル(2016)、青木英明 他、ISBN:978-4862462886

その他、適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 松本恭吾

授業の概要

- ・ 芸術の基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・ 図学で習得した理論と図法を使い、立体や空間を自由に図面化する基礎技法を学ぶ。

到達目標

- 1 簡単な立体や空間を三面図及びパースペクティブを使い表現し、図面を作成して他者に伝達することができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢50%、提出課題50%の割合で評価する。

注意事項

- ・ 「図学」と連動した内容のため、併せて履修すること。
- ・ 製図用具の準備、購入が必要。第一回目授業にて指示する。
- ・ 調査などのために学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 1週目：オリエンテーション、道具の使い方、製図とは
- 2週目：図面の構成、図面模写
- 3週目：正投影の基本
- 4週目：三面図 1：基本図形
- 5週目：三面図 2：応用図形
- 6週目：三面図 3：製品の製図（おもちゃA）
- 7週目：三面図 4：製品の製図（おもちゃB）
- 8週目：三面図 5：製品の製図（家電製品）
- 9週目：三面図6：製品の製図（実物を計測し図面化）
- 10週目：図面から立体を起こす 1
- 11週目：図面から立体を起こす 2
- 12週目：（演習）オリジナルデザインの製図（方向性の検討と発展）
- 13週目：（演習）オリジナルデザインの製図と立体制作
- 14週目：（演習）オリジナルデザインの製図と立体制作
- 15週目：プレゼンテーション

授業外学習

- ・ 毎回、授業外学習のための演習課題を出すので、次回授業冒頭に提出すること。
- ・ 学習時間の目安：合計15時間

教科書

「デザインの製図」(Technical Drawing For Beginners)、ポーンデジタル(2016)、青木英明 他、ISBN:978-4862462886
その他、適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 18 N
単位数	1． 0 単位
担当教員	 三木裕紀

授業の概要

- ・ 芸術の基礎的な知識を身につける科目として位置付けている。
- ・ 演習形式によって3次元CADによる製図方法を習得する。
- ・ 作成した3次元データを活用してレンダリング表現や3Dプリンターによる試作を行い、製図を中心にしたものづくりのプロセスを体験的に理解する。

到達目標

- 1 3次元CADによる基本的なモデリングとレンダリングの技法を習得し、単純な造形のモデリングとレンダリングができる。

評価方法

- ・ 授業に取り組む姿勢 7 0 %、提出課題 3 0 %の割合で評価する。
- ・ 課題未提出者には単位は認められない。

注意事項

- ・ 「製図演習Ⅰ」履修済みが受講の条件となる。
- ・ 3年次から生活プロダクト分野を選択する者は必ず履修すること。
- ・ 集中授業の形式で行うので日程に注意すること。
- ・ 演習の調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

授業計画01：オリエンテーション

授業計画02：概要・各種設定方法

授業計画03：3次元CADによる作図 1：基本造形のモデリング 1

授業計画04：3次元CADによる作図 2：基本造形のモデリング 2

授業計画05：3次元CADによる作図 3：基本造形のモデリング 3

授業計画06：3次元CADによる作図 4：製品のモデリング 1

授業計画07：3次元CADによる作図 5：製品のモデリング 2

授業計画08：3次元CADによる作図 6：製品のモデリング 3

授業計画09：3次元CADによる作図 7：製品のモデリング 4

授業計画10：3次元CADによる製図を活用したスケッチ 1：製品のレンダリング 1

授業計画11：3次元CADによる製図を活用したスケッチ 2：製品のレンダリング 2

授業計画12：3次元CADによる製図を活用した造形 1：3Dプリンタによる試作 1

授業計画13：3次元CADによる製図を活用した造形 2：3Dプリンタによる試作 2

授業計画14：プレゼンテーション制作

授業計画15：プレゼンテーション、総括

授業外学習

- ・ 授業課題の未達成分は宿題とする。
- ・ 各回の授業で学んだことを基に次回授業を行うので、十分復習しておくこと。
- ・ 学習時間の目安：合計15時間

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

総合プロジェクト実習 I (12506)

前期

Design Project I

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	● 後藤秀典 ● 磯谷晴弘 ● 松岡智子 ● 近藤千晶 ● クリスウォルトン ● 井上昌崇 ● 五十嵐英之 ● 柳田宏治 ● 吉田磨希 ● 森山知己 ● 川上幸之介 ● 正宗幸子

授業の概要

- ・デザイン・アート両領域の諸分野を融合した総合的なデザイン芸術の応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザイン・アート各分野の「プロジェクト」の考え方と方法を学修する実習科目である。総合プロジェクト演習I,IIの応用となる。
- ・デザイン・アート各分野を横断したテーマを扱い、グループワークを基本とする。
- ・「テーマ1：プロジェクトの計画」では、小規模な産官学連携プロジェクトなどにより、地域活性や商品開発などのテーマで提案を行う。
- ・「テーマ2：プロジェクトの実践」では、産官学連携プロジェクトなどにより、地域活性や商品開発などのテーマで実践的に取り組み実社会での実施(事業化)を目指した提案を行う。
- ・テーマ2は、2年次科目「総合プロジェクト演習I」および4年次科目「総合プロジェクト実習III」と合同で行う。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】実習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
- ・本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な必修(または選択)科目である。

到達目標

- 1 デザイン/アートプロジェクトの企画・運営の考え方と方法を理解できる。
- 2 応用的なデザイン/アートプロジェクトを自ら企画・運営できる。
- 3 総合的なデザイン芸術の応用的知識及び技能を身につけ、専門分野の諸問題を自ら解決できる。

評価方法

提出物50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

- ・グループワークでは積極的な参加が求められる。
- ・プロジェクトの調査や実施等のため学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部分は集中授業の形式で行うので日程に注意すること。

授業計画

1-5.テーマ1：プロジェクトの計画

- 1.「プロジェクトの計画」概説
- 2.現状調査
- 3.制作1
- 4.制作2
- 5.プレゼンテーション

6-10.テーマ2：プロジェクトの実践

※テーマ2は複数のクラスに分かれて実施する。

詳細は授業（6回目）の中でオリエンテーションを行う。
※スケジュールは連携先との調整により変更することがある。

- 6.プロジェクト概説
- 7.プロジェクトに関する調査（学外実習）
- 8.コンセプト策定
- 9.制作 1
- 10.制作 2
- 11.制作 3
- 12.制作 4
- 13.制作 5
- 14.制作 6
- 15.プレゼンテーション

授業外学習

- ・ 毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
- ・ 学習時間の目安：合計30時間

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

「情報デザインのワークショップ」情報デザインフォーラム編、丸善出版 (2014) 978-4621088371
「ソーシャルデザイン実践ガイド - 地域の課題を解決する 7 つのステップ」筧裕介、英治出版 (2013) 978-4862761491
「ワークショップ - 偶然をデザインする技術」中西紹一編、宣伝会議 (2006) 978-4883351602
その他、適宜紹介する。

備考

総合プロジェクト実習Ⅱ（12554）

後期

Design Project Ⅱ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	● 後藤秀典 ● 松岡智子 ● 近藤千晶 ● 田丸稔 ● クリスウォルトン ● 五十嵐英之 ● 柳田宏治 ● 吉田磨希 ● 森山知己 ● 川上幸之介 ● 正宗幸子

授業の概要

- ・デザイン・アート両領域の諸分野を融合した総合的なデザイン芸術の応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザイン・アート各分野の「プロジェクト」の考え方と方法を学修する実習科目である。総合プロジェクト実習Ⅰの発展となる。
- ・デザイン・アート各分野を横断したテーマを扱い、グループワークを基本とする。
- ・産官学連携プロジェクトなどにより、地域活性や商品開発などのテーマで実践的に取り組み実社会での実施(事業化)を目指した提案を行う。
- ・「テーマ1：プロジェクトの実践」では、産官学連携プロジェクトなどにより、地域活性や商品開発などのテーマで実践的に取り組み実社会での実施(事業化)を目指した提案を行う。
- ・「テーマ2：デザイン/アートプロジェクト事例研究」では、芸術系他大学の卒業研究を対象に事例研究を行う。
- ・テーマ1は2年次科目「総合プロジェクト演習Ⅱ」と合同で行う。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】実習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
- ・本科目は、「くらしき若衆」の認定に必要な必修(または選択)科目である。

到達目標

- 1 デザイン/アートプロジェクトの企画・運営の考え方と方法を理解できる。
- 2 応用的なデザイン/アートプロジェクトを自ら企画・運営できる。
- 3 総合的なデザイン芸術の応用的知識及び技能を身につけ、専門分野の諸問題を自ら解決できる。

評価方法

提出物50%、授業に取り組む姿勢50%の割合で評価する。

注意事項

- ・グループワークでは積極的な参加が求められる。
- ・プロジェクトの調査や実施等のため学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部分は集中授業の形式で行うので日程に注意すること。

授業計画

1-10.テーマ1：プロジェクトの実践

※テーマ1は複数のクラスに分かれて実施する。

詳細は授業（1回目）の中でオリエンテーションを行う。

※スケジュールは連携先との調整により変更することがある。

1.プロジェクト概説

2.プロジェクトに関する調査（学外実習）

3.コンセプト策定

4.制作 1

- 5.制作2
- 6.制作3
- 7.制作4
- 8.制作5
- 9.制作6
- 10.プレゼンテーション

11-15.テーマ2：「デザイン/アートプロジェクト事例研究」（全員）

集中講義1日目1-5時限：学外実習1 芸術系他大学の卒業制作展視察1

集中講義2日目1-5時限：学外実習2 芸術系他大学の卒業制作展視察2

授業外学習

- ・ 毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
- ・ 学習時間の目安：合計30時間

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

「デザイン思考の教科書 - 欧州トップスクールが教えるイノベーションの技術」 A.F.ブイエ他、日経BP社(2015) 978-4822250645

「システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM『イノベーションのつくり方』」 前野隆司他、日経BP社(2014)978-4822249946

「101デザインメソッド - 革新的な製品・サービスを生む『アイデアの工具箱』」 ヴィジェイ・クーマー、英治出版(2015) 978-4862761750

その他、適宜紹介する。

備考

総合プロジェクト実習Ⅲ（12507）

前期

Design Project Ⅲ

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	● 後藤秀典 ● 磯谷晴弘 ● 松岡智子 ● 近藤千晶 ● クリスウォルトン ● 五十嵐英之 ● 張慶南 ● 柳田宏治 ● 吉田磨希 ● 森山知己 ● 川上幸之介 ● 正宗幸子

授業の概要

- ・デザイン・アート両領域の諸分野を融合した総合的なデザイン芸術の応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。
- ・デザイン・アート各分野の「プロジェクト」の考え方と方法を学修する実習科目である。総合プロジェクト実習I,IIの発展となる。
- ・デザイン・アート各分野を横断したテーマを扱い、グループワークを基本とする。
- ・「テーマ1：プロジェクトの計画」では、小規模な産官学連携プロジェクトなどにより、地域活性や商品開発などのテーマで提案を行う。
- ・「テーマ2：プロジェクトの実践」では、産官学連携プロジェクトなどにより、地域活性や商品開発などのテーマで実践的に取り組み実社会での実施(事業化)を目指した提案を行う。
- ・テーマ1は3年次科目「総合プロジェクト実習I」と、テーマ2は2年次科目「総合プロジェクト演習I」および3年次科目「総合プロジェクト実習I」と合同で行う。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】実習課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- ・デザイン/アートプロジェクトの企画・運営の考え方と方法を理解できる。
- ・応用的、発展的なデザイン/アートプロジェクトを自ら企画・運営できる。
- ・総合的なデザイン芸術の応用的知識及び技能を身につけ、専門分野の諸問題を自ら解決できる。

評価方法

提出物50%、授業に取り組む姿勢50%の割合で評価する。

注意事項

- ・グループワークでは積極的な参加が求められる。
- ・プロジェクトの調査や実施等のため学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部分は集中授業の形式で行うので日程に注意すること。

授業計画

1-5.テーマ1：プロジェクトの計画

- 1.「プロジェクトの計画」概説
- 2.現状調査
- 3.制作1
- 4.制作2
- 5.プレゼンテーション

6-10.テーマ2：プロジェクトの実践

※テーマ2は複数のクラスに分かれて実施する。

詳細は授業（6回目）の中でオリエンテーションを行う。
※スケジュールは連携先との調整により変更することがある。

- 6.プロジェクト概説
- 7.プロジェクトに関する調査（学外実習）
- 8.コンセプト策定
- 9.制作 1
- 10.制作 2
- 11.制作 3
- 12.制作 4
- 13.制作 5
- 14.制作 6
- 15.プレゼンテーション

授業外学習

- ・ 毎回、授業外学習のための演習課題を出し次回授業で講評するので、必ず課題を提出すること。
- ・ 学習時間の目安：合計30時間

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

「情報デザインのワークショップ」情報デザインフォーラム編、丸善出版 (2014) 978-4621088371
「ソーシャルデザイン実践ガイド - 地域の課題を解決する 7 つのステップ」筧裕介、英治出版 (2013) 978-4862761491
「ワークショップ - 偶然をデザインする技術」中西紹一編、宣伝会議 (2006) 978-4883351602
その他、適宜紹介する。

備考

年次	3 年
対象	24 ～ 17 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 高橋智

授業の概要

人間の一般的な知覚，認知能力とそのメカニズムを知ることは，人間の感性を理解するために重要である．
本講義では，授業計画に示す人間の種々の知覚，認知能力について講義を行う．
講義終了時に行う講義内容のポイントに関する小テストと，複数回行う課題レポートに取り組むことによって，理解度を確かめる．

到達目標

- 1 人間の知覚，認知，行動，記憶能力について理解し，説明できる．
- 2 人間の認知の基礎を理解し，ユニバーサルデザインへ応用できる．

評価方法

・評価は，受講態度と授業終了時に行う小テスト(40%)，課題レポート提出(60%)で評価する．

注意事項

この講義は非常勤教員が担当するため，質問は講義中または講義終了後に行うこと．

授業計画

回数	内容
第1回	認知神経科学の背景と研究方法，視覚
第2回	触覚と体性感覚
第3回	運動視
第4回	聴覚
第5回	立体視
第6回	顔認知
第7回	形とイメージ
第8回	3D物体の認知，空間のイメージ
第9回	色の認知
第10回	感性認知
第11回	記憶
第12回	知覚と記憶による特徴の統合，
第13回	潜在的知覚，味覚
第14回	嗅覚，空間のイメージ
第15回	錯覚

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
・毎回，講義終了後に講義内容に関連した小テストを実施する．

- ・ 随時指定する複数回の課題レポートを提出する。
-

教科書

教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

参考書

- ・ 乾敏郎著「感覚・知覚・認知の基礎」，オーム社，ISBN:978-4274211492
 - ・ 綾部早穂，熊田孝恒編「感覚知覚心理学」，サイエンス社，ISBN:978-4781913322
 - ・ 菊地正著「感覚知覚心理学」，朝倉書店，ISBN-13: 978-4254526660
 - ・ 箱田裕司，都築誉史，川畑秀明，萩原滋著「認知心理学」，有斐閣，ISBN-13: 978-4641053748
-

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 大屋努

授業の概要

新しいメディア環境に対応した芸術表現として様々なメディア・アート作品を紹介し、テクノロジーとアートの関係を理解し、メディア・アートの本質を考察する。

メディア・アートとは、工学などの先端技術を取り入れたアートで、近年はコンピュータをはじめとするデジタルメディアの発展に伴い、インタラクティブアートが注目されている。

【フィードバック】

課題に対する講評等のフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 様々な分野のメディア・アートに触れ、テクノロジーとアートの関係を理解し考察できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（50％）と発表内容（50％）で評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

特になし

授業計画

回数	内容
第1回	メディア・アートとは？
第2回	メディア・アートの動向と作品紹介（メディア芸術祭）
第3回	メディア・アートの動向と作品紹介（Ars Electronica 1）
第4回	メディア・アートの動向と作品紹介（Ars Electronica 2）
第5回	メディア・アートの動向と作品紹介（Ars Electronica 3）
第6回	メディア・アート作品紹介（インスタレーション）
第7回	メディア・アート作品紹介（デバイスアート）
第8回	メディア・アート作品紹介（インタフェース）
第9回	メディア・アート作品紹介（Web・ソーシャル）
第10回	メディア・アート作品紹介（バイオ・その他）
第11回	受講者 発表（1）
第12回	受講者 発表（2）
第13回	受講者 発表（3）
第14回	受講者 発表（4）
第15回	受講者 発表（5）

授業外学習

学習時間の目安： 合計60時間

- ・ 各分野のメディア・アートについて調べ理解を深める。
 - ・ 授業内で発表を行うために調査と準備を行う。
-

教科書

授業時間に適宜指示する。

参考書

授業時間に適宜指示する。

備考

知的財産権（12152）

後期

Intellectual Property Rights

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 17 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 下尾邦之

授業の概要

・総合的なデザイン芸術の基礎的、応用的な知識および技能を身につける科目として位置付けている。

・日常から著作権や特許などの言葉を聞く事はあると思うが、それらを含む知的財産権について正しく理解している人は少ない。特に、創作活動を主軸とする芸術系大学生にとっては、知的財産権の知識のみならず自らの創作に密接した実践スキルを持つことが必要であり、それは創作者としての社会的な責任でもある。この授業では、在学中だけに限らず卒業後におけるビジネスあるいは創作活動も含めて、実質的に知財スキルを活用できる人材の育成を目指す。

到達目標

- 1 三級知的財産管理技能士相当の知識力と実践力を習得することができる。
- 2 自分の作品の権利を守ることだけでなく、自分が人の権利を侵さない様に法律を正しく理解することができる。

評価方法

授業レポートA（毎回提出）：20％、授業レポートB（15回分を定期試験日に提出）：40％、定期試験：40％ の割合で評価する。

注意事項

- ・社会的にますます知財人材の強化がもてめられているので、受講を機に国家資格である知的財産管理技能検定3級（年3回）の受験・取得を勧める。
- ・演習の調査等で学外で授業を行うことがある。
- ・授業の一部は集中授業形式になることがあるのでスケジュールに注意すること。

授業計画

授業計画01：オリエンテーション：授業の目的と方法、評価基準の説明

授業計画02：知的財産権の概要：知的財産権の全体像を把握

授業計画03：著作権1：著作権の全体像を把握

授業計画04：著作権2：著作者人格権と著作財産権

授業計画05：著作権3：著作財産権の制限と保護期間

授業計画06：産業財産権の概要：各財産権の出願・登録

授業計画07：特許権と実用新案権1：特許権と実用新案権の概要

授業計画08：特許権と実用新案権2：発明や考案から出願・登録・実施

授業計画09：意匠権1：意匠権の概要

授業計画10：意匠権2：出願から登録・実施

授業計画11：商標権1：商標権の概要

授業計画12：商標権2：出願から登録・実施

授業計画13：その他の法律：不正競争防止法、独占禁止法、種苗法

授業計画14：条約と国際登録：パリ条約、特許協力条約等

授業計画15：まとめ：知的財産法の総括

授業外学習

- ・授業内容理解確認シート及びテキストを配布するので、予習・復習を心がけること。
- ・次の授業までの1週間で、気になった知財関連ニュースのサマリーと考察をまとめておき、次の授業レポートに記すこと。
- ・各回の始業時に小テストを行うので、前回の授業内容についてよく復習しておくこと。
- ・学習時間の目安：合計60時間

教科書

知的財産管理技能検定3級厳選過去問題集(2020年度版) (日本語) 単行本 2019/7/22

参考書

聴いてわかる著作権法（CD） 塩島武徳 紙子出版企画

備考

コピーライティング（12551）

後期

Copywriting

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 18 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 永井雅之

授業の概要

ネーミング・ラジオCM・グラフィック広告・テレビCMなどのテーマごとにコピー創作法を学んだ後、テーマごとの具体的な課題に取り組むことで、自分のアイデアをコピー化するコピーライティングのプロセスを体験する。

同時に「自分のアイデアをわかりやすくプレゼンテーションする」というクリエイターをめざす人たちすべてに必要なスキルを学習する。

【アクティブラーニング】

課題に対して受講生各自が自分の考えをまとめ、プレゼンテーションを行う。

【フィードバック】

受講生のプレゼンテーションに対して、講師が講評と添削を行う。

到達目標

1 アイデアを発想し、そのアイデアを言葉（コピー）にして発表する初歩的な作業ができる。

評価方法

☆講義に取り組む姿勢（40％）

☆課題に取り組む姿勢および課題レポートの提出・発表の内容（60％）

☆定期試験は行わない。レポートの提出・発表をもって試験に換える。

注意事項

コピーライティングのプロセスは知識として学ぶだけでなく具体的な課題に取り組むことで、理解が深まる。

受講者には与えられた課題に対して受け身の姿勢ではなく、自ら進んで取り組む積極性を期待する。

授業計画

- 1.ガイダンス（講義の目的・スケジュール・注意点）
- 2.コピーライティングの基礎-1（課題オリエンテーション）
- 3.コピーライティングの基礎-2（課題提出・プレゼンテーション）
- 4.ネーミングのコピーライティング-1（課題オリエンテーション）
- 5.ネーミングのコピーライティング-2（課題提出・プレゼンテーション）
- 6.ラジオCMのコピーライティング-1（課題オリエンテーション）
- 7.ラジオCMのコピーライティング-2（課題提出・プレゼンテーション）
- 8.グラフィック広告のコピーライティング-1（課題オリエンテーション）
- 9.グラフィック広告のコピーライティング-2（課題1回目提出・講師添削）
- 10.テレビCMのコピーライティング-1（課題オリエンテーション）
- 11.グラフィック広告のコピーライティング-3（課題2回目提出・プレゼンテーション）
- 12.テレビCMのコピーライティング-2（課題1回目提出・講師添削）
- 13.テレビCMのコピーライティング-3（課題2回目提出・プレゼンテーション）
- 14.アイデア（発想）とコピー（文章）の法則について
- 15.総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

各テーマの講義終了時に提示（オリエンテーション）された課題について

受講生各自が講義内容を復習して課題を解決するアイデアをまとめ

次の講義日にレポートとして提出、発表する。（合計5テーマ予定）

教科書

教科書は使用しない。各講義ごとに講師がレジメを配布する。

参考書

OCC（大阪コピーライターズ・クラブ）年鑑（宣伝会議出版）

備考

タイポグラフィー（12158）

後期

Typography

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 後藤秀典  クリスウォルトン

授業の概要

この授業は、講義と制作を通し、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン全般における、文字を主体とした理論と、表現技術であるタイポグラフィについて学ぶものである。特に、タイプフェイス・デザイン、ロゴマーク（ロゴタイプとシンボルマーク）、ピクトグラム（絵文字・絵言葉）、ダイヤグラム（図表）を取り上げ、タイポグラフィ全般を学ぶ。

到達目標

- 1 対象媒体に対して見やすく、読みやすく、かつ美しい文字表現や、文字組ができる。
- 2 文字が、意味・思考・イメージを視覚的に伝達するための記号であることを理解し、説明できる。
- 3 レタリングとタイポグラフィについて理解し、相違点や関係について説明できる。

評価方法

○授業に取り組む態度・姿勢○レポート（毎回の小課題）○課題制作により、総合的に評価する。評価の比率はそれぞれ20%、40%、40%を基準とする。※欠欠に関しては、特別な理由がない限り、2/3以上の出席をもって、評価対象とする。

注意事項

より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退席の扱い等に関する留意点をまとめた「受講上の注意」を明確にするので、遵守すること。

授業計画

- 01) オリエンテーション（授業概要および、受講上の注意、取り組む姿勢など）
- 02) レタリングとタイポグラフィについて（講義、発表など）
- 03) タイプフェイス・デザイン1（ボディータイプ）
- 04) タイプフェイス・デザイン2（ディスプレイタイプ）
- 05) 文字組（字間、行間、字詰めなど）
- 06) グリッドシステムによる文字組、デザインについて
- 07) ピクトグラムとダイヤグラムについて（講義、発表など）
- 08) ピクトグラムとダイヤグラムの制作
- 09) ピクトグラムとダイヤグラムの発表、講評
- 10) ロゴタイプとシンボルマークについて（講義、発表など）
- 11) ロゴタイプとシンボルマークの制作1（資料収集、分析、アイデアスケッチなど）
- 12) ロゴタイプとシンボルマークの制作2
- 13) ロゴタイプとシンボルマークの発表、講評
- 14) 授業の課題制作をまとめたマイポートフォリオの制作（アイデアスケッチ、制作）
- 15) 全体講評、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業終了後、次回の授業内容について説明しますので、その範囲の専門用語等を調べ理解したり、課題制作をすること。また適宜、講義ごとに小課題を課しますので、授業の開始時に提出できるようにしておくこと。

教科書

特に使用しないが、適宜講義内容に沿ったプリント、資料を配布する。

参考書

○高田雄吉著 「タイポグラフィ・ベーシック」 パイ・インターナショナル
○NPO法人 日本タイポグラフィ協会編集「日本タイポグラフィ年鑑」パイ・インターナショナル
○東京コピーライターズクラブ編集「TCCコピー年鑑」株式会社宣伝会議
など、適宜授業に沿って紹介する。

備考

文化財学概論（12103）

後期

Introduction to Study of Cultural Properties

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	3 年
対象	24 ～ 17 N
単位数	2. 0 単位
担当教員	 守田均

授業の概要

先人が残した絵画、彫刻、工芸、建築物といった文化財は、現在に生かし、かつ後代に継承すべき人類共通の貴重な財産である。文化財学の重要性を認識し、現代社会における文化財の状況を把握し、なすべき道筋を見極めることを目指す。

到達目標

- 1 現代社会においての文化財の重要性を理解できる。
- 2 文化財の保護と活用に関与するための基本的姿勢を理解できる。

評価方法

課題レポート中心に評価する。

注意事項

所定の提出物を全て提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに
第2回	文化財の定義と種類（1）
第3回	文化財の定義と種類（2）
第4回	歴史的背景（1）
第5回	歴史的背景（2）
第6回	現代社会と文化財（1）
第7回	現代社会と文化財（2）
第8回	文化財行政（1）
第9回	文化財行政（2）
第10回	日本における文化財史
第11回	日本における文化財の現状（1）
第12回	日本における文化財の現状（2）
第13回	世界における文化財の現状（1）
第14回	世界における文化財の現状（2）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

独自で文化財を鑑賞・体験し、知識を深めておくこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

博物館実習（12609）

通年

Museological Practicum

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	3. 0 単位
担当教員	 松岡智子

授業の概要

実習生は希望する実習先（大原美術館、ライフパーク倉敷科学センター、加計美術館、玉野海洋博物館など）で、事前実習を含めた短期の実習を行う。また、岡山県内の美術館・博物館の見学実習を行う。

到達目標

1. 学芸員の仕事の内容を他者に明確に説明できる。
2. 博物館活動を理解し説明できる。
3. 博物館資料の取り扱いや事務・実務能力の基本的な姿勢を理解し説明できる。

評価方法

事前指導と見学実習の課題レポート 3 0 % (到達目標 2 を評価) 及び、博物館実習先からの評価 7 0 % (到達目標 1、2、3 を評価) により成績を評価し、総合計 6 0 % 以上を合格とする。

注意事項

真剣に取り組むこと。本科目は博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなくてはならない。

調査等のため学外で授業を行う。

授業計画

1.オリエンテーション

2.事前指導

3.事前指導

4－17. 学外実習

(大原美術館、ライフパーク倉敷科学センター、加計美術館などで実習を行う)

18.事前指導

19.事前指導

20－28. 見学実習

(希望する美術館・博物館を見学する。)

29－30. 総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計45時間

学外実習や見学実習では、実習後に課題レポートを提出するので、よく復習しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 18 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 澤原一志

授業の概要

美術館、博物館の在り方と現状、並びにその場で働く学芸員に必要な知識・技能を、実際の美術館運営の具体的事例に基づいて学ぶことを目的とする。

到達目標

美術館、博物館運営の概要と学芸員の役割について知識を深める。

評価方法

授業に取り組む姿勢（20％）・レポート（80％）で評価する。合計60点以上を合格とする。

注意事項

実際の調査研究のため、学外（美術館）で授業を行うことがある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：講師の来歴を紹介しながらアートに関わる者として必要な知識と情報を身につける講義内容についてオリエンテーリングする
第2回	岡山県のアート事情（その1）－美術館の実態－
第3回	岡山県のアート事情（その2）－百貨店、ギャラリーその周辺－
第4回	岡山県のアート事情（その3）－作家と作品－
第5回	美術業界の実情とアート市場の形成－世界のアート市場－
第6回	美術館・博物館とは、その成立と役割－高梁市成羽美術館の設立から今日まで－
第7回	高梁市成羽美術館の企画展覧会－活動の歴史と学芸員－
第8回	展覧会のづくり方－企画から展示まで－
第9回	展覧会のP R－学芸員の役割－
第10回	展覧会イベントの仕掛け方－フリーディスカッションの中で－
第11回	美術館の教育普及活動－具体的事例を見ながら－
第12回	美術館運営の実例（その1）－高梁市成羽美術館の目標チャートから－
第13回	美術館運営の実例（その2）－美術館を支えるスポンサーづくり－
第14回	今後の美術館・博物館と学芸員の役割
第15回	おわりに

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

美術館や百貨店、ギャラリーなどで開催される展覧会を積極的に観ること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	 磯谷晴弘

授業の概要

これまでに学んできた様々なガラスの技法、制作方法論などから個人の目標とする表現をつかみ出し、発表することや人に見せることを念頭に置いた実際的な制作を行う。

【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。

【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1 制作過程において必要な相互評価、討論を繰り返しながら、完成度の高い作品をつくることができる。

評価方法

作品の制作過程、制作態度、完成作品の評価等総合的に判断する。作品の評価は、80% 制作態度、調査研究20%

注意事項

必要に応じて学外活動をする。作品制作と将来計画（就職等）の関係を考えることも重要なことである。

授業計画

現実的な作品制作を年間を通して行う。

◆目標の設定と計画

◆仮定に基づいた実験

◆結果の検証、実作品の制作、相互評価

以上のことを繰り返し実行する。

毎週制作経過をゼミ形式で討論する。

・公募展への積極的な参加を求める。

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

色々な作家の作品展を見る事も重要である。できるだけ多くの作品や展覧会を見に行く事。個展などに行って作家がいたばあいには、失礼のないように自己紹介した上で、色々質問をして作家としての生き方について学ぶ。

教科書

使用しない。

参考書

公募展の案内や、展覧会の案内などを逐次紹介し解説を加える。

備考

卒業研究（12608）

通年

Undergraduate Research

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	 松岡智子

授業の概要

主として美術史・博物館学領域の卒業研究を指導する。4 年間の学習の総まとめとして、学生が自らテーマを設定して、論文を書く。具体的には、必要な文献収集し、読解し、それにもとづいて考察を行い、結果を論理的な文章にまとめる。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 最低1200字から1600 字程度の学術論文を書き上げることができる。

評価方法

講義に取り組む姿勢(50%)、卒業論文(50%)

注意事項

卒業研究を論文で行うについては、3 年次開講科目「論文指導」を履修済みでなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	テーマの確定指導
第2回	テーマの確定指導
第3回	テーマの確定指導
第4回	既存研究についての調査指導
第5回	既存研究についての調査指導
第6回	既存研究についての調査指導
第7回	既存研究についての調査指導
第8回	研究の方向性や方法の確定指導
第9回	研究の方向性や方法の確定指導
第10回	研究の方向性や方法の確定指導
第11回	文献資料収集指導
第12回	文献資料収集指導
第13回	文献資料収集指導
第14回	文献資料収集指導
第15回	論文の構成確定指導
第16回	論文の構成確定指導
第17回	論文の執筆指導

回数	内容
第18回	論文の執筆指導
第19回	論文の執筆指導
第20回	論文の執筆指導
第21回	論文の執筆指導
第22回	論文の執筆指導
第23回	論文の執筆指導
第24回	論文の執筆指導
第25回	論文の執筆指導
第26回	論文の執筆指導
第27回	論文の執筆指導
第28回	論文の執筆指導
第29回	論文の執筆指導
第30回	論文の執筆指導

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

各学生の資料や文献の収集、読解、論文の執筆はすべて授業外学習。

教科書

使用しない。

参考書

各自にアドバイスする。

備考

卒業研究（12608）

通年

Undergraduate Research

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	👤 近藤千晶

授業の概要

これまで研究してきた自らのコンセプトや技法の集大成として、独自の絵画表現を試み完成させる。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- ①独自のコンセプトを見出し、それに適した表現方法を模索し、独創性や可能性のある平面作品を制作、完成させることができる。
- ②自身の作品を客観的に捉え、コンセプトやそれに伴う表現方法などに関して、説得力のあるプレゼンテーションを行い、合評会において意見を述べることができる。

評価方法

- ①卒業制作作品（コンセプトや表現方法に関する追求の程度、独創性、や、可能性などの評価）8 0 %
- ②研究過程での取り組み姿勢（プレゼンテーション、合評会などで他者に伝えようとする姿勢の評価を含む）2 0 %

注意事項

美術館鑑賞、展覧会鑑賞など学外授業を取り入れ、さまざまな作品を見ることで、自らの制作方向や位置を探りコンセプトを模索する。調査等のため、学外で授業を行うことがある。

授業計画

第1 週

オリエンテーション 年間計画の作成

第2 週～15 週

独自のテーマ、コンセプトの模索、ドローイング、試作（個別面談）油画ゼミ作品展出品作品の制作（途中数回のプレゼンテーション、合評会を行う）

第16 週～18 週

卒業制作作品エスキース（個別面談）

第19 週～30 週

卒業制作作品制作（途中数回のプレゼンテーション、合評会を行う）

・ 2020年11月9日～15日 油画ゼミ学外作品展

授業外学習

学習時間の目安：300時間

- ・後期前半には、油画ゼミ作品展において、卒業制作作品につながる作品を制作、出品する。
- ・ゼミ作品展のギャラリートークなどにおいて、自作のコンセプトや技法の解説を行うことで、自らの制作に関してさらなる追求を深め、卒業制作へと繋げる。

教科書

特に使用しない。

参考書

個別に参考資料を紹介する。

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	 田丸稔

授業の概要

量塊性と構築性および材質感に根ざした彫刻表現を踏まえた上で、ここまでの各自の取り組みを振り返りながら、彫刻作品の制作研究を試みる。すなわち彫刻制作を通して内触覚性に根ざした彫刻表現や制作観とは何かの研究・考察を行う。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 人物等身大に相当するポリウラムの作品を制作することができる。
- 2 彫刻制作を通して各自の4年間の総括を行い、それら考察、制作の過程を記録する。

評価方法

卒業研究作品70%、学外での作品の発表、制作研究の取り組み姿勢等30%

注意事項

授業外学習の成果などについて、レポートの提出を求めることがある。

授業計画

- 1.ここまでの取り組みの振り返り、および総括
- 2.前回を踏まえた卒業研究の取り組み設定
- 3.アイディアスケッチおよび制作意図の考察
- 4.制作意図の確定、目標の設定
- 5.制作の開始（デッサン等イメージの明確化）
- 6.イメージのブラッシュアップ
- 7.芯棒づくり（塑造技法以外の場合はこれに相当する工程以下同）
- 8.粘土の荒付
- 9.土の足し引き、芯棒改良による見直し
- 10.形体の確定
 - 11.土つけ（モデリング）による形体追求
- 12.一次的粘土原型の完成
 - 13.写真撮影等による形体の見直し
- 14.造形の必然性等考察
- 15.二次的モデリングの追求
 - 16.二次的粘土原型の完成
 - 17.二次的写真撮影等による形体の見直し
- 18.石膏による雌型キャストイングの開始
- 19.石膏雌型の型外しおよび土抜き
- 20.石膏および樹脂等中間素材による雄型キャストイング
 - 21.雌型割り出し
 - 22.雄型修正、削り出し等（#40ヤスリによる削り出し）
 - 23.雄型修正、削り出し等（#60ヤスリによる削り出し）
 - 24.雄型修正、削り出し等（#100ヤスリによる削り出し）、および漆等の塗装
 - 25.雄型修正、削り出し等（#400ヤスリによる削り出し）、および塗装乾燥
 - 26.中間素材による雄型原型完成

- 2 7 .卒制展展示に向けた調整
 - 2 8 .卒制展示
 - 2 9 .制作から展示までの総括まとめ
 - 3 0 .レポートおよび作品撮影等資料作成
-

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

県内公募以上の公募展、コンクール等への出品、発表を行うこと。
またはそれに相当する活動を行うこと。

教科書

適宜指示時する。

参考書

適宜指示時する。

備考

卒業研究（12608）

通年

Undergraduate Research

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	 クリスウォルトン

授業の概要

- ・専門分野の諸問題を自ら解決できることを修得する科目として位置付けている。
- ・4 年間で学んだ知識と技術の集大成として、又、今後の制作活動のスタートへの足がかりとなる卒業作品を制作する。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】研究課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 4 年間の集大成として、これまでに習得した自らの表現を元に更に表現技法などを分析できる。
- 2 テーマ、コンセプト、方法、プレゼンテーション、等、について独創的な研究ができる。

評価方法

制作への積極性と前期の中間発表をふまえた後期最終発表を総合的に判断して評価する。
最終成果物70%、授業に取り組む姿勢30%で評価する。

注意事項

前期発表、中間審査会及び後期最終審査会など発表の機会には必ず参加し発表すること。
調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

回数	内容
第1回	導入：各学生の制関心の高いテーマのヒヤリングと相談
第2回	導入：各学生の制関心の高いテーマのヒヤリングと相談
第3回	構想：テーマとコンセプトの設定
第4回	構想：テーマとコンセプトの設定
第5回	計画：テーマ、コンセプト、方法、表現形式、表現内容、素材、等を計画書にまとめ、プレゼンテーションの準備
第6回	計画：テーマ、コンセプト、方法、表現形式、表現内容、素材、等を計画書にまとめ、プレゼンテーションの準備
第7回	プレゼンテーション1【テーマ発表・審査】
第8回	構想：アイデアスケッチ、ドローイングによるビジョンとイメージの明確化、企画の言語化
第9回	構想：スタディ・モデルとサンプルによるビジョンとイメージの明確化、企画の言語化
第10回	プレゼンテーションー1：アイデアスケッチ、ドローイング、プロトタイプとパワーポイントによる発表
第11回	プレゼンテーションー2：アイデアスケッチ、ドローイング、プロトタイプとパワーポイントによる発表
第12回	構想4：プロトタイプからの具体的表現の研究と試作品の確認と発表
第13回	構想4：プロトタイプからの具体的表現の研究と試作品の確認と発表
第14回	構想4：プロトタイプからの具体的表現の研究と試作品の確認と発表
第15回	プレゼンテーション2【中間発表・審査】
第16回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる

回数	内容
第17回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる
第18回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる
第19回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる
第20回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる
第21回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる
第22回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる
第23回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる
第24回	卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる
第25回	最終審査準備：仕上げ
第26回	プレゼンテーション3【最終発表・審査】
第27回	カタログ掲載用の撮影をおこなう
第28回	完成作品の卒業研究制作展に出品
第29回	完成作品の提出
第30回	総復習、まとめ

授業外学習

毎週行われるゼミにて、前週からの研究内容、問題点、次週までの計画を報告する。

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

卒業研究（12608）

通年

Undergraduate Research

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	 井上昌崇

授業の概要

これまでの知識や経験をもとに、自らの制作スタイルと向き合った作品制作を考察する。
前半（前期）に形状やデザイン、実験を進め、前半終了時に作品講評を行い、後半（後期）の制作予定を立てる。後半は再度作品の構成等の確認を行う。

到達目標

- 1 これまでの学習をもとに、今まで制作したことのない作品制作に取り組むことができる。
- 2 これまでに修得したモノを更に追求し作品の完成度を向上する。

評価方法

卒業作品 1 0 0 %

注意事項

計画を立てて制作をする
調査等のため学外に出て授業を行う。

授業計画

- (1) 卒業作品の考察
- (2) 卒業作品の考察
- (3) 卒業作品の考察
- (4) 卒業作品の構想説明、ミニチュア(1)
- (5) 卒業作品の構想説明、ミニチュア(2)
- (6) ミニチュアからのディスカッション
- (7) ミニチュアからのディスカッション
- (8) ミニチュアの再構成
- (9) ミニチュアの再構成
- (10)卒業作品の制作
- (11)卒業作品の制作
- (12)卒業作品の制作
- (13)卒業作品の制作
- (14)卒業作品の制作
- (15)中間作品講評会
- (16)卒業作品の制作
- (17)卒業作品の制作
- (18)卒業作品の制作
- (19)卒業作品の制作
- (20)卒業作品の制作
- (21)卒業作品の確認
- (22)卒業作品の制作
- (23)卒業作品の制作
- (24)卒業作品の制作
- (25)卒業作品の制作
- (26)卒業作品の制作

(27)卒業作品の制作
(28)卒業作品の制作
(29)卒業作品の制作
(30)作品講評会

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

作品制作に必要な資料を探す。

既存の原料だけでなく、自らの制作に必要な原料は実験などによって、自ら製造する。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて資料を配付

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	五十嵐英之

授業の概要

これまで研究してきた自らの表現等について、独自のコンセプト・表現技法などを分析する。
作品や美術活動が社会に及ぼす影響、独自性の確立、専門性の高さなどについて考察する。
次世代の表現者として卒業後の自らの活動を展望できる作品を完成させる。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 作品のテーマを自ら説明できる。
- 2 表現と技法に関する考え方を整理して文章化する。
- 3 卒業制作展の出品作品を計画的に完成させ、期限内に提出する。

評価方法

制作プロセスにおける研究内容20%
完成作品80%

注意事項

美術館での作品展示も課題として位置づけられている。
展示準備も課題のひとつとして取り組む。
調査等のため学外に出て授業を行う。

授業計画

- 1週目：これまでの作品のポートフォリオを作成。
- 2週目：作品の分析これまで制作してきた作品の展開について。
- 3週目：自己の作品が受けた影響について、分析する。
- 4週目：作品制作計画の作成 コンセプト、素材、製作期間、展示計画
- 5週目：作品制作／研究(1) ディスカッション
- 6週目：作品制作／研究(2) ディスカッション
- 7週目：作品制作／研究(3) ディスカッション
- 8週目：作品制作／研究(4) ディスカッション
- 9週目：講評会(1)
- 10週目：作品制作計画の見直し コンセプト、素材、製作期間、展示計画。
- 11週目：作品制作A(1) ディスカッション
- 12週目：作品制作A(2) ディスカッション
- 13週目：作品制作A(3) ディスカッション
- 14週目：作品制作A(4) ディスカッション
- 15週目：講評会(2)
- 16週目：4 年次の作品のポートフォリオ作成。
- 17週目：作品制作計画の見直し コンセプト、素材、製作期間、展示計画。
- 18週目：作品制作B(1) ディスカッション
- 19週目：作品制作B(2) ディスカッション
- 20週目：作品制作B(3) ディスカッション
- 21週目：作品制作B(4) ディスカッション

22週目：講評会(3)

23週目：作品制作C(1) ディスカッション

24週目：作品制作C(2) ディスカッション

25週目：作品制作C(3) ディスカッション

26週目：作品制作C(4) ディスカッション

27週目：作品ポートフォリオの完成：作品の背景と今後の展望について。

28週目：作品制作に関して：コンセプト、素材、展示計画、今後の展開。

29週目：作品の展示計画 展示する方法、展示に必要な材料。

30週目：講評会(4)

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

自己の作品と歴史的作品・他者の作品との関連について研究するため展覧会を鑑賞する。

素材等の調査のため、企業等にでかけ情報収集をおこなう。

教科書

『遠くの画布 近くの絵』中西夏之×五十嵐英之

参考書

各種の資料を紹介し、パワーポイントで説明する。

備考

卒業研究（12608）

通年

Undergraduate Research

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	👤 張慶南

授業の概要

将来にわたって制作活動が継続できるよう知識、技術を習得する。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 卒業制作がオリジナル性を持ち、自分の作品について説明が出来る。

評価方法

授業に取り組む姿勢等 2 0 %、作品の評価 8 0 %

注意事項

怪我なく健康に気をつける。（防塵マスク、革手袋、眼鏡を持参）
調査等のため学外に出て授業を行う。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業制作展を考えた計画を立てる。（吹場を使用する）
- 第3回 これまでの研究作品を基本にし、卒業制作品の方向性で自分探りのidea sketchする。（吹場を使用する）
- 第4回 これまでの研究作品を基本にし、卒業制作品の方向性で自分探りのidea sketchする。（吹場を使用する）
- 第5回 課題のidea sketchを持って話をする。（吹場を使用する）
- 第6回 課題のidea sketchを持って話をする。（吹場を使用する）
- 第7回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第8回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第9回 プレゼンテーション（吹場を使用する）
- 第10回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第11回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第12回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第13回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第14回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第15回 プレゼンテーションによる講評会
- 第16回 オリエンテーション
- 第17回 卒業制作の計画を立てる。（吹場を使用する）
- 第18回 卒業制作作品のidea sketch をする。（吹場を使用する）
- 第19回 卒業制作作品のidea sketch をする。（吹場を使用する）
- 第20回 idea sketchを持って話をする。（吹場を使用する）
- 第21回 idea sketchを持って話をする。（吹場を使用する）
- 第22回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第23回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第24回 プレゼンテーション、話をする。（吹場を使用する）
- 第25回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第26回 制作をする。（吹場を使用する）
- 第27回 制作をする。（吹場を使用する）

第28回 プレゼンテーション、講評会（吹場を使用する）
第29回 卒業制作展（吹場を使用する）
第30回 まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

様々な展覧会や工房等を見学する。

教科書

使用しない。

参考書

適宜案内する。

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	柳田宏治

授業の概要

- ・専門分野の諸問題を自ら解決できることを修得する科目として位置付けている。
- ・4年間の学修の集大成として、プロダクトデザインの領域において自由にテーマや方法などを設定してデザイン研究をおこなう。
- ・【アクティブラーニング】問題解決学習、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
- ・【フィードバック】研究課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 各自が設定したテーマについて、自ら研究計画を立てて研究を行い成果をまとめることができる。
- 2 プロダクトデザイン分野の知識を深めこれを応用して自ら実践できる。

評価方法

最終成果物70%、授業に取り組む姿勢30%で評価する。

注意事項

- ・最終発表会および他に求められる発表の機会には必ず参加し発表すること。
- ・調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 1.テーマ探索1：調査
- 2.テーマ探索2：構想
- 3.テーマ探索3：発表
- 4.研究計画1：研究計画書
- 5.研究計画2：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得
- 6.研究計画3：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得
- 7.研究計画4：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得
- 8.研究計画5：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得
- 9.研究計画6：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得
- 10.プレゼンテーション1【テーマ発表・審査】
- 11.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（ユーザー理解、要求抽出、デザイン解創出）
- 12.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（ユーザー理解、要求抽出、デザイン解創出）
- 13.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（ユーザー理解、要求抽出、デザイン解創出）
- 14.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（ユーザー理解、要求抽出、デザイン解創出）
- 15.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（ユーザー理解、要求抽出、デザイン解創出）
- 16.プレゼンテーション2【中間発表・審査】
- 17.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 18.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 19.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 20.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 21.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 22.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 23.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 24.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 25.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）
- 26.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）

27.人間中心設計プロセスに基づく取り組み（評価と再設計の繰り返し）

28.プレゼンテーション3【最終発表・審査】

29.卒業制作展への出展

30.総括

授業外学習

- ・毎週行われるゼミにて、前週からの研究内容、問題点、次週までの計画を報告する。
 - ・学習時間の目安：合計300時間
-

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	 吉田磨希

授業の概要

4 年間で学んだ知識と技術の集大成として、又、今後の制作活動のスタートへの足がかりとなる卒業作品を制作する。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 4 年間の集大成として、イラストレーションにおいて、これまでに習得した自らの表現を元に更に表現技法などを分析し、テーマ、コンセプト、方法、プレゼンテーション、等、について、独創的な研究ができる。
- 2 作品1 点の提出ができる。

評価方法

制作への積極性と前期の中間発表をふまえた後期最終発表を総合的に判断して評価する。
最終成果物70%、授業に取り組む姿勢30%で評価する。

注意事項

分野のゼミ会、前期発表、中間審査会及び後期最終審査会など発表の機会には必ず参加し発表すること。
調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 1週目：導入：各学生の制関心の高いテーマのヒヤリングと相談
- 2週目：導入：各学生の制関心の高いテーマのヒヤリングと相談
- 3週目：構想 1：テーマとコンセプトの設定
- 4週目：構想 1：テーマとコンセプトの設定
- 5週目：計画：テーマ、コンセプト、方法、表現形式、表現内容、素材、等を計画書にまとめ、プレゼンテーションの準備をする。
- 6週目：計画：テーマ、コンセプト、方法、表現形式、表現内容、素材、等を計画書にまとめ、プレゼンテーションの準備をする。
- 7週目：構想 2：アイデアスケッチ、ドローイングによるビジョンとイメージの明確化、企画の言語化
- 8週目：構想 2：アイデアスケッチ、ドローイングによるビジョンとイメージの明確化、企画の言語化
- 9週目：構想 2：アイデアスケッチ、ドローイングによるビジョンとイメージの明確化、企画の言語化
- 10週目：プレゼンテーション－ 1：アイデアスケッチ、ドローイング、プロトタイプとパワーポイントによる発表
- 11週目：プレゼンテーション－ 1：アイデアスケッチ、ドローイング、プロトタイプとパワーポイントによる発表
- 12週目：構想4：プロトタイプからの具体的表現の研究と試作品の確認と発表
- 13週目：構想4：プロトタイプからの具体的表現の研究と試作品の確認と発表
- 14週目：構想4：プロトタイプからの具体的表現の研究と試作品の確認と発表
- 15週目：プレゼンテーション－ 2（中間報告）：テーマ、コンセプトボード、スタディ・モデルとサンプルによる発表
- 16週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
- 17週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
- 18週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
- 19週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
- 20週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
- 21週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
- 22週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
- 23週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
- 24週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。

25週目：卒業研究の研究の成果の充実と表現形式、表現内容、方法、素材、等についての研鑽をはかる。
26週目：最終審査準備：仕上げ
27週目：最終審査、カタログ掲載用の撮影をおこなう。
28週目：完成作品の卒業研究制作展に出品
29週目：完成作品の提出
30週目：総括

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

毎週行われるゼミにて、前週からの研究内容、問題点、次週までの計画を報告する。

教科書

使用しない。

参考書

適宜使用する。

備考

卒業研究（12608）

通年

Undergraduate Research

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	森山知己

授業の概要

研究してきた自らの方法論や技法の集大成として、独自の絵画表現を試み完成させる。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 独自の方法論を組み立て、その実現に必要な表現材料・手法の選択を行い、未来に向けて魅力や可能性を感じさせる平面作品を制作する。

評価方法

卒業制作作品80%、研究過程での取り組み20%

注意事項

美術館鑑賞、展覧会鑑賞など学外授業を取り入れ、さまざまな作品を見ることで、自らの位置を探りコンセプトを模索する。
必要に応じて学外活動を行う。

授業計画

第1 週

オリエンテーション 年間計画の作成

第2 週～15 週

独自のテーマ、コンセプトの模索、ドローイング、試作（個別面談を適時行う）

第16 週～18 週

卒業制作作品エスキース（個別面談）

第19 週～30 週

卒業制作作品制作（途中数回の合評会を行う）

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

美術館の収蔵作品・展覧会作品等を題材とし、その素材や技法の分析を行い、自己の作品に反映させる研究を行う。

教科書

特に使用しない。

参考書

個別に参考資料を紹介する。

備考

卒業研究（12608）

通年

Undergraduate Research

芸術学部 デザイン芸術学科

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	 川上幸之介

授業の概要

卒業研究では、今まで培った技術、知性、感性を相互に関連させ、これまでの作品の展開の跡付けと現在までの到達点を明らかにし、さらに向上させることを目的とする。芸術の歴史の延長に自己の作品を認識し、現代アートと今日の社会を結ぶ要素を点検しながら、自身の作品をさまざまな角度から再検討する。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 上掲の授業の概要・目的を参考にして、卒業制作展に向け、学生各自が主体的に設定できる。

評価方法

作品 8 0 % スケッチブック、リフレクティブジャーナル、アーカイブファイル 2 0 %

注意事項

調査等のため学外で授業を行う。

授業計画

主に、
修了展に向けての検討（リフレクティブジャーナル、アーカイブ、スケッチブック）
作品制作計画の立案
オブジェクトマターとサブジェクトマター
制作指導 作品の分析
制作指導 ディスカッション
講評会

グループクリット、チュートリアルを主な授業形態とするために、学生個人に合わせて授業展開を行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

自主的に展覧会を調査すること。

教科書

なし

参考書

なし

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	👤 後藤秀典

授業の概要

グラフィックデザイン分野において、4 年間の集大成として自由にテーマや方法などを設定しデザイン研究をおこなう。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】作品に対する講評についてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. グラフィックデザイン分野の知識を深め実践力を身につけることができる。
2. グラフィックデザイン分野に関する技術力、構成力、表現力を身につける。
3. 各自が設定したテーマについて、自ら研究計画を立てて研究をおこない成果をまとめることができる。
4. 総合的なデザイン芸術の応用的知識及び技能を身につけ、専門分野の諸問題を自ら解決できる。

評価方法

最終成果物70%、授業に取り組む姿勢30%で評価する。

注意事項

最終発表会および他に求められる発表の機会には必ず参加し発表すること。
調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

テーマ探索 1：調査

テーマ探索 2：構想

テーマ探索 3：発表

研究計画 1：研究計画書

研究計画 2：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得

研究計画 3：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得

研究計画 4：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得

研究計画 5：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得

研究計画 6：テーマ調査、研究プロセスの検討、手法の修得

プレゼンテーション 1 【テーマ発表・審査】

デザイン仮説制作 1

デザイン仮説制作 2

デザイン仮説制作 3

デザイン仮説制作 4

デザイン仮説制作 5

プレゼンテーション 2 【中間発表・審査】

デザイン制作 1（評価と再デザインの繰り返し）

デザイン制作 2（評価と再デザインの繰り返し）

デザイン制作 3（評価と再デザインの繰り返し）

デザイン制作 4（評価と再デザインの繰り返し）

デザイン制作 5（評価と再デザインの繰り返し）

デザイン制作 6（評価と再デザインの繰り返し）

デザイン制作 7（評価と再デザインの繰り返し）

デザイン制作8（評価と再デザインの繰り返し）
デザイン制作9（評価と再デザインの繰り返し）
デザイン制作10（評価と再デザインの繰り返し）
デザイン制作11（評価と再デザインの繰り返し）
プレゼンテーション3【最終発表・審査】
卒業制作展への出品
総括

授業外学習

学習時間の目安：合計300時間

毎週行われるゼミにて、前週からの研究内容、問題点、次週までの計画を報告する。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 18 N
単位数	1 0 . 0 単位
担当教員	 正宗幸子

授業の概要

- ・ 専門分野の諸問題を自ら解決できることを修得する科目として位置付けている。
- ・ 4 年間の学修の集大成として、ファッションデザインまたはテキスタイルデザインの領域において自由にテーマや方法などを設定してデザイン研究をおこなう。

- 【アクティブラーニング】自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。
- 【フィードバック】研究課題の講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 各自が設定したテーマについて、自ら研究計画を立てて研究を行い成果をまとめることができる。
- 2 ファッションデザインまたはテキスタイルデザイン分野の知識を深めこれを応用して自ら実践できる。

評価方法

最終成果物70%、授業に取り組む姿勢30%で評価する。

注意事項

- ・ 最終発表会および他に求められる発表の機会には必ず参加し発表すること。
- ・ 調査等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 1.テーマ探索 1：調査
- 2.テーマ探索 2：構想
- 3.テーマ探索 3：発表
- 4.研究計画 1：研究計画書
- 5.研究計画 2：テーマ調査、研究プロセスの検討、技法の修得
- 6.研究計画 3：テーマ調査、研究プロセスの検討、技法の修得
- 7.研究計画 4：テーマ調査、研究プロセスの検討、技法の修得
- 8.研究計画 5：テーマ調査、研究プロセスの検討、技法の修得
- 9.研究計画 6：テーマ調査、研究プロセスの検討、技法の修得
- 10.プレゼンテーション 1【テーマ発表・審査】
- 11.制作（コンセプト策定、アイデア展開）
- 12.制作（コンセプト策定、アイデア展開）
- 13.制作（コンセプト策定、アイデア展開）
- 14.制作（基本要素制作）
- 15.制作（基本要素制作）
- 16.プレゼンテーション 2【中間発表・審査】
- 17.制作（最終提案物）
- 18.制作（最終提案物）
- 19.制作（最終提案物）
- 20.制作（最終提案物）
- 21.制作（最終提案物）
- 22.制作（最終提案物）
- 23.制作（最終提案物）
- 24.制作（最終提案物）

- 25.制作（展開）
 - 26.制作（展開）
 - 27.制作（展開）
 - 28.プレゼンテーション3【最終発表・審査】
 - 29.卒業制作展への出展
 - 30.総括
-

授業外学習

- ・毎週行われるゼミにて、前週からの研究内容、問題点、次週までの計画を報告する。
 - ・学習時間の目安：合計300時間
-

教科書

使用しない。適宣資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考